

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

一般国道9号は京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約750kmで、山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。この内、静間～仁摩間の現道は急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が発生しやすい区間である。また代替道路がなく、交通事故や災害により通行止めとなつた場合は、大幅な迂回が必要となるなど地域の経済活動に大きな支障をきたしていた。こうした問題を解決するため、島根県大田市静間町から大田市仁摩町大国に至る延長7.9kmを結ぶ自動車専用道路が計画され、平成20年度から『静間・仁摩道路』として事業着手されている。

この計画に先立ち、国土交通省から島根県教育委員会に対して計画地内の埋蔵文化財について照会があり、平成16・17年度に最初の分布調査を実施した。その後、平成18年2月、平成22年2月にも分布調査を実施した。島根県教育委員会では、平成22年5月25日付けで、本線予定地内に8遺跡と4カ所の要注意箇所が存在することを回答している。平成23年度末には工事用道路の分布調査を行い、これについては、平成24年4月9日付けで回答した。

これらの結果を受けて、国土交通省と島根県教育委員会の間で適宜協議が行われ、予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年3月26日付け国中整松一官第248号で文化財保護法第94条第1項の規定による通知が文化庁長官あてに提出された。これに対し、平成25年3月26日付け島教文財第11号の62で、島根県教育委員会教育長から10遺跡について記録保存のための発掘調査の実施が勧告された。

この間の平成21年5月には、静間仁摩道路の計画線に近い大田市五十石町に所在する鳴滝山鉛鉱山跡について、世界遺産である石見銀山の操業に関わる鉛鉱山である可能性があることから、同年7月に現地協議を行った。平成23年3月の分布調査の結果、坑道そのものは事業地内に含まれていないことを確認した。事業地内に所在する坑道に至る古道及び、そこから枝分かれする通称「御大師山古道」については、平成25年8月19日付け国中整松調設第50号で文化財保護法第94条第1項の通知があり、平成25年8月20日付け島教文財第15の35で発掘調査を実施するよう勧告がなされた。平成25年9月に鳴滝山鉛鉱山古道と御大師山古道周辺の測量と発掘調査を行つた。

静間仁摩道路と仁摩温泉津道路の接点で仁摩・石見銀山インターチェンジに隣接する大田市仁摩町大国地内には庵寺石塔と呼ばれる岩窟があり、宝筐印塔などが納められている。この遺跡は、平成14年3月の分布調査で確認されていたが、平成15年7月に仁摩温泉津道路に関係して県教育長から国土交通省へ回答した際には、仁摩温泉津道路建設予定地内には含まれていないと認識されていた。その後、平成19年7月に『石見銀山遺跡とその文化的景観』が世界遺産に登録されると、この付近は世界遺産のバッファゾーンとなった。庵寺石塔内に安置された宝筐印塔は、元禄二(1688)年銘がある福光石製石塔で、保存状態がよく、紀年銘があることから石見銀山にある同型式の石塔類研究の基準資料となるもので、貴重なものとされた。この石塔群の保存について、平成22年10月の取り扱い協議では、「静間仁摩道路」に事業地内に含まれることを確認されたため、島根県教育委員会から国土交通省に対し重要性を説明。同月、大田市石見銀山課が国土交通省に対し、「石見銀山景観保全条例」との調整について協議を行つた。これを受け、国土交通省では工

法変更により岩窟付近を保存することとしたが、工事の影響を受ける岩窟前面のテラス部分については遺構の広がりを確認する必要が生じたため、発掘調査を行うこととなった。

静間仁摩道路建設予定地内の試掘確認調査は、平成24年度の古屋敷遺跡を最初に、平成25年10月に大田市五十猛町地内で、平成26年7月から12月には大国地頭所遺跡など6カ所で実施した。その結果、平成27年度は静間町及び仁摩町地内で7カ所の試掘確認調査を実施した。垂水遺跡、松林寺遺跡、大国地頭所遺跡、庵寺石塔群（テラス部分）の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の経過

古屋敷遺跡は、大田市仁摩町大国に所在する。潮川の左岸、河口から約3km上流に位置し、発掘前は標高8.7～8.8mの水田地帯であった。遺跡の南には庵寺古墳群の所在する丘陵（標高50～80m）、潮川対岸の北には、大国地頭所遺跡、東には石見城跡が所在する。

平成6～9（1994～1997）年度に旧仁摩町教育委員会により五丁地区県営農地環境整備事業に伴う発掘調査が実施され、この中で平成7・8（1995・1996）年度に古屋敷遺跡の発掘調査が実施された。この時の調査では、弥生時代の土坑、中世の建物跡、石組みを伴う近世の建物跡や弥生時代以降の遺物が確認された。平成24年度に、静間仁摩道路建設予定地内の確認調査のため、35箇所でトレンチ調査を実施したところ、縄文土器、弥生土器など大量の遺物が確認された。この調査により8,900mlが発掘調査の対象となり、平成25～27（2013～2015）年度の3カ年で調査区をA区～G区の7区分して調査することになった。調査の結果、弥生時代の水田跡、水路跡、縄文時代晩期の木棺墓、河道跡などの遺構や縄文時代後期から弥生時代前期にかけての大量の遺物が確認された。

本書では平成25年度に調査した古屋敷遺跡A区と平成26年度に調査した古屋敷遺跡E区について調査の経過を説明する。

平成25年度調査を実施したA区では、6月17日から第2層の調査を開始した。調査区北端を中心に遺構を検出した。

7月3日に第2層上面の調査と並行しながら、第2層を掘削して、第3層の調査を開始した。第3層の調査と並行しながら、7月25日に下層の状況の確認のためサブトレンチで、標高7.2m付近の暗茶褐色粘質土（土器だまり1）から、彩文土器片が出土した。

8月23日から調査区を拡張して調査を実施した。（グリッドL4～L7、M7、N7）。8月28日に從来の調査区の第3層の調査をほぼ終了して、拡張区2層上面の調査開始した。

9月30日に調査区北端付近で、木棺墓（SK2）を検出した。

木棺墓検出に伴う調査指導を数回実施した。10月22日に、及川穰氏、10月24日に中村健二氏の指導を受けた。

11月6日に、縄文時代晩期の木棺墓検出及び現地説明会開催の記者発表を実施して、11月9日に古屋敷遺跡の現地説明会を実施した。

11月18日から3層で検出した木棺墓部分を残して7層上面の調査を開始した。11月20日に、山田康弘氏、濱田竜彦氏の調査指導を受けた。

11月21日に、12月3日に木棺墓から骨が出土した。

12月10日に、松下孝幸氏、松下真実氏の指導を受け木棺墓出土骨の取り上げを実施した。

12月16日に土器だまり2の調査を開始した。12月23日に木棺墓の調査を終了した。

平成26年1月に渡邉正巳氏に、自然科学調査のサンプリングを委託した。1月21日に中村唯史氏の指導を受け、現地での調査を終了した。

平成26年度に調査を実施したE区では、6月3日から調査を開始した。

6月13日から石組遺構部分の落ち込みの掘削を開始して、6月17日に水路遺構を検出した。

6月18日から第8層の掘削を開始して、6月25日に河道跡を検出した。

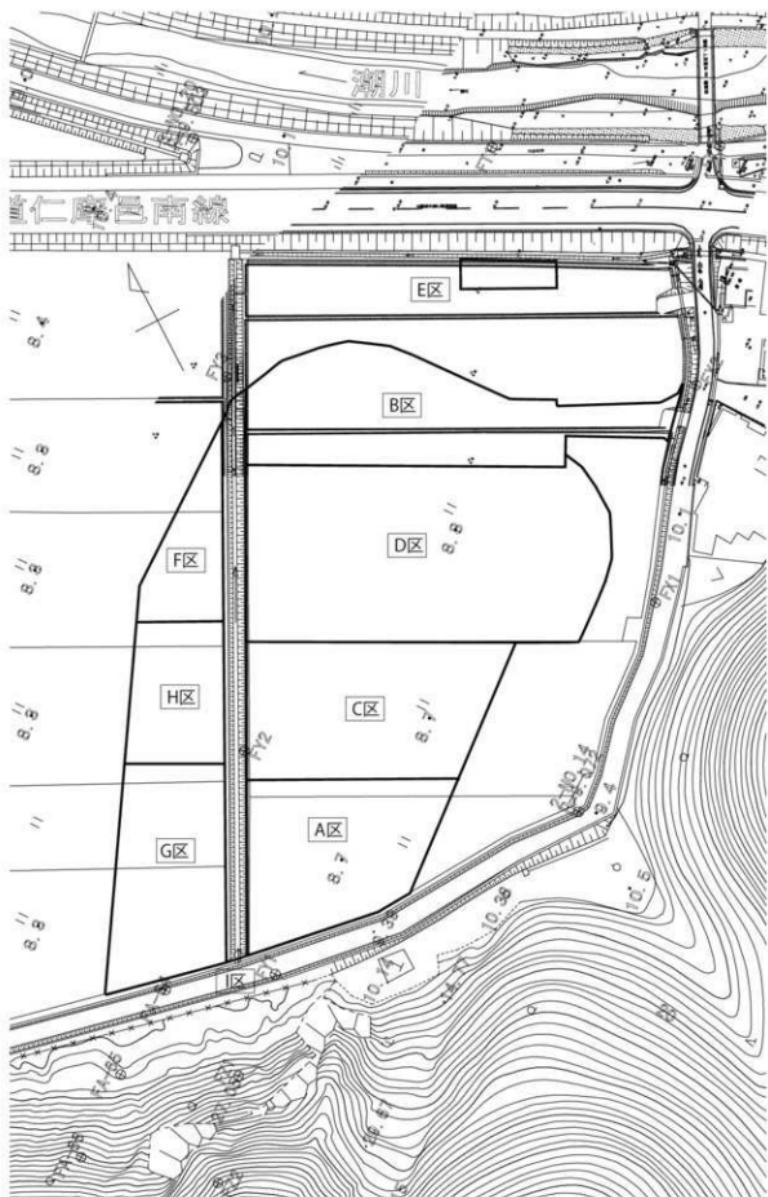
7月1日に河道跡を完掘した。7月2日から下層（第12～15層）の掘削を開始した。限られた調査区なので、掘り下げる範囲を小さくしながら、7月7日に標高6.7mまで掘り下げて掘削を終了した。

7月8日に測量を終了して、E区の現地調査を終了した。

第3節 調査区の設定

1. 調査区の設定

平成25年度に古屋敷遺跡の発掘調査を開始するにあたり、調査実施箇所の区割り及び調査区名の設定、グリッドの設定を行った。排水路、水田畦畔や道路工事の施工位置などにより調査区を区切り、調査順番ごとにA～Gまでのアルファベット順に各調査区名を決定した。その後は年度ごとに設定し平成25年度に古屋敷遺跡（A・B区）、平成26年度に古屋敷遺跡（C・D・E・F区）、を、平成27年度には古屋敷遺跡の残された部分（G・H・I区）の発掘調査を行った。年度ごとの調査順については、調査実施上の都合と、道路建設上の都合を考慮して、国土交通省と協議して決定した。また平成25年度の調査開始当初から各年度・調査区とも共通した1辺10mのグリッドを設定し、各グリッドは調査区北西側に起点に南北方向にアルファベットを、東西方向に数字を割り振って、A1、A2・・・と呼称することとした。



第1図 古屋敷遺跡調査区配置図

第2章 古屋敷遺跡の位置と歴史的環境

第1節 古屋敷遺跡の位置と地理的環境

かつて石見国であった島根県西部は中国山地から伸びる丘陵が日本海に迫り、深い入り江となつたリアス海岸と、その間に開けた平野や砂丘が交錯する変化に富んだ景観となっている。この内、古屋敷遺跡の位置する大田市仁摩町は、石見東部にあたり、北に大田市五十石町、南に大田市温泉津町、東には世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』の中心である大田市大森町に接している。この内大田市仁摩町大國地区は、大田市仁摩町冠方面から大きく蛇行して日本海に注ぐ潮川の下流部にあたり、狭い山間を抜けた潮川が仁万平野に抜け出て急に開ける場所に当たる。古屋敷遺跡は、大田市大森町方向から西に流れる潮川が運んだ土砂によって形成された平野の東奥に位置しており、周囲の標高は約9m、日本海からは東へ約2.2kmの位置にある。

遺跡の南側にある丘陵尾根上には平成24年までに発掘調査が行われた庵寺古墳群があったが、現在では仁摩温泉津道路の石見銀山・仁摩インターチェンジとなっている。南には、遺跡に接して、元禄2(1688)年銘のある宝筐印塔などを納めた岩窟があり、庵寺石塔群と呼ばれている。また、この庵寺と呼ばれた寺が、遺跡南東側の丘陵にあつたらしい。遺跡の北東には標高153mの竜富山があり、山頂の周囲は、石見城跡として世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』に含まれている。

仁摩町付近では、海岸線が南北方向に続いており、西に日本海が広がっている。よって、国道9号線・JR山陰本線は北へ向かうと出雲・松江方面、南に向かうと津江・浜田方面に向かうことになる。

第2節 古屋敷遺跡周辺の歴史的環境遺構

旧石器・縄文時代 大田市仁摩町周辺では旧石器時代の遺跡は知られていない。

久根ヶ曾根遺跡(52)、鳥居原遺跡(55)、仁万大橋遺跡(24)などで縄文前期にさかのぼる土器が出土している。中期・後期になると川向遺跡(26)や坂灘遺跡(29)の他、古屋敷遺跡にも近い五丁遺跡(8)など、次第に遺跡数が増加する。縄文晩期の突帯文土器の時期になると庵寺遺跡(6)、千後田遺跡(14)などで土器の出土が知られようになる。これらの遺跡は、いずれも仁万平野縁辺の低湿地や海岸近くの砂丘にあり、当時、入り込んでいた入り海の周囲に縄文人の生活環境が広がっていたことが想像される。三瓶山北麓では三瓶小豆原埋没林が発見されており、炭化木片について 4310 ± 80 BPの年代が測定され、この頃に三瓶山の大規模な噴火があったことが推定されているが、仁摩町周辺は三瓶



第2図 古屋敷遺跡の位置



1 古屋敷遺跡	2 大国地頭所遺跡	3 松林寺遺跡	4 庵寺石塔群
5 庵寺古墳群	6 庵寺遺跡	7 於才追遺跡	8 五丁遺跡
9 孫四田遺跡	10 大月遺跡	11 コラスミ遺跡	12 ヒヨトリケ市遺跡
13 京円原遺跡	14 千後田遺跡	15 入石遺跡	16 清石遺跡
17 白石遺跡	18 千人塚遺跡	19 榆／木谷横穴群	20 榆／木遺跡
21 安養寺古墳群	22 飯田遺跡	23 善興寺橋遺跡	24 仁万大橋遺跡
25 中配前遺跡	26 川向遺跡	27 昆沙門塚古墳	28 昆沙門遺跡
29 坂瀬遺跡	30 坂瀬古墳	31 矢追屋横穴群	32 田尻遺跡
33 蔦田遺跡	34 大井手遺跡	35 大寺遺跡	36 高浜遺跡
37 明神古墳	38 墓原遺跡	39 打落し遺跡	40 立平浜遺跡
41 赤崎山横穴群	42 宝隆寺裏古墳群	43 石見城跡	44 志源寺遺跡
45 大国城跡	46 天垣内城跡	47 横屋前遺跡	48 白石上屋敷遺跡
49 半城跡	50 ナメラ追遺跡	51 狐城跡	52 久根ヶ曾根遺跡
53 琴ヶ浜遺跡	54 烏居原古墳	55 烏居原遺跡	56 虹ヶ谷城跡
57 茶臼山城跡	58 駒岩遺跡		

第3図 古屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡

山の北西に当たるため噴出物等はほとんど見られない。

弥生時代 園場整備に伴って旧仁摩町が発掘調査を行った古屋敷遺跡からは、多量の前期の土器とともに複数の土壤が検出されている。古屋敷遺跡に隣接する五丁遺跡(8)や庵寺遺跡(6)でも、縄文晚期から弥生前期に流れていたと見られる自然流路が見られ、庵寺遺跡では34点もの田下駄を始め木製品が出土している。川向遺跡(26)では円形に配された杭列遺構を始め、前・中期の土器・石器・木製品など多くの遺物が出土している。

庵寺古墳群(5)では、仁万平野を見下ろす丘陵上で弥生後期の短期間に營まれた複数の加工段が発見され、いわゆる高地性集落として注目される。楡ノ木遺跡(20)からは後期の竪穴建物跡が検出された。この他、同時期の遺跡としては大寺遺跡(35)、孫四田遺跡(9)などがあり、仁万平野周辺の縁辺部に遺跡が点在している。

古墳時代 仁万平野を望む位置に築かれた安養寺1号墳は12×8mの方墳で、箱式石棺をはじめ、4基の主体部を備える。安養寺古墳群(21)や坂灘遺跡(29)からは壺棺と見られる大型の土師器壺が出土している。坂灘古墳では、石を2~3段に積み上げた床面に石を敷いた箱式石棺が明らかになっており、人骨や鹿角装刀子が出土している。また、古屋敷遺跡を見下ろす庵寺古墳群(5)^(註1)でも、八禽鏡が出土した1B号墳など複数の古墳が前期に遡ることが確認された。

古墳時代後期になると、明神古墳(37)、鳥居原古墳(54)を始め、五十猛の赤井穴ヶ迫古墳^(註2)など、小平野ごとに有力な古墳が築かれるようになる。庵寺古墳群でも、横穴式石室を持つ1A号墳が築かれるなど各地で横穴式石室が見られるようになる。この内、明神古墳は全長10.1mの大型な横穴式石室に家形石棺を納め、金銅装円頭大刀や銅碗など優れた副葬品を持っていましたことが知られ、鳥居原古墳でも双龍環頭大刀など優れた遺物が出土した。五十猛町の赤井穴ヶ迫古墳は石見地方では唯一の切石製横穴式石室を持つ古墳で、海上交通を介した出雲地方などの交流をうかがわせる。また、楡ノ木谷横穴群(19)、矢追屋横穴群(31)、赤崎山横穴群(41)など横穴墓也非常に多く知られる地域となっている。一方、大寺遺跡(35)・蔽田遺跡(33)など古墳時代の遺物が出土する遺跡は少なくないが、住居跡を伴う集落の発見は少ない。

古代 この付近は、「和名類從抄」では邇摩郡大国郷に含まれると思われ、近隣には託農郷がある。また、「延喜式」に見える石見国には波祢、詫濃、楠道、江東、江西、伊甘の6郷家があつたとされている。古代山陰道の位置は判明していないが、託農駅が現在の大田市仁摩町宅野付近であれば、比較的近くを山陰道が通っていた可能性がある。近隣での古代の遺跡の様相は明らかでないが、大田市温泉津町の中祖遺跡では古代の瓦が葺かれた建物跡が発見された。また、大田市水上町の白坪遺跡からは「延喜九(909)年」と記された木簡が出土し、末端官衙の可能性が指摘されている。近隣では、五丁遺跡(8)で条里制の畦畔が検出されている。

中世・近世 平安時代末～鎌倉時代の遺跡には白石遺跡(17)などがある。多数の掘建柱建物跡の他、白磁・青磁などの貿易陶磁が出土した。

大永七年、石見銀山の再発見され、銀鉱山開発が活発すると、戦国大名の争奪の場となる。大田地区においても世界遺産に含まれる石見城跡(43)があり、銀山開発初期に銀鉱石を運んだとされる石見銀山街道脇ヶ浦道が近くを通っている。

天正十五(1587)年、九州攻め中の豊臣秀吉の元に陣中見舞いに向かう細川幽斎は、その行程を『九州道の記』に残している。丹後から日本海沿いに西に進む幽斎は石見銀山にも立ち寄っており、そ

れによると、大浦に泊まり、大浦から仁万まで海路で移動し、仁万から石見銀山へ向かったとされていることから、仁万から銀山へ向かう、つまり、潮川沿いに古屋敷遺跡の対岸を石見銀山へ向かう道が当時のルートの一つであったと考えられる。

古屋敷遺跡南側の岩盤に穿たれた岩窟には元禄二(1688)年の銘を持つ大型の宝筐印塔や正徳五(1715)年銘の方柱状石塔などが納められ、庵寺石塔群(4)と呼ばれている。特に宝筐印塔は石見銀山最盛期に当たる17世紀代のもので、組み合わせが式でありながら、すべての部材が良好にそろい、保存状態もよいことからきわめて貴重な資料となっている。

〈註〉

- (1) 島根県教育委員会 2014『庵寺古墳群II・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』
- (2) 出雲考古学研究会 2015『石棺式石室の研究』
- (3) 島根県教育委員会 2013『門遺跡・高原遺跡I区・中尾H』
- (4) 島根県教育委員会 2014『市井深田遺跡・荒横遺跡・鈴見B遺跡』
- (5) 島根県教育委員会 1970『島根県埋蔵文化財調査報告』第2集
- (6) 大田市教育委員会 1981『大田市埋蔵文化財調査報告1 上川内遺跡—田長・高原地区—』
- (7) 島根県教育委員会 2015『鈴見B遺跡』
- (8) 註3文献及び 島根県教育委員会 2015年『高原遺跡(2区)』
- (9) 註5に同じ
- (10) 註4に同じ
- (11) 註1に同じ
- (12) 註4に同じ
- (13) 註1に同じ
- (14) 註1に同じ

〈参考文献〉

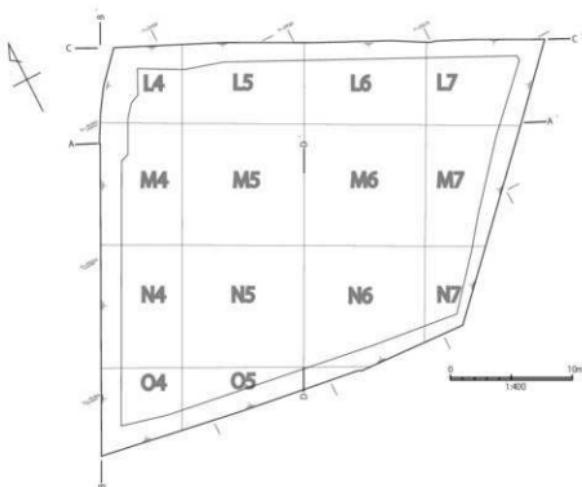
- 島根県教育委員会 2002『増補改訂島根県遺跡地図II(石見編)』
島根県教育委員会 1984『島根県生産遺跡分布調査報告書II 石見郡製鉄遺跡』
島根県教育委員会 1997『島根県中近世城館分布調査報告書〈第1集〉石見の城館』
大田市教育委員会 1984『三瓶川流域遺跡地詳細分布調査II』
平凡社 1995『日本歴史地名体系第33巻 島根県の地名』
角川書店 1991『角川日本地名大辞典32 島根県』

第3章 古屋敷遺跡A区の調査

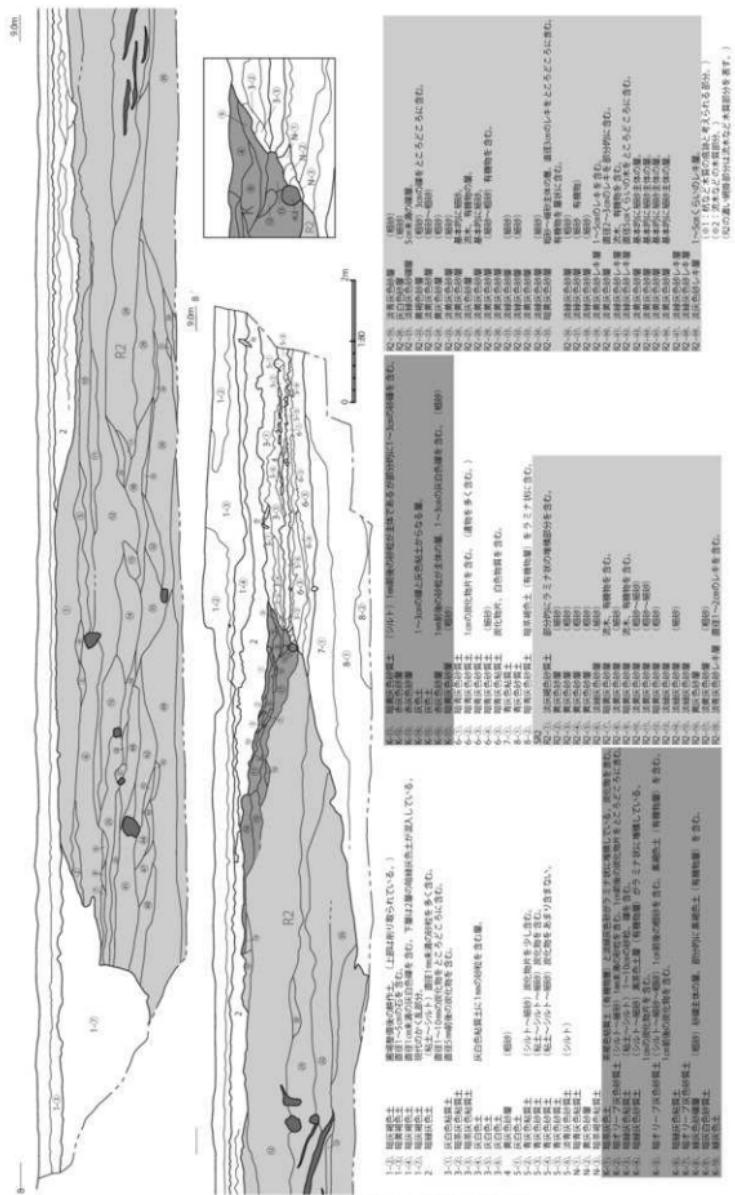
第1節 調査の概要

A区は標高8.7～8.8mの水田部分に位置する。調査区の層序は、土層図（第5～8図）のとおりである。第1層は、圃場整備後の耕作土、現代の造成土、圃場整備前の耕作土である。第2層は粘土からシルト状の灰白色土である。第3層は、灰白色土であり、細砂、シルト、粘土状部分があり細分が可能である。第4層は灰褐色レキ層であり、調査区北部から北東部にかけて（L-Mグリッド境のみ確認された。第5層は青灰色砂質土である。第6層は暗褐色粘質土である。第7層は、青灰色土である。砂質土または粘質土部分があり、細分が可能である。第8層は青灰色砂質土である。第9層は青灰色砂質土であり、部分的に砂礫層を含む。第10、11層は青灰色粘質土である。SR1は、第2層を、SR2は第3層を切っていると考えられる。SR3は、上面がSR1、SR2で削平されているが、第6層を切っていると推測される。

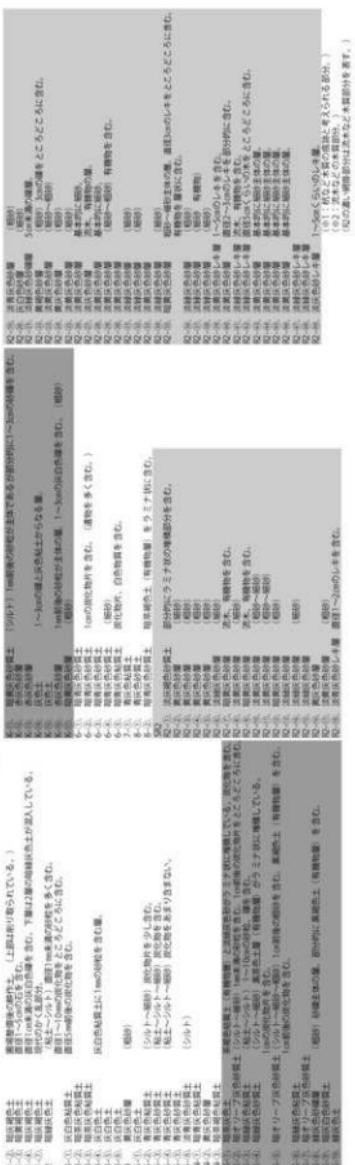
調査A区の調査終了後の状況は、第79図のとおりである。調査区北東端付近では、標高6.0mまで調査した。第8～10層の堆積状況は、第7層と類似している。調査区の北西にむかって下がっている。また南西に向かっても下がっている。南東にむかって高くなっている。ただし、第11層については、北西方向には下がっており、南方向に向かっては高くなっていたと想定される。ただし、第79図はあくまでも調査終了状況を示すもので、第11層掘削終了後の地形を表しているものではない。



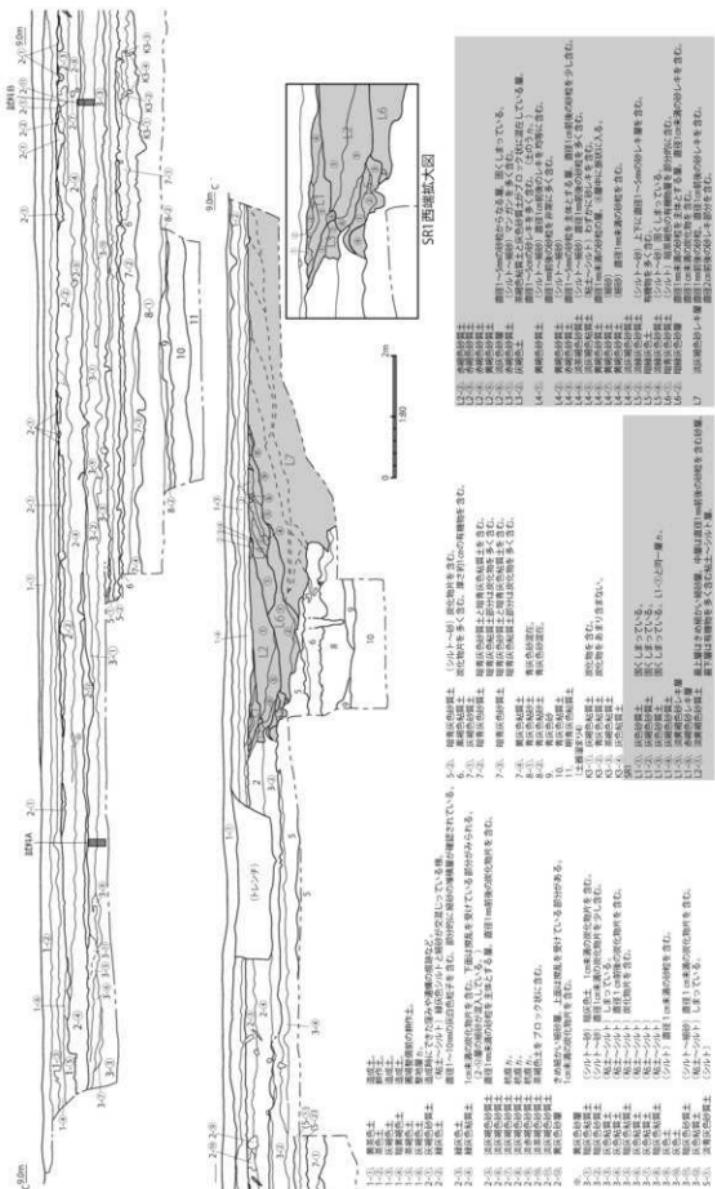
第4図 古屋敷遺跡A区グリッド配置図



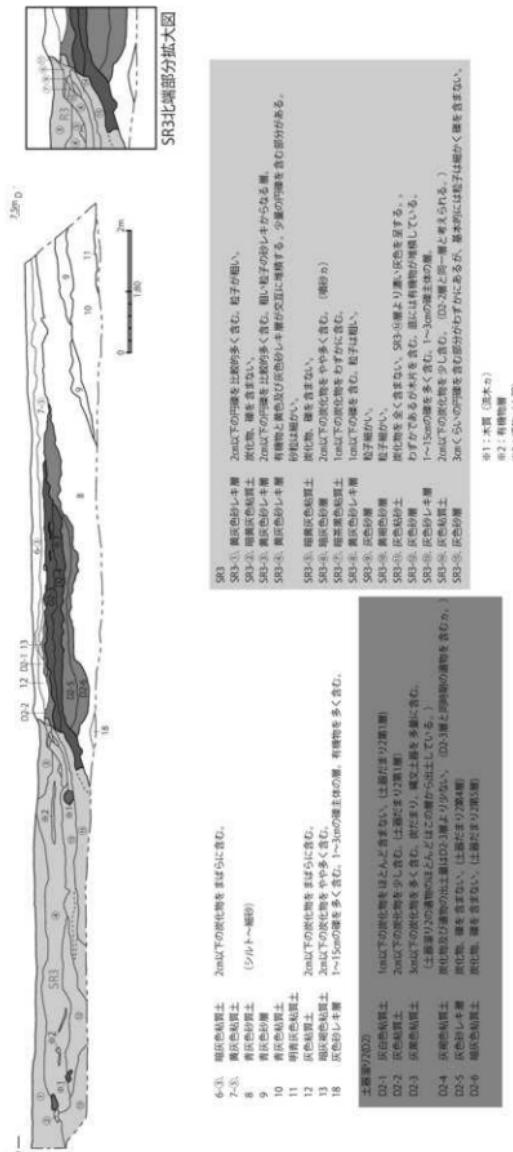
第6図 古屋敷遺跡A区北西壁土層図



(1) 1m×1mの面積を示す。(2) 1m×1mの面積を示す。



第7図 古屋敷遺跡A区(拡張区) 北東壁土層図



第2節 第2層の調査

第1層（耕作土）を除去後に検出された第2層上面では、弥生時代以降の遺構が確認された。

第2層上面では、溝状遺構1、土坑1、杭列3、ピット32が検出された。このうち第2層遺構配置図に図示した杭列A、杭列Bについては、それぞれ東西、南北方向の杭列である。平成に施工された圃場整備前の地割に平行しており、圃場整備前の水田地割に伴うもので江戸時代以降のものと考えられる。ただし、この杭列に伴う遺物が出土しておらず、時期については不明である。また第2層は灰色砂質土を基本とするが、調査区の南東端部分では、調査区の堀形に平行して赤褐色砂礫層が検出された。

1. 溝跡1（第10図）

調査区中央やや東よりに位置し、検出面の標高は約8.4m、北東-南西方向に長さ4m、幅0.2~0.4m、深さ5cmを測る。溝の上部は削平されたと考えられるが、溝底の高さは両端で変わりがなかった。遺物は出土しておらず、時期、性格などは不明である。

2. 土坑1（第11図）

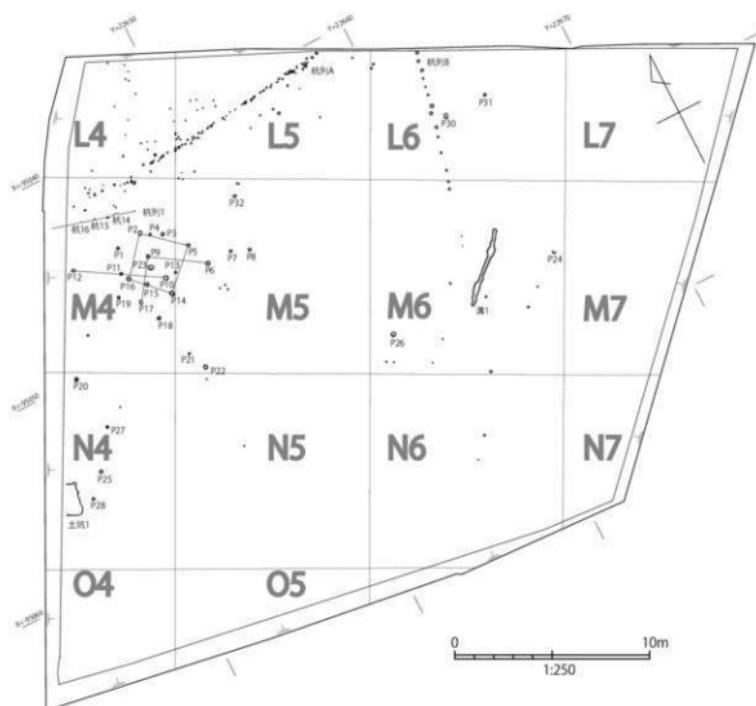
調査区西端に位置し、長軸を南北方向にとり、標高約8.3mで検出された。全形は確認できなかったが、現状で平面長方形、長さ1.7m、幅0.8m、深さ30cmである。遺物は出土しておらず、時期、性格等は不明である。

3. 杭列1・A・B（第9・12図）

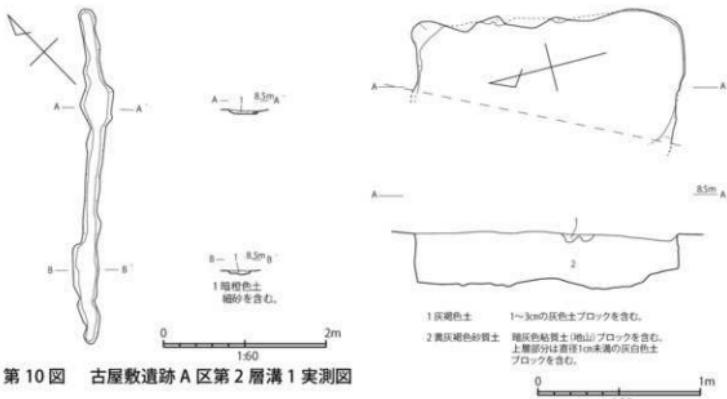
杭列Aは、調査区の北側で検出された。圃場整備前の水田に伴う杭列である。方位は、北-83.5°-東にとる。杭列Aが打たれた時期は不明であるが、杭は腐朽しておらず江戸時代以前にまで遡る遺構ではないと推測される。杭列Bは調査区の北東側で検出された。杭は残存していないかった。方位は北-13.1°-東にとる。杭列1は調査区北端付近に位置し、杭14、杭1、杭15、杭16がほぼ直線上に並ぶ状態で検出された。検出された杭上端の標高は8.4m付近であり、方位は、西-15.3°-南にとる。杭列1、A、Bはすべて第2層上面で検出されている。本来第2層より上に土砂が堆積していたと考えられるが、後後に削平されている。杭列1は削平前の遺構と考えられ、杭列A・Bは削平後の遺構と推測されるため杭列の名称を数字表記とアルファベット表記と数字表記に分けた。杭列1と杭列Bとは直交する方位をとるが、関係性は不明である。杭列1に伴う遺物は出土していない。依存度が比較的良かった杭1は第14図-14に図示した。矢板状木材の先端の可能性が考えられる。遺構の時期、性格等は不明である。

4. ピット（第12・13図）

調査区の北西部を中心に32基検出された。標高8.4m付近、平面円形から梢円形で、直径10~30cm、深さ5~10cmを測る。ほとんどのピットの埋土は、暗灰褐色粘質土であり、遺物はともなっておらず時期は不明である。柱列又は建物状杭列については並ぶ可能性があるピットは第12図のラインA-A'~G-G'のとおりである。このうちSB1は1間×1間(2.4m×2.4m)、SB2はL字状の柱穴配置(P6-P9間3.1m、P9-P17間2.4m)が確認できる。



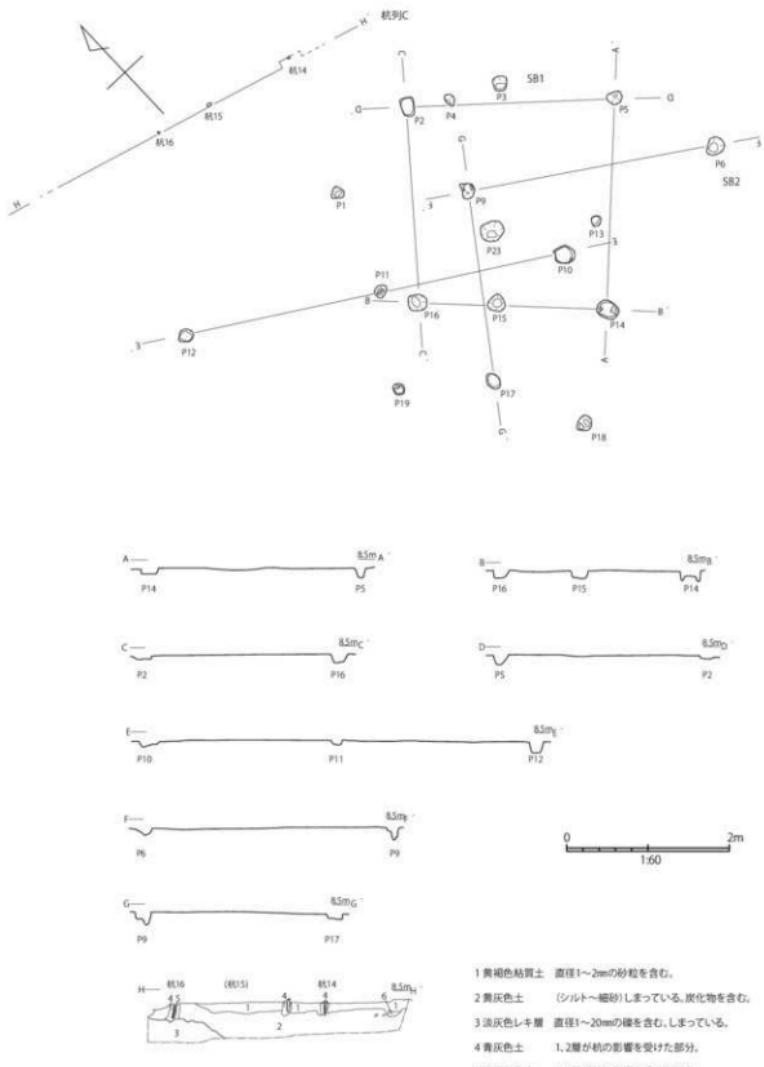
第9図 古屋敷遺跡 A 区第2層遺構配置図



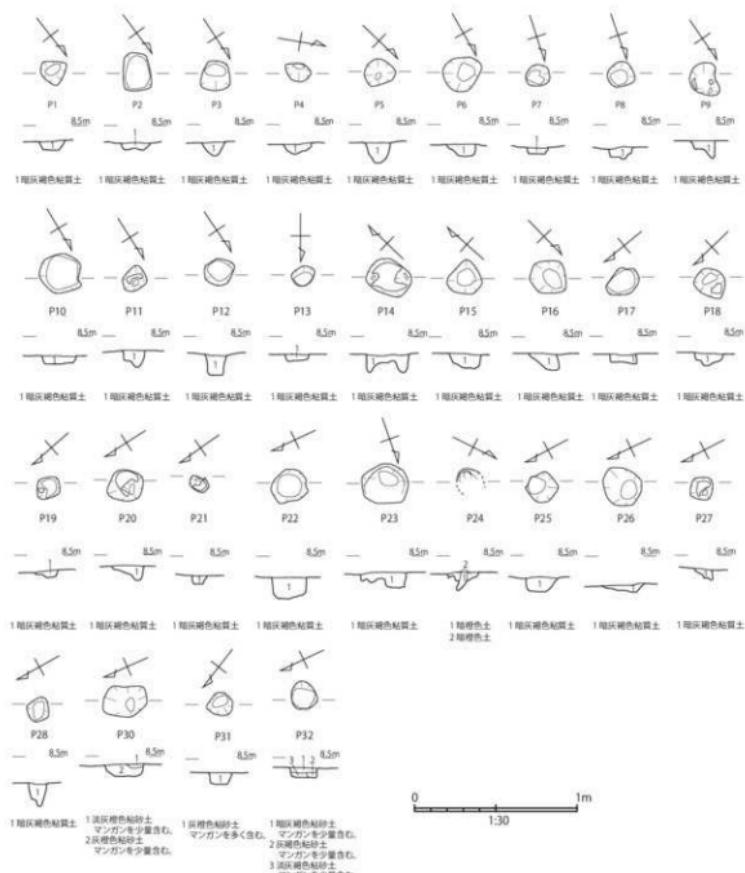
第10図 古屋敷遺跡 A 区第2層溝1実測図

第11図 古屋敷遺跡 A 区第2層土坑1実測図

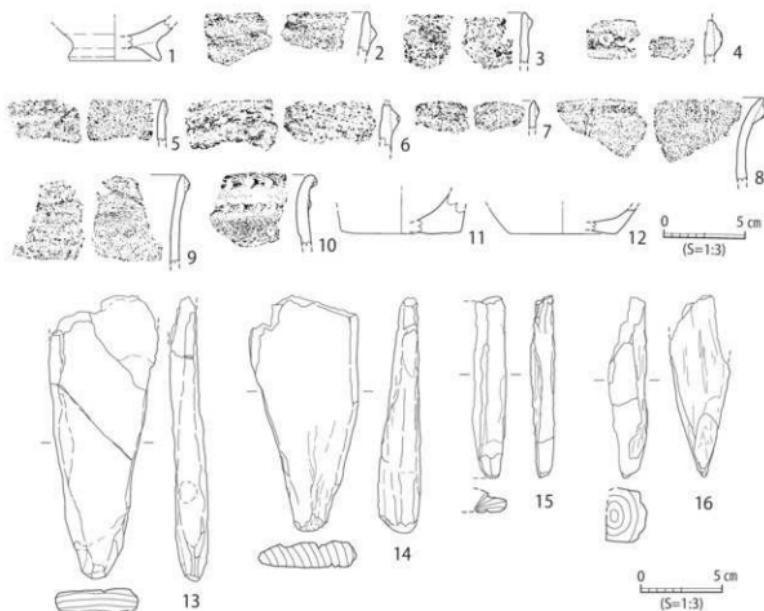




第12図 古屋敷遺跡A区第2層ピット・杭列実測図1



第13図 古屋敷遺跡A区第2層ピット実測図2



第14図 古屋敷遺跡A区第1・2層出土遺物実測図

5. 第1・2層出土遺物実測図（第14図）

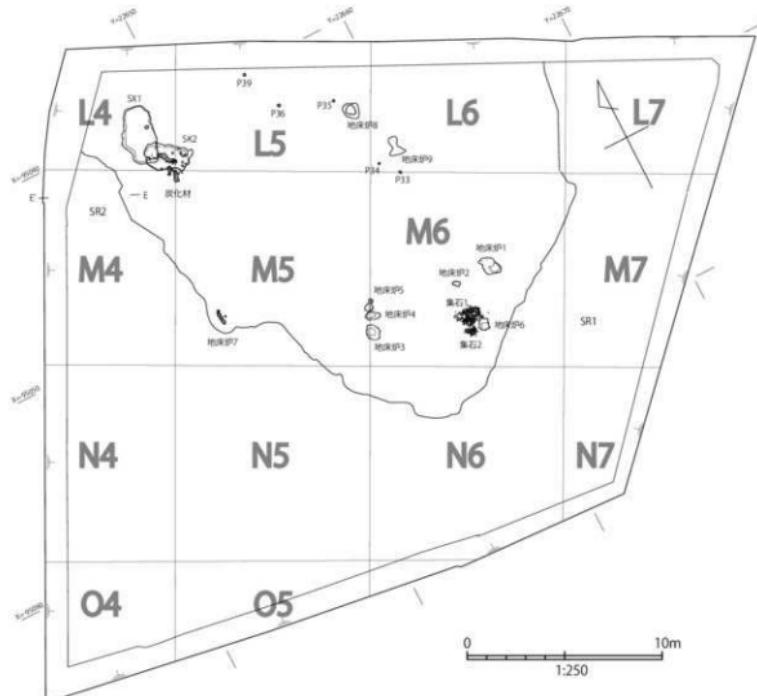
第1層もしくは第2層出土の可能性がある遺物の実測図である。1は土師器・高台付きの環である。2～7は縄文土器・深鉢である。いずれも突帯文土器であり、2、3、7は無刻目、4は竹管状工具による刺突状の刻目、5、6は円形の刻目である。8、9は突帯文土器である。8は斜め方向の刻みを持ち、9は不正形の刺突を持つ突帯文土器である。10は出土層位不明の二条の突帯文土器である。11は弥生土器・甕の底部、12は土師器の可能性が考えられる。13～16は第2層上面で検出された杭状木製品である。

第3節 第2・3層の調査

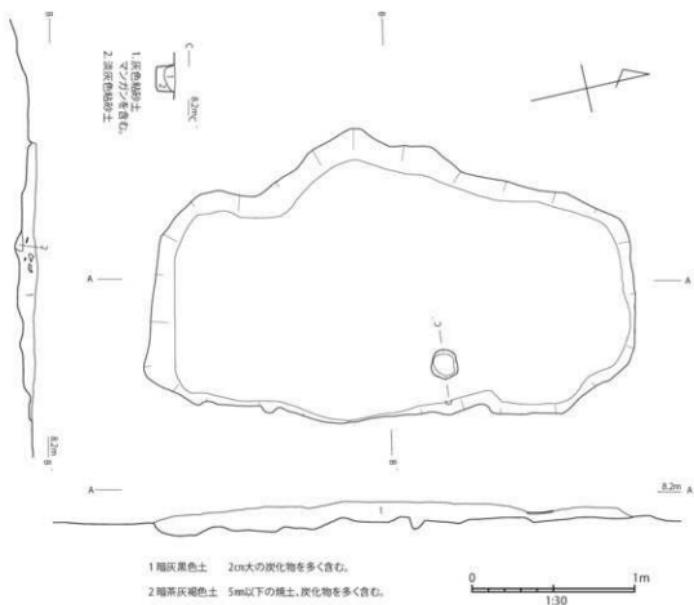
第3層を若干掘り進めた段階で自然河道SR1・SR2が検出され、これに挟まれた「U」字形の範囲がSR1・SR2の浸食を受けていない部分である。これが基盤面となっており、3層では土坑1(SX1)、木棺墓1(SK2)、地床炉9、集石遺構2、ピット6が検出された。第3層は、基本的には灰白色粘質土を基調とした厚さ約25cmの土層で、砂質土の有無、色調の違いで①～⑫層に細分した。各細分層は面的に確認することは困難であった。各遺構は検出面に多少の高低差があるが、それぞれの遺構がどの細分層で検出されたのかは判断できなかった。またSX1が立地した調査区北部では、木棺墓(SK2)やSR2が検出されるなど、遺構や河道が重層的に展開している様子がうかがえた。

1.SX1(第16～18図)

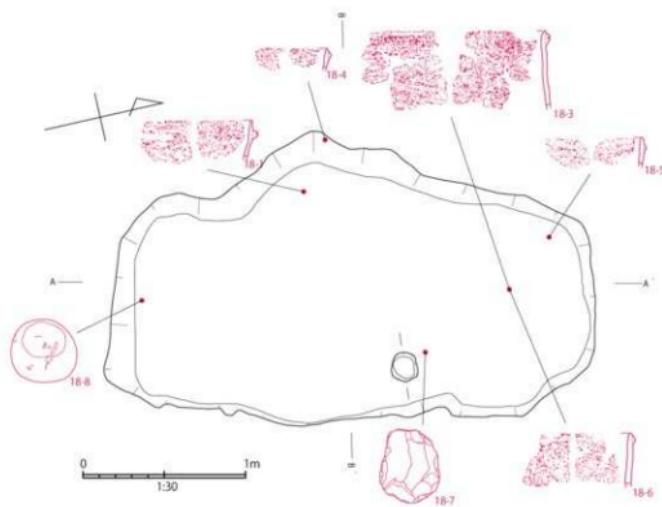
SX1は、調査区の北端に位置し、第3層上面の標高8.1m付近で検出された。木棺墓(SK2)とは、切り合っていない。平面形は不整形な長方形であり、長軸は3.0m、短軸は1.5m、深さは15cmを測る。埋土は2層確認されており、主体をなす第1層は炭化物を多く含む暗灰黒色土であり、第2層は5mm以下の焼土を含む暗茶灰褐色土である。SX1の東側では、SX1の埋土を切ってピットが掘り込まれていた。(第16図CC'ライン) このピットではSX1埋土と違い炭化物をあまり含んでい



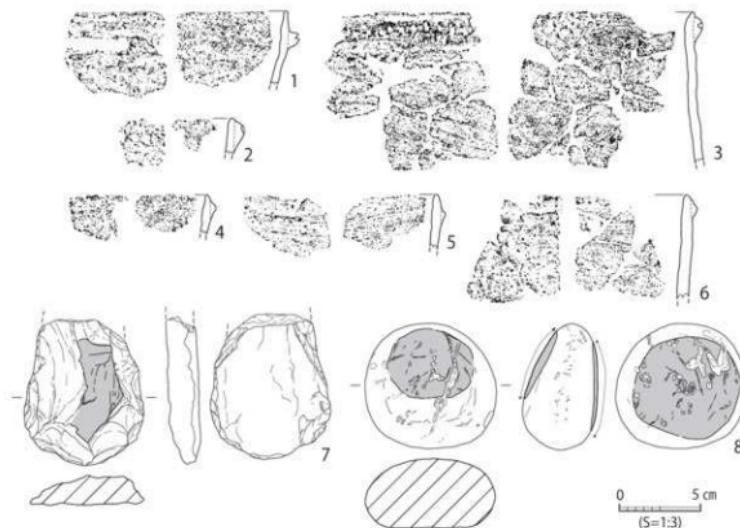
第15図 古屋敷遺跡A区第3層遺構配置図



第16図 古屋敷遺跡 A 区第3層 SX1 実測図



第17図 古屋敷遺跡 A 区第3層 SX1 遺物出土状況図



第18図 古屋敷遺跡A区第3層SX1出土遺物実測図

なかった。SX1内からは突帯文土器、石器が出土した。(第17・18図) 第18図1~6は縄文土器・深鉢の口縁部で、突帯文土器である。1は突帯部分に楕円形の小さな刺突が施されている。2は管状の工具による刺突、3は円形の刺突が施されている。4~6には刻目文が施されていない。1~6の土器は、全体として灰褐色から黄褐色系の色調を呈している。7は打製石斧である。欠損している。8は擦石／敲石である。正面及び背面に磨面があり、正面、背面及び側面に敲打面が残っている。

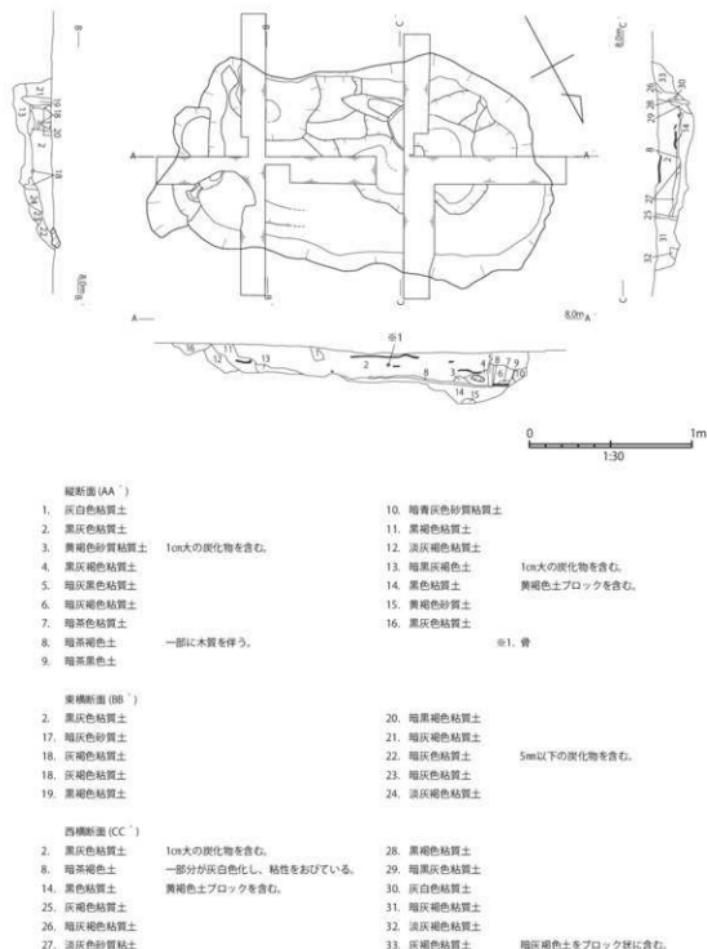


2.炭化材(第19図)

調査区北部の標高8.1m付近で検出された。SX1の南側1mの地点であり、SX1検出レベルより約10cm低かった。長さ1m、幅は現状で20cmであるが、本来長方形状の板材と仮定した場合幅40cmとなる。厚さは、1cm前後である。この炭化材直下約20cmからは木棺墓(SK2)に伴う石材が確認された。炭化材はSK2南東端に直交するように検出されたが、関係あるものかどうかは不明である。直接伴う遺物は確認されなかつたが、SX1及び木棺墓が検出されたこの付近の第3層からは、三田谷文様をもつ土器(第36図2)や注口土器(第36図4)など、比較的多くの遺物が出土している。

第19図 古屋敷遺跡A区

第3層炭化材実測図

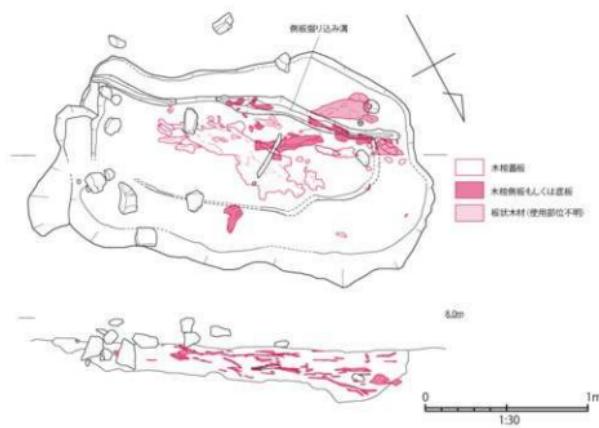


第20図 古屋敷遺跡A区第3層木棺墓(SK2) 実測図

3. 木棺墓 (SK2) (第20~23図)

調査区北部に位置し、標高 7.9m付近で検出された。平面的には SX1 と SK2 は重複しているが、SX1 の基盤となった土を掘削中に SK2 が検出されたことから、SK2 は SX1 より古いと判断される。SX1 の坑底と SK2 検出面との比高差は約 15cmである。また、第 19 国炭化材は SK1 検出面とほぼ同じレベルかやや低い位置で重複しているが、SK2 に関係するものかどうかは不明である。

墓壙中央部の底面から約 10cm高い位置で人の大腿骨が出土し、さらに壙底で棺材設置痕跡が認め



第21図 古屋敷遺跡A区第3層木棺墓（SK2）木棺部材出土状況図



第22図 古屋敷遺跡A区第3層木棺墓（SK2）遺物出土状況図

られたとから、SK2は木棺墓と判断された。

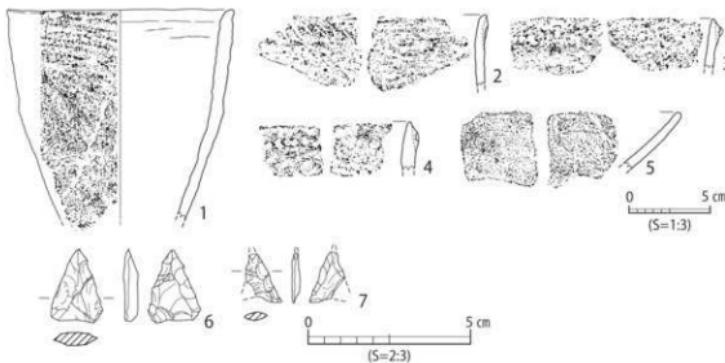
墓壙は、長軸2.2m、短軸1.2mを測る。深さは大部分が約15cmだが、北西部は約30cmと他の部分より深くなっている。墓壙底面（第14層上面）には、棺の設置痕が細い溝状および段状に残っており、棺の大きさは長軸約2m、短軸約65cmと推定される。棺材設置痕跡は南西側では比較的整った「コ」の字形であるが、北東側では不整形な弧状を呈していることから、北東側は棺の原形を留めていないと思われる。北西部および南西部では、側板が小口板を挟んでいることがわかる。なお、北西側の棺設置痕跡からは、板状の木質が出土し、これが棺側板の一部と考えられた。また、第20図A-A'の土層では第5層が、同図C-C'の土層では第25層と第28層が、同図B-B'の土層では第19層が、幅5cmで垂下しており、これらが棺材の痕跡と思われた。これらの棺材痕跡は、A-A'、B-B'の第13・14層上部で収まっていることから、墓壙底に第13・14層を敷いたのちに棺が設置されたと考えられる。

墓壙の中央付近では、検出面よりやや下位で長さ90cm、幅20cm、厚さ1cmの板材が出土した。木棺の蓋と考えられる。このほか、棺材片と思われる木片が多数棺内から出土した。これらについては、現地で蓋・側板または底板、部位不明に分類し、第21図では色分けをして図示した。木片は南東から北西方向に傾斜して堆積しており、北東部分では堆積土層中の上位から下位まで幾重にも重なっていた。腐食した棺蓋が、南東方向から棺内に流入してきたように観察された。

このほか、墓壙の西半分には20cm大の礫が散在していた。これらは主に墓壙検出面で出土したが、一部は墓壙内に落ち込んでいた。また、棺内北東隅の底面（第14層上面）近くに礫が1個出土した。調査時の印象では、棺材を固定する機能があるように感じられた。

墓壙内からは、突帯文土器、無文浅鉢の小片のほか、無文浅鉢の比較的大きな破片や石鏃が出土した。いずれも墓壙の中位から出土しており、原位置を保つものは出土していない。

SK2出土遺物は、第23図のとおりである。遺物は主に棺内中位から上位で出土し木棺内の床面上からは遺物は出土していない。1~4は縄文土器・深鉢と考えられる。1は垂直より若干外傾しながら立ち上がる胴部をもち、口縁端部はやや外反する無文の土器である。風化が激しい。木棺内第11層出土である。2~4は突帯文土器である。突帯に2は斜めの「I」字の刺突、3、4は



第23図 古屋敷遺跡A区第3層木棺墓（SK2）出土遺物実測図

管状工具による刺突が施されている。5は縄文土器・浅鉢である。北側側板の外側から出土している。6・7は碧玉製の石鏃である。7は片側の基部が欠損している。6は棺内の蓋板の上第2層中から、7は北側側板の外側第31層中から出土している。

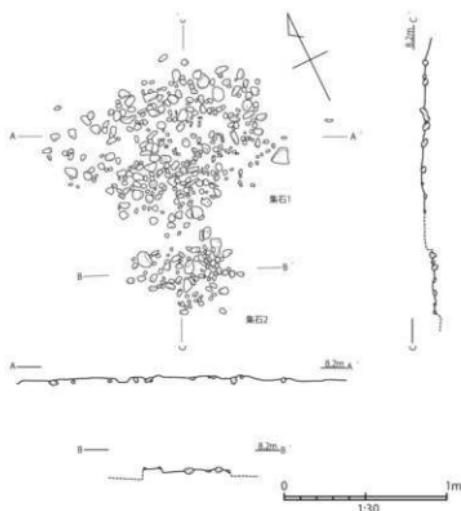
4. 集石1・2(第24図)

集石1及び集石2は調査区中央のやや東より部分、標高8.1m付近で検出された。集石1の南隣、集石2の東隣部分で検出された地床炉6が検出されたレベルよりわずかに掘り下げたレベルで検出された。集石1は長軸1.5m、短軸1.0m、集石2は長軸0.7m、短軸0.4mの楕円状に石が分布するように検出された。平面的には隣り合っているが集石2は集石1より約5cm低いレベルで検出された。直径10cm未満の河原石が主体であり、両遺構ともに、集石面の上面が水平であり、石同士は上下にはあまり重なり合っていなかった。炉跡のような焼土面や熱を受けた部分は確認できなかった。遺構に伴う遺物もなく土層堆積状況から縄文時代晚期の突堤文期であるが性格等は不明である。

5. 地床炉(第25図)

基盤層に灰色シルト状の堆積物が確認された。この堆積物は平面不整形で、断面は緩く立ち上がっており、火を焚いた痕跡やその灰や炭が地面の窪みに堆積した痕跡と考えられ、地床炉として調査した。

調査区の中央部から北部にかけての部分の標高8.0m付近で、合計9カ所検出された。同じレ



第24図 古屋敷遺跡A区第3層集石1・2実測図

ベルで検出された地床炉は地床炉3～5のみである。熱を受けた部分が確認できたのは、地床炉8のみであり、その他は、炉に伴う灰や炭化物などが窪地に溜まったような状況であったことが推測される。平面的な形状は様々であった。地床炉1～6は調査区中央部の比較的近寄った範囲で検出された。平面的には、地床炉1が一番大きく長軸は1.2m、短軸は0.8mを測り、地床炉2が一番小さく、長軸0.4m、短軸0.2mを測る。深さはすべて10cmにも満たない。地床炉7は調査区中央部西より部分で検出された。平面形状は、長さ0.8m、幅0.2mの細長い形で検出された。地床炉8、9は調査区北側で検出された。地床炉8では直下の地山部

分に熱を受けた部分が確認された。平面形は長軸1m、短軸0.8mの楕円形で、外輪部20cmの部分に被熱痕が確認された。断面がゆるい山形状の炉の上端部が削平されたことが推測される。地床炉9は長軸1mの平面瓢箪形の形状であり、堆積状況は地床炉1～7と似たような状況であった。

6. ピット（第26図）

調査区北側で5基検出された。P33、34は標高8.0m、P35、36は標高7.8m、P39は、標高7.9m付近で検出された。P33、34は第3層上面、その他は、第3層上面からやや掘り下げた位置で検出された。規模は直径15cm、深さは10cm前後、埋土は、暗灰色～黒灰色土で、炭化物を含む土であった。遺物は出土していない。性格等は不明である。

7.SR1～3（第5～8図、第27～34図）

A区では、砂礫層が堆積した河道跡SR1～3が検出された。第1層除去後、調査区東端でSR1の一部が検出され、その後第2層を除去した段階でSR2北端が確認された。土層図（第5図下）では、SR1は第2層を削り込んで形成されたように見えるが、R1を覆っていた第2層が削平されている可能性が考えられること、SR1の西端最上部は別の落ち込み（R3①～④層）で削られていることを考えるとSR1の掘り込み面が第2層とは断定できない。SR1によって明らかに削り込まれているのは第3-⑥層以下である。

SR2の土層は、上面がA-A'ライン（第5図上）で西から東に向かって、B-B'ライン（第6図下）で南から北に向かって傾斜している。全体に第2-①～2-⑨層に覆われているが、これらの層はレンズ状に堆積していることから、SR2埋没後にさらに別の流路によってSR2上部が削られたと推測される。第6図R①～⑩層は、SR2埋没後の流路堆積物と考えられる。なお、SR2の東端土層はやや乱れており、SR2によって削り込まれたことが明らかな層は第3-⑥層以下である。

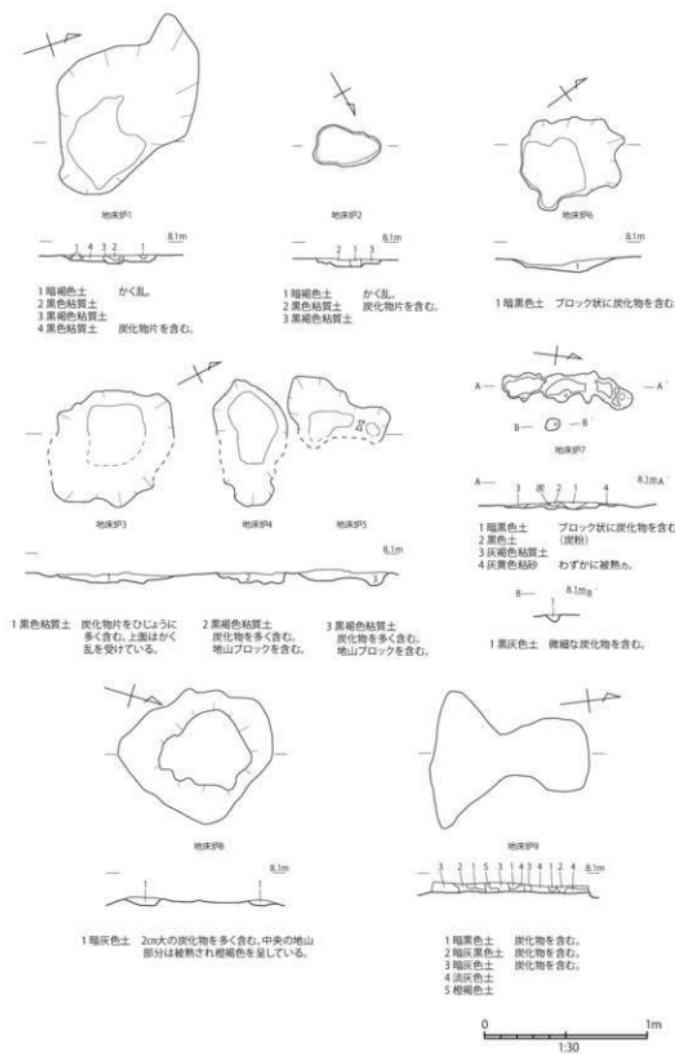
SR3は、第6-③層上面で検出された。（第8図）SR1・2検出面から約80cm下まで掘り下げた段階で検出されたことから、SR3はSR1・2より古い時期に形成された河道跡と考えてよい。SR3-⑥層は噴砂と考えられた。SR3堆積後に災害（地震）があったことが推測される。

SR1、SR2から出土した土器は、両者とも突帯文と弥生前期土器が混在している。土器の様相からはSR1とSR2に時期差がないように思われる。刻み目がないもの（第29図11）や、刻み目が小型化したものがあり（第31図12～16）、当地の縄文時代最終末または弥生時代初期の様相を示している。

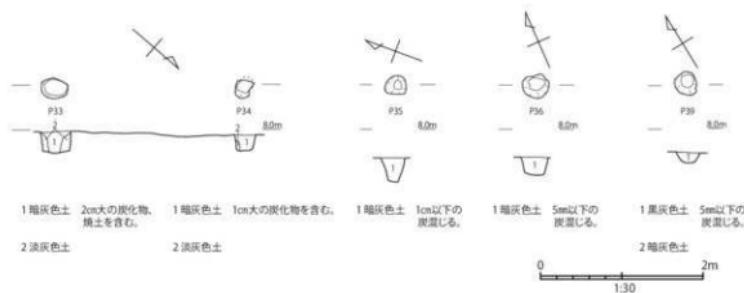
第29、30図はSR1出土遺物である。

第29図1～15は縄文土器・深鉢である。1は口縁端部の外面と内面の両方に刺突文が施されている。2～15は突帯文土器である。2は孔列（文）土器である。16～23は縄文土器・浅鉢である。24～28は弥生土器である。24、25は壺である。26、27は壺の底部と考えられる。28は甕の口縁部である。24～28は弥生時代前期の土器と推測される。

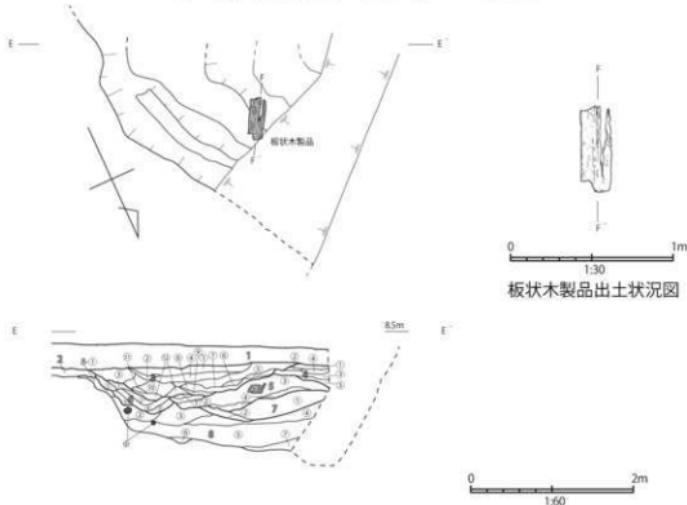
第30図1～11は弥生土器・甕の底部である。時期は前期から中期にかけてと考えられる。12は壺形の土器の胴部と考えられる。外面には沈線による文様が施されており、内面には二枚貝によると推測される工具痕が確認できる。13は鉢もしくは無頬甕と考えられる。中期～後期と考えられる。14はSR1出土の弥生土器・甕の底部である。15は、石器・打製石斧である。



第25図 古屋敷遺跡A区第3層地床炉実測図

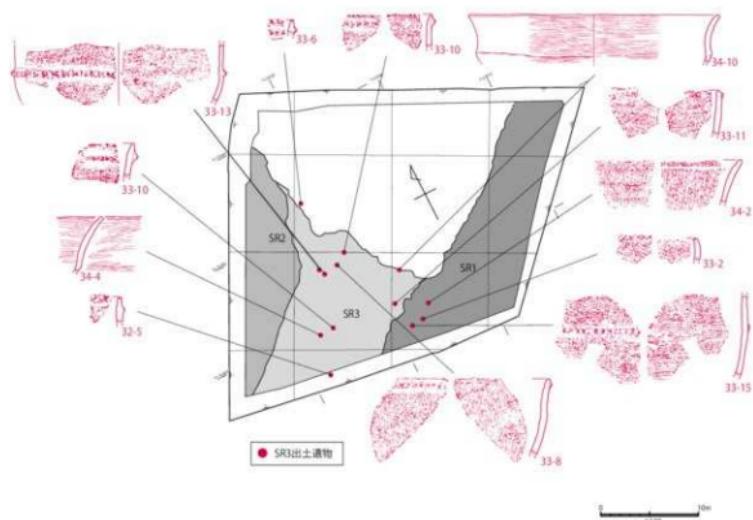
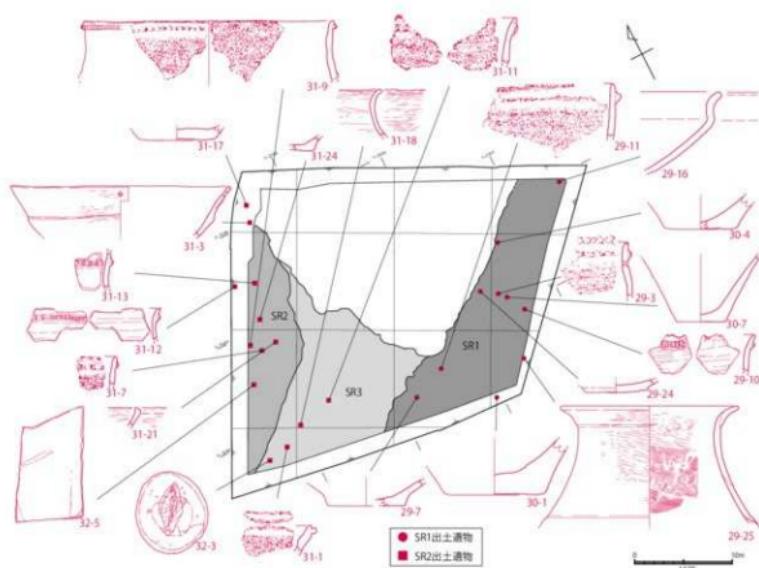


第26図 古屋敷遺跡A区第3層ピット実測図

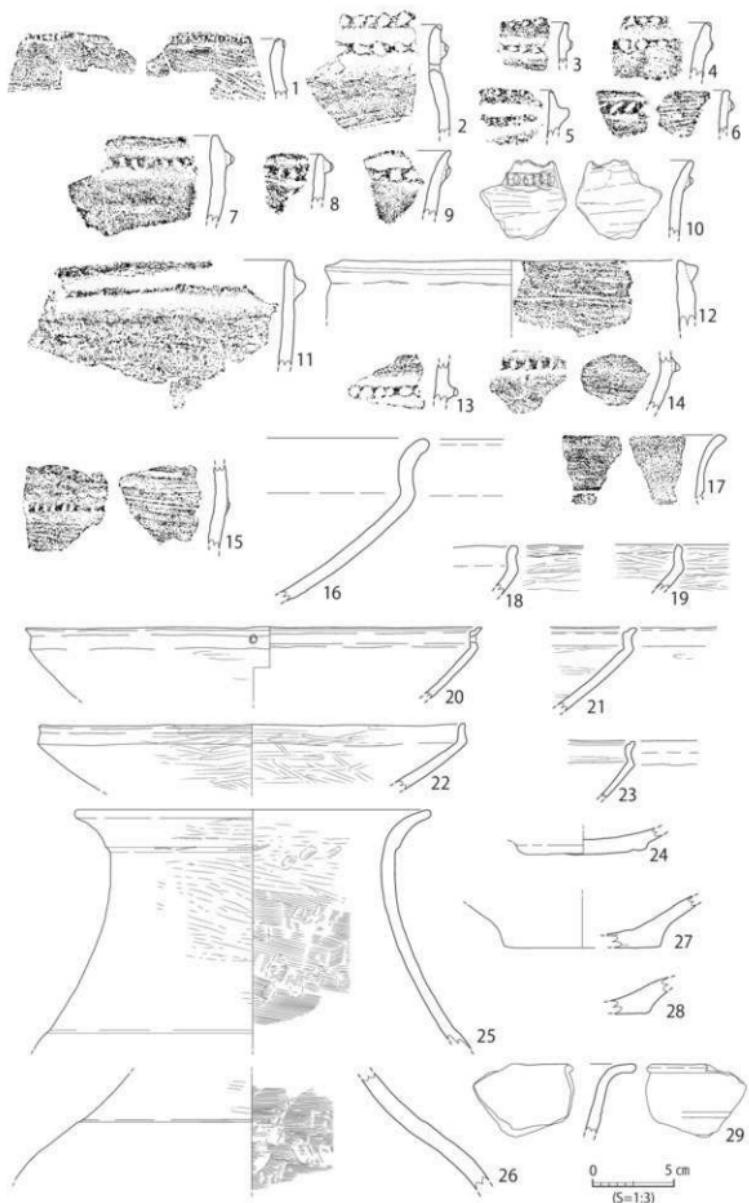


- | | | |
|-----------------------|---------------|-----------------------|
| 1. 黄色砂層 | 5-①. 黄色色砂レキ層 | 1~5mmの大レキを含む。 |
| 2. 黄灰色色砂質土 | 5-②. 黄色色砂レキ層 | 5-1層より砂を多く含む。 |
| 3-①. 黄色砂層 | 5-③. 黄褐色色砂レキ層 | 1~3mmの大レキを多く含む。 |
| 3-②. 黄灰色粘土層 | 5-④. 灰褐色色砂レキ層 | 5mm以下の大レキを含む。 |
| 3-③. 黄灰色粘土砂 | 6-①. 灰色粘土 | 炭化物を含まない。 |
| 3-④. 淡青灰色粘土砂 | 6-②. 淡褐色粘土 | 有機質層。 |
| 3-⑤. 淡青灰色粘土質土 | 6-③. 淡褐色灰土 | やや粘度である。有機質層に堆積している。 |
| 3-⑥. 淡青灰色粘土質土 | 6-④. 淡褐色粘土質土 | 炭化物を含まない。 |
| 3-⑦. 黄色砂 | 6-⑤. 淡褐色粘土質土 | 木(流木カ)が堆積している。有機質を含む。 |
| 3-⑧. 黄灰色砂層 | 6-⑥. 淡褐色砂 | 有機物層を含む。 |
| 3-⑨. 黄色砂レキ層 | 6-⑦. 黄褐色色砂 | (シルト~砂)炭化物層を含む。 |
| 3-⑩. 黄色砂レキ層 | 6-⑧. 黄褐色色砂 | |
| 3-⑪. 黄色砂層 | 6-⑨. 黄褐色色砂 | |
| 3-⑫. 黄色粘土層 | 6-⑩. 黄褐色色砂 | |
| 3-⑬. 黄色粘土層 | 6-⑪. 黄褐色色砂 | |
| 3-⑭. 黑灰色土 | 6-⑫. 黄褐色色砂 | |
| 4-①. 黑灰色粘土質土 | 6-⑬. 黄褐色色砂 | |
| 4-②. 黑色粘土 | 6-⑭. 黄褐色色砂 | |
| 4-③. 黑褐色粘土質土 | 6-⑮. 黄褐色色砂 | |
| 4-④. 黑褐色土 | 6-⑯. 黄褐色色砂 | |
| 4-⑤. 黑褐色色砂質土 | 6-⑰. 黄褐色色砂 | |
| ところどころに1~3mmの大炭化物を含む。 | 6-⑱. 黄褐色色砂 | |
- 0 1:30 2m

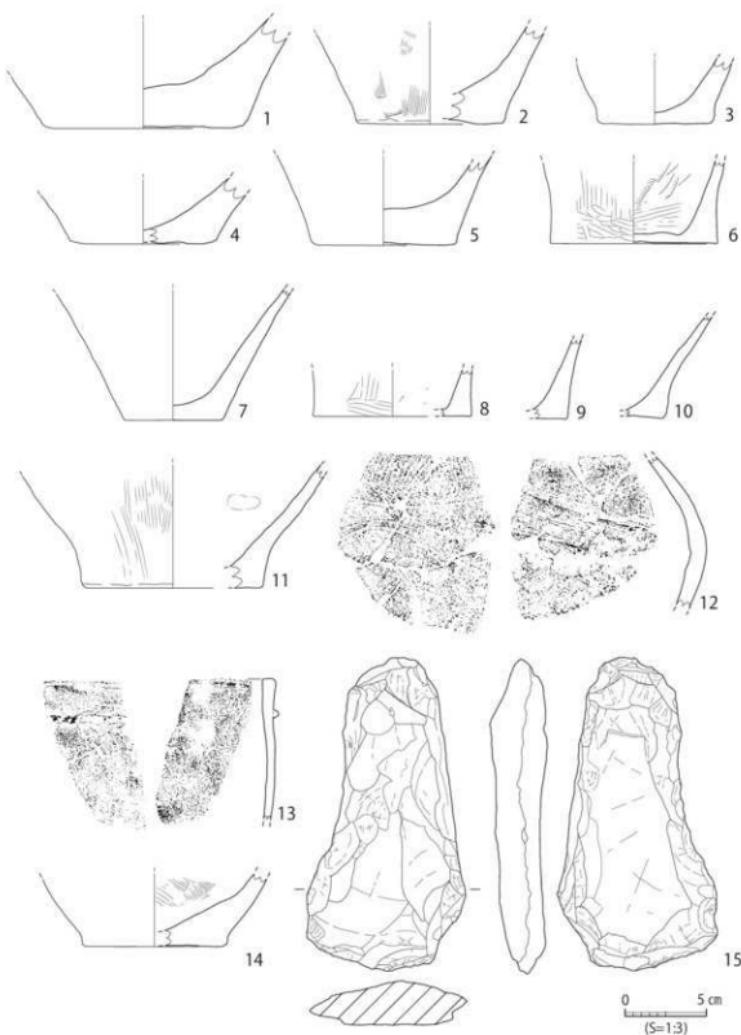
第27図 古屋敷遺跡A区第3層SR2実測図



第28図 古屋敷遺跡A区第3層SR遺物出土状況図



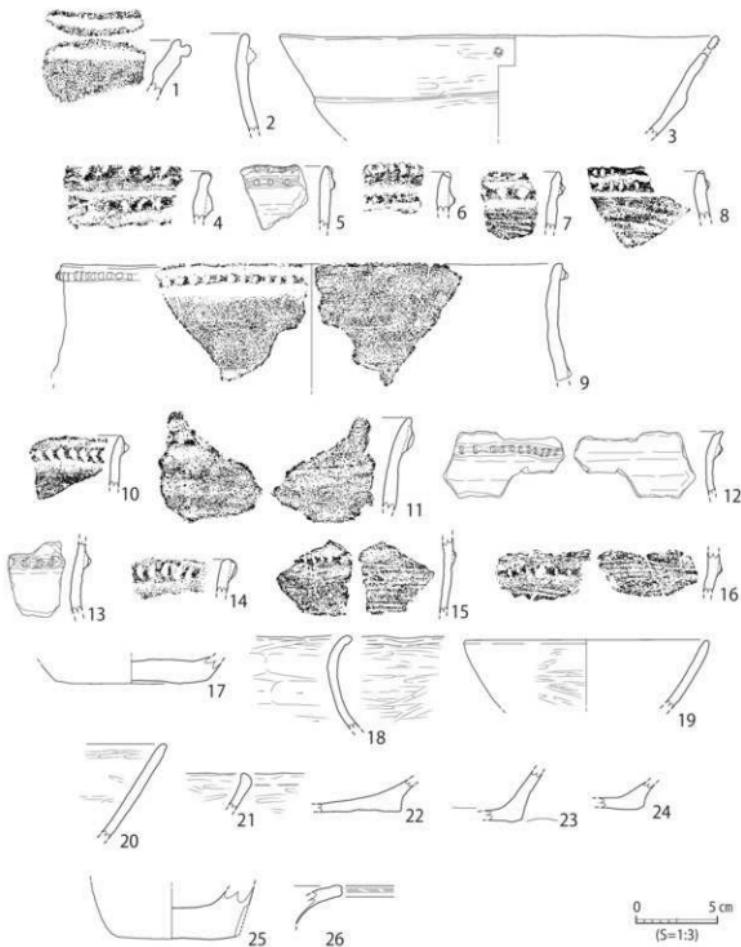
第29図 古屋敷遺跡 A 区第3層 SR1 出土物実測図 1



第30図 古屋敷遺跡 A 区第3層 SR1 出土遺物実測図 2

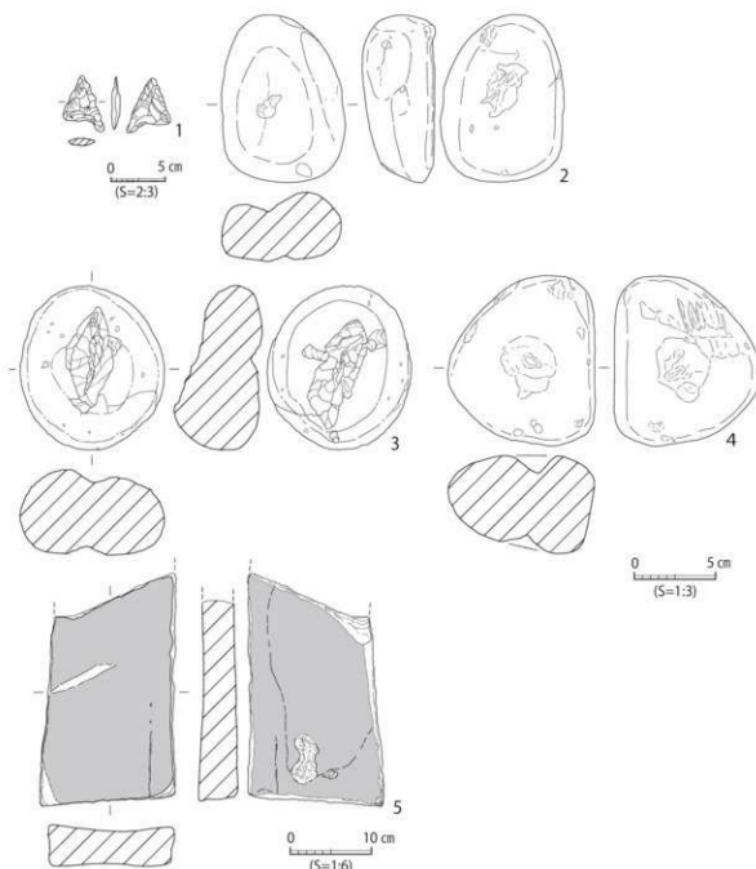
第31、32図はSR2出土遺物である。

第31図1は縄文土器・浅鉢である。縄文時代後期の土器である。2は単純口縁であるが口縁部外面に、粘土帯がはがれ落ちたような痕跡が確認され、突帶文土器の可能性が考えられる。3は縄文土器・浅鉢である。4～16縄文土器・深鉢である。突帶文土器である。4～8は口縁端部と突



第31図 古屋敷遺跡A区第3層SR2出土遺物実測図1

帶部分に刺突(刻目)が施されている。9～12は、口縁端部には刺突(刻目)は施されていないが、突帯部には刺突(刻目)が施されている。13は口縁端部が欠損しているが、突帯には刺突(刻目)が施されている。14は口縁端部に接するように突帯が貼り付けられており、突帯にのみ刺突(刻目)が施されている。15、16は胴部であり、突帯部に刺突(刻目)が施されている。二条突帯と考えられる。17は深鉢形の土器の底部である。SX1出土土器(第18-3、5)に、色調、胎土、焼成などが似ている。18～21は、縄文土器・浅鉢の口縁部である。22～24は、縄文土器・浅鉢の



第32図 古屋敷遺跡A区第3層SR2出土遺物実測図2

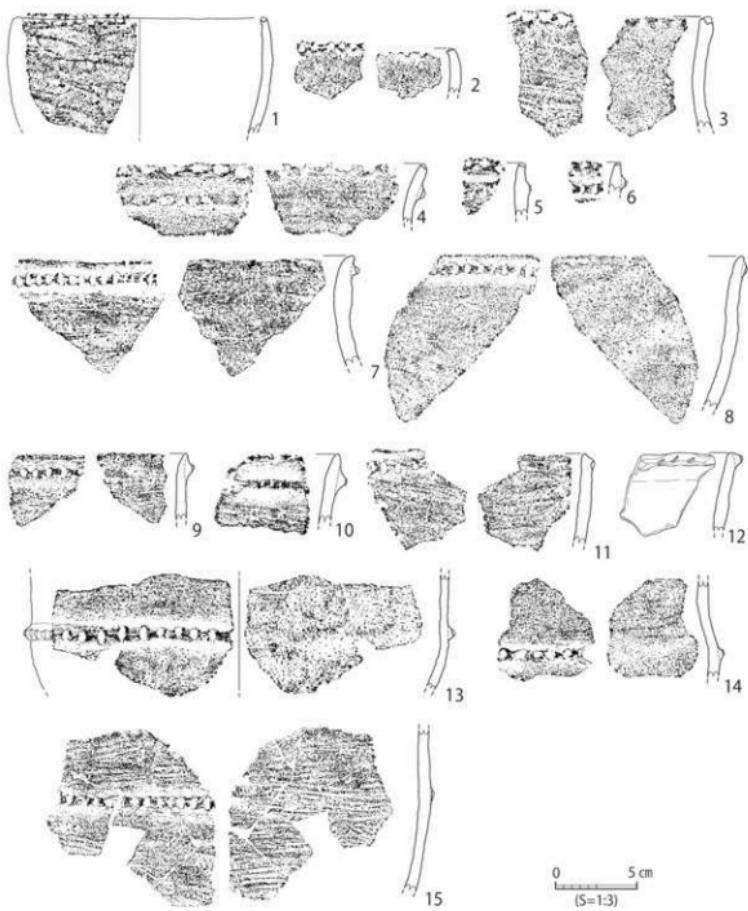
底部と考えられる。26は弥生土器・甕の底部である。27は弥生土器・甕もしくは壺の口縁部で、端部に沈線が施されている。25は前期、26は中期頃と推測される。

第32図1～5は石器である。1は石鎌で、片側の基部が欠損している。2～4は擦石／敲石である。3の片面に擦痕が確認される。5は石皿である。両面に擦痕が確認される。

第33、34図は、SR3出土の遺物である。

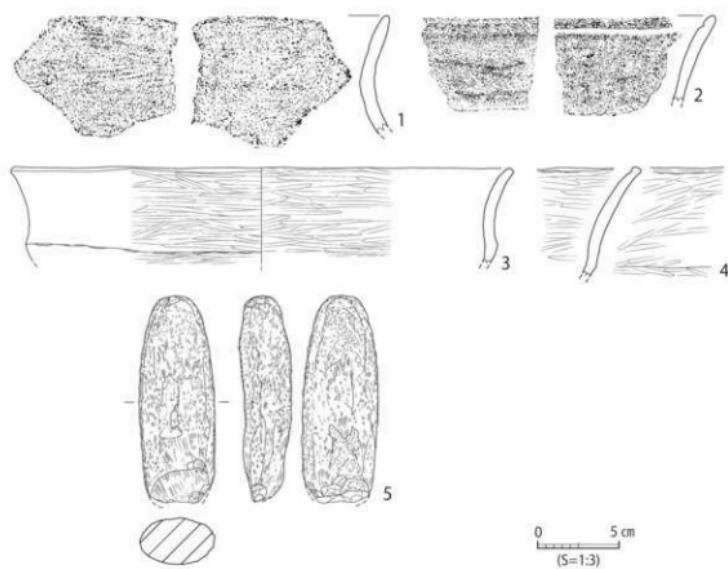
第33図1～15は縄文土器・深鉢である。1～3は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。4～15は突帯文土器である。4～6は口縁端部と突帯に刺突（刻目）が施されている。7～12は口縁端部には刺突（刻目）は施されていないが、突帯部には刺突（刻目）が施されている。13～15は胴部であり、突帯部に刺突（刻目）が施されている。二条突帯と考えられる。

第34図1は、縄文土器・深鉢である。無文であり、風化が激しいが外面には二枚貝条痕が確認

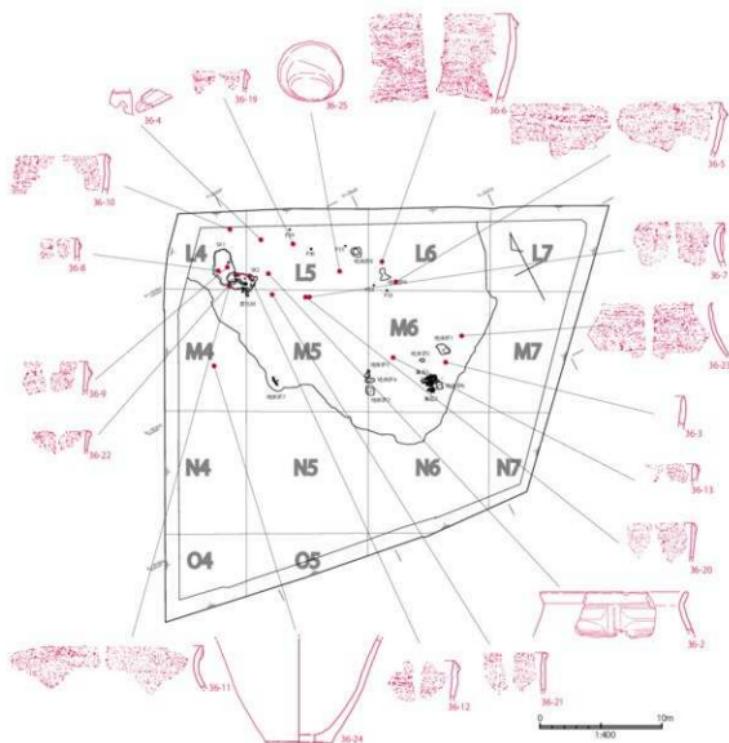


第33図 古屋敷遺跡A区第3層SR3出土遺物実測図1

される。2～4は縄文土器・浅鉢である。5は石器である。磨製石斧と考えられる。破面以外の部分に敲打痕、先端部分には磨面が確認される。



第34図 古屋敷遺跡A区第3層SR3出土遺物実測図2



第35図 古屋敷遺跡A区第3層遺物出土状況図

8. 第3層出土遺物（第35・36図）

第36図1～23は繩文土器である。1は深鉢であり内外面巻貝条痕と考えられる。2は深鉢であり口縁部外面に三田谷文様が施されている。口縁端部が「く」の字状に屈曲している。4は注口土器の注口部である。5～22は突帯文土器の深鉢である。すべて口縁端部には、刺突（刻目）は施されていない。5～17は突帯に刺突（刻目）が施されており、18～22は刺突（刻目）が施されていない。7は突帯部分から垂下するように直線状の突帯が1箇所貼り付いている。23は浅鉢である。24は弥生土器・甕の胴部から底部である。風化が激しい。25は石器・擦石／敲石と考えられる。両面に磨痕が確認される。



第36図 古屋敷遺跡A区第3層出土遺物実測図

第4節 第5層の調査

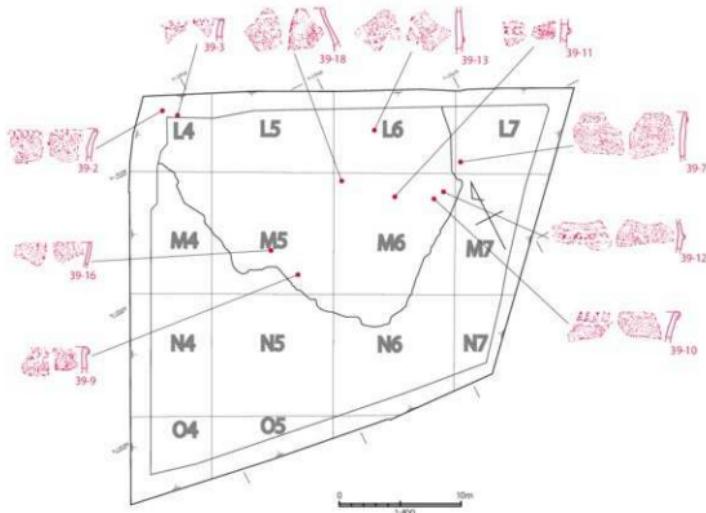
第5層は、青灰色の砂質土で、2層に細分された。この層からは、縄文土器などが出土したが、遺構は検出されなかった。第5層から出土したことが確実なのは第39図に示したもので、第38図は第3層から第5層のいずれの層から出土したか特定できないものである。また、第40図は第5層または第6層から出土したことは間違いないが、第5層出土か第6層出土か不明なものを集めた。

1. 第5層出土遺物（第37～40層）

第3層の調査終了後、第6層の調査面までは重機により掘削を行った。第37～40図は、第5層及び第5層周辺から出土した遺物の図面である。

第38図は、3～5層の遺物包含層から出土した土器である。1～6は縄文土器・深鉢である。突帯文土器である。1～5は口縁部であり、突帶にはすべて刺突（刻目）が施されている。口縁端部は、1、3、4は刺突（刻目）が施されているが、2、5は刺突（刻目）が施されていない。6は二条突帯の体部で刺突（刻目）が施されている。

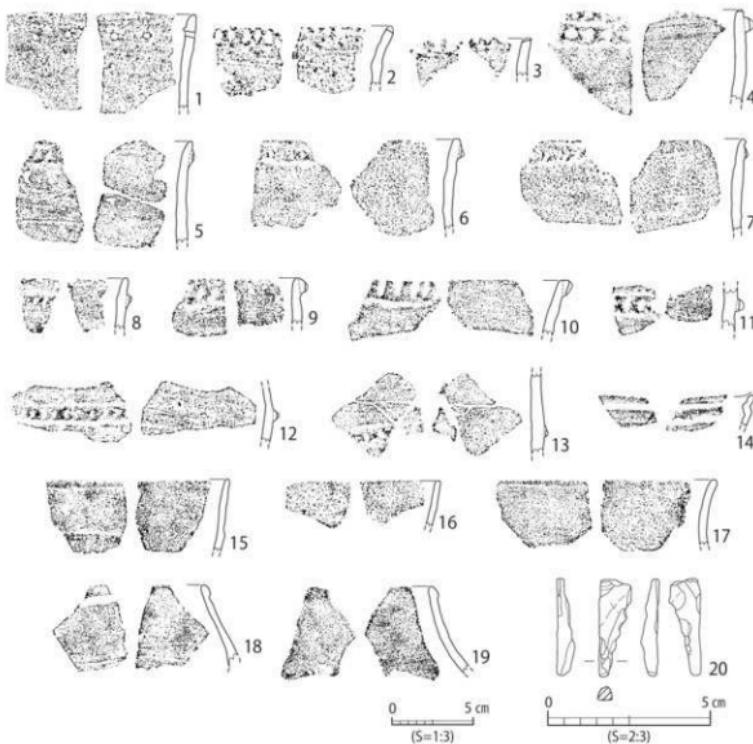
第39図は、5層出土の遺物である。1～13は縄文土器・深鉢である。1は、口縁端部から1cm下がった位置に、焼成前に外側から内側に穿孔が施されており、孔列（文）土器である。孔は土器の破面部を含めて3箇所確認され、間隔は1.5cm、2cmである。外側には、二枚貝の腹縁部を押し当てたような痕跡が確認される。やや風化しているが、色調は橙色を呈している。2、3は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。4～13は突帯文土器である。4のみ口縁端部に刺突（刻目）が施されている。5～10は突帯部分に刺突（刻目）が施されている。11～13は胴部で、突帯に



第37図 古屋敷遺跡A区第5層遺物出土状況図



第38図 古屋敷遺跡A区第3～5層出土遺物実測図



第39図 古屋敷遺跡A区第5層遺物出土状況図

刺突(刻目)が施されている。14～19は縄文土器・浅鉢の口縁部である。20は石器・石錐である。先端部分を欠くが、基部まではほぼ完形である。

第40図は、5層もしくは6層出土の遺物である。1～22は縄文土器・深鉢である。1は口縁



第40図 古屋敷遺跡A区第5・6層出土遺物実測図

端部に刺突（刻目）が施されている。2～22は突帯文土器である。2、3は口縁端部外面に粘土を貼り付け、端部に刺突（刻目）、突帯部分に、押引状の刺突（刻目）が施されている。4～10は、口縁端部と突帯に刺突（刻目）が施されている。11～14、16～18は口縁端部は無文、突帯のみに刺突（刻目）が施されている。19～22は胴部であり、突帯に刺突（刻目）が施されている。23～35は縄文土器・浅鉢である。23～33は口縁部、34、35は底部である。

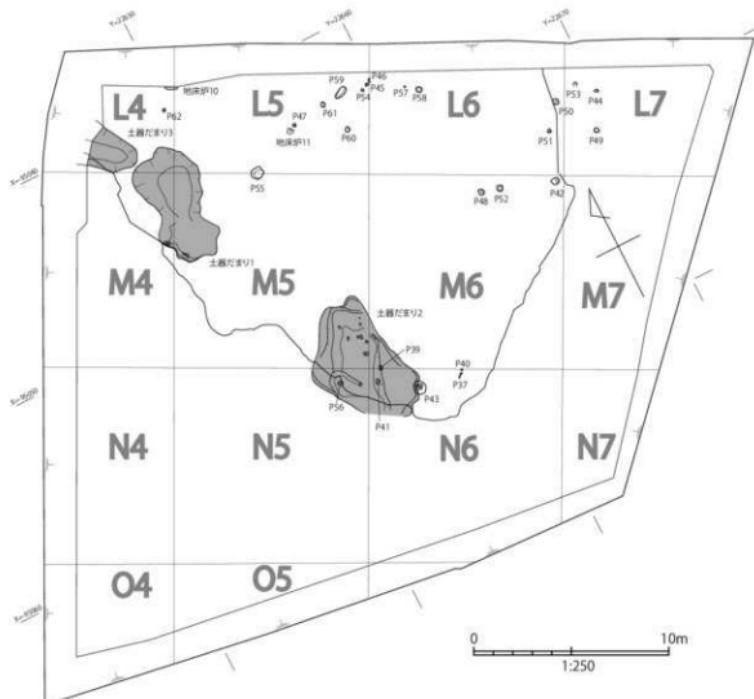
第5節 第6層の調査

第6層では、土器だまり1、地床炉1、ピット3が検出されている。

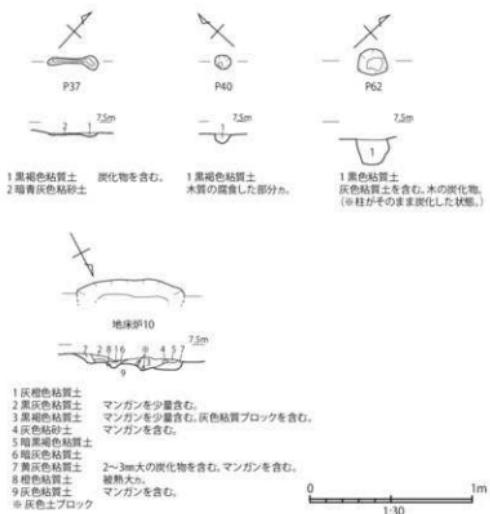
1. 地床炉、ピット（第42図）

P37、P40は標高7.4m付近、調査区中央部で検出された。両者とも黒褐色粘質土が堆積していた。P62は標高7.4m付近、調査区北端部で検出された。柱が炭化した部分と考えられる。性格当は不明である。

地床炉10は標高7.4m付近、調査区北端で検出された。被熱部分が確認された。



第41図 古屋敷遺跡A区第6・7層遺構配置図



第42図 古屋敷遺跡A区第6層ピット・地床炉実測図

かった。土器だまり1からは比較的多くの遺物が出土し、彩文が描かれた土器（第49図1）、赤彩の土器（同図2・14）、炭化種子が付着した土器（同図13）などが注目される。

第47図1～5は、細別層位不明、6、7は上層1（全体6-②層）、8～19は、上層2（全体6-④層）、第47図20～22、第48図、第49図1～10は上層3（6-⑥層）、第49図11～16は下層（第7-①層）出土遺物である。

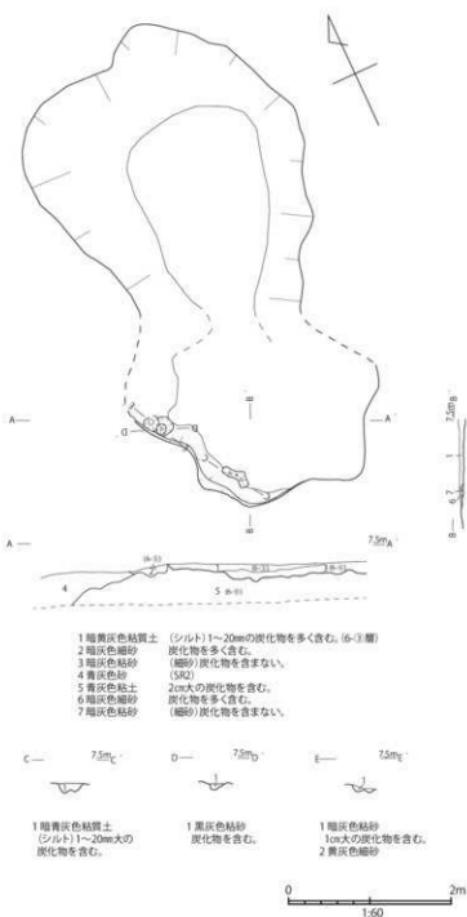
第47図1～5は細別層位不明の遺物である。1～3は、深鉢である。突帯文土器である。1は外面に二枚貝条痕がはっきりと残っている。4は、浅鉢である。5は石器・磨製石斧である。全体的に研磨されている。6、7は上層1出土の深鉢である。突帯文土器である。8～19は上層2出土遺物である。8～17は深鉢である。突帯文土器である。16は2条突帯の胴部と考えられる。18・19は浅鉢である。20～22は、上層3出土の、深鉢である。20は口縁部内面に刺突文が施されており、巻貝による条痕が残っている。21は胴部で、外面に沈線文、刺突文が施されている。22は突帯文土器で、口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。

第48図は、上層3出土遺物である。1～44は突帯文土器の深鉢である。1～21は口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。1は、口縁端部より1.5cm下がった位置に焼成後に穿孔が施されている。22～39は突帯に刺突（刻目）が施されているが、口縁端部にはない。40、41は、口縁端部、及び突帯にも刺突（刻目）が施された二条突帯文土器である。42は口縁端部が欠損している。43、44は二条突帯文土器の胴部である。45は深鉢底部である。

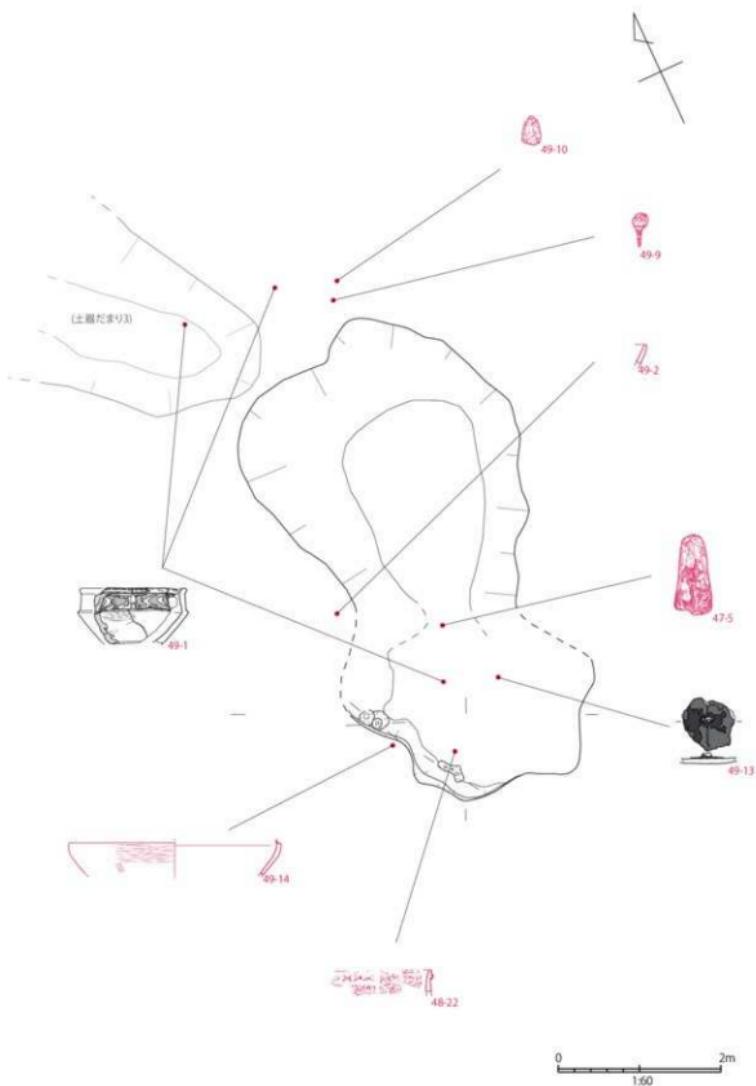
第49図1～10は上層3出土遺物である。1は浅鉢で、彩文土器ある。全体的に黒色基調の器面であり、口縁部外面に赤色の塗料により文様が描き出されている。底部は残存していないが高台がつく可能性がある。また破面は熱によるためか変色している。2は朱塗りの鉢もしくは浅鉢で

2. 土器だまり1（第43～49図）

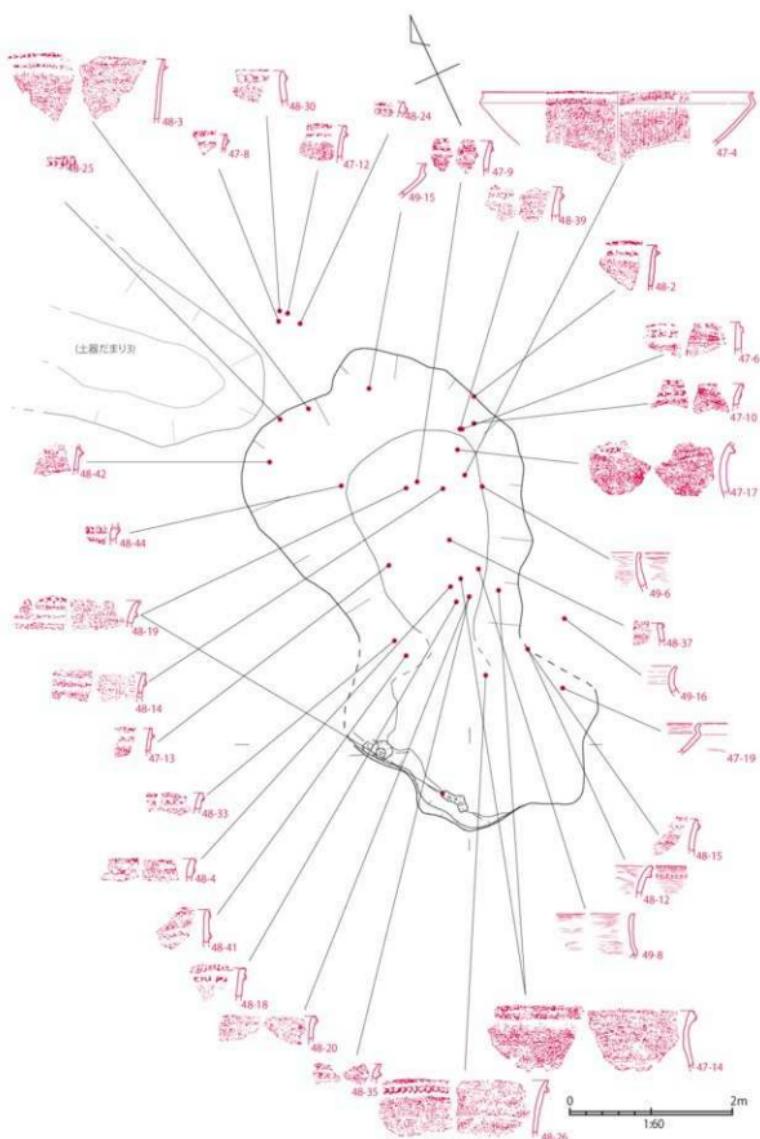
調査区北端部付近に位置する。第6層をほぼ除去した段階で検出され、浅い落ち込みに土器が投棄されていた。この落ち込みは、第7層を若干掘りくぼめるように形成され、平面形瓢箪形、断面形皿形を呈す。落ち込みの規模は、長軸約6m、短軸2～3.3mを測る。全体に不整形で、人為的な遺構でないよう観察された。この部分には上位に炭化物を多く含む層（第43図第1層）と下位に炭化物をあまり含まない層（同図第3層）の2層が堆積していたが、遺構がどちらかに集中している様子はな



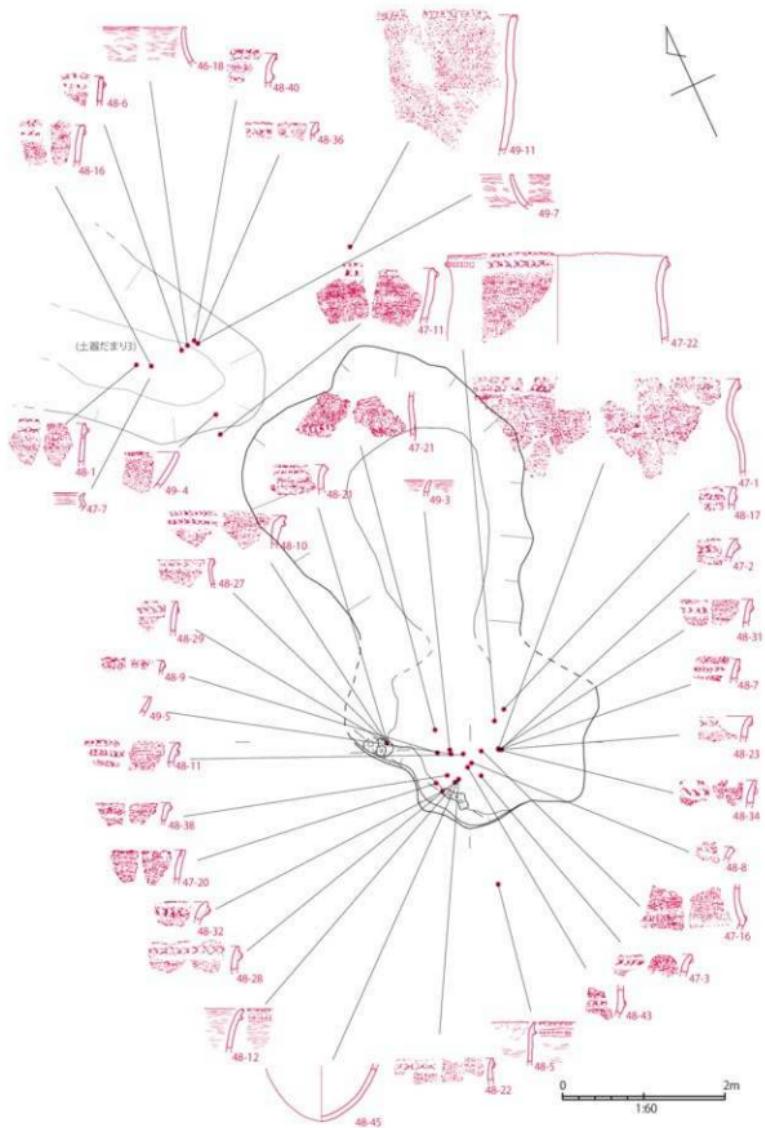
第43図 古屋敷遺跡 A 区第6層土器だまり 1 実測図



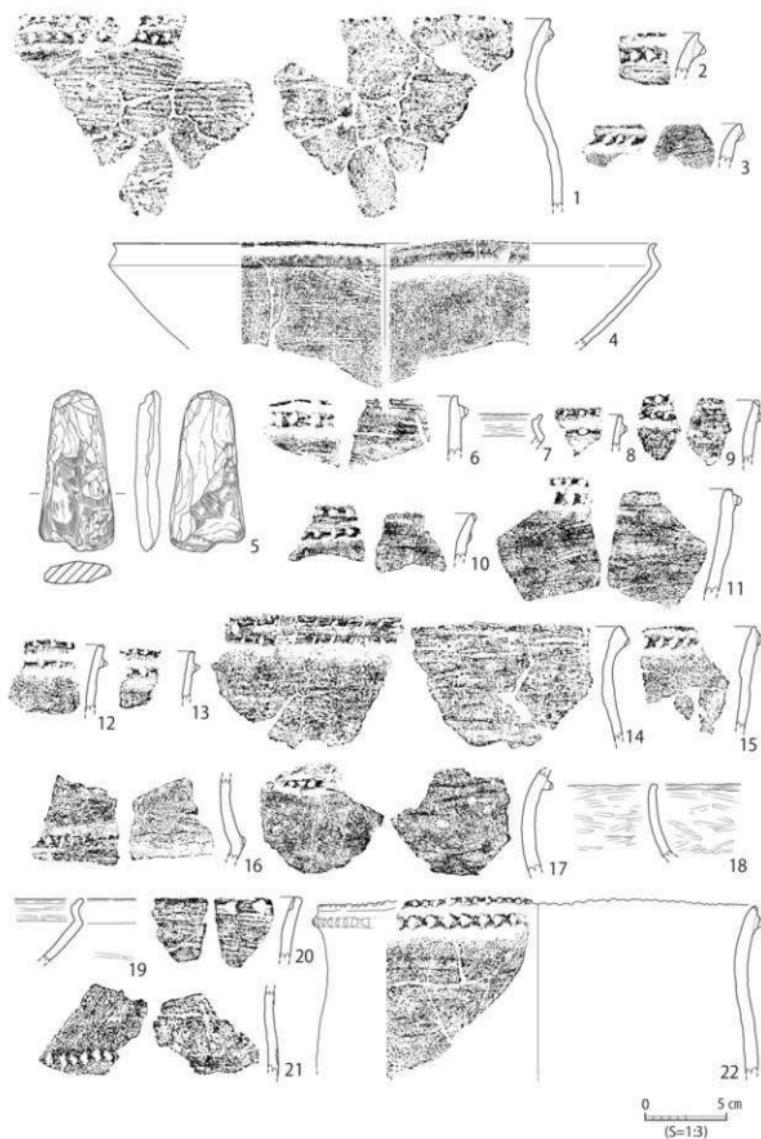
第44図 古屋敷遺跡A区第6層土器だまり1遺物出土状況図1



第45図 古屋敷遺跡 A 区第6層土器だまり 1 遺物出土状況図 2



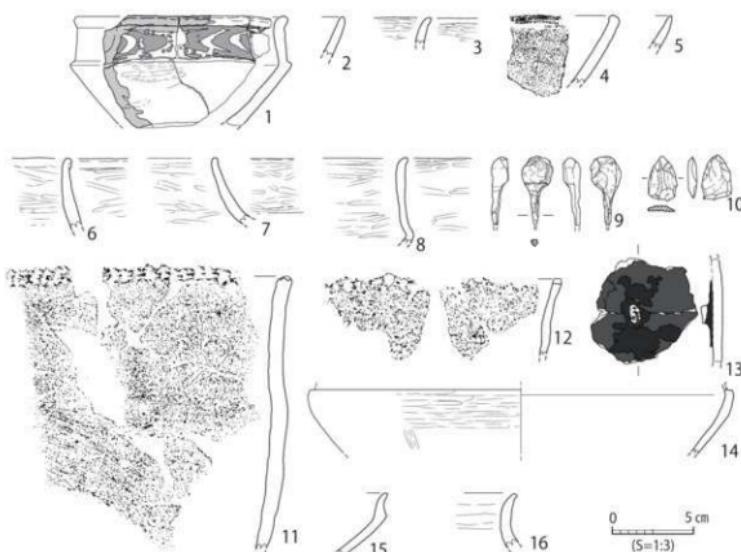
第46図 古屋敷遺跡A区第6層土器だまり1遺物出土状況図3



第47図 古屋敷遺跡A区第6層土器だまり1出土遺物実測図1



第48図 古屋敷遺跡 A 区第6層土器だまり 1 出土遺物実測図 2



第49図 古屋敷遺跡A区第6層土器だまり1出土遺物実測図3

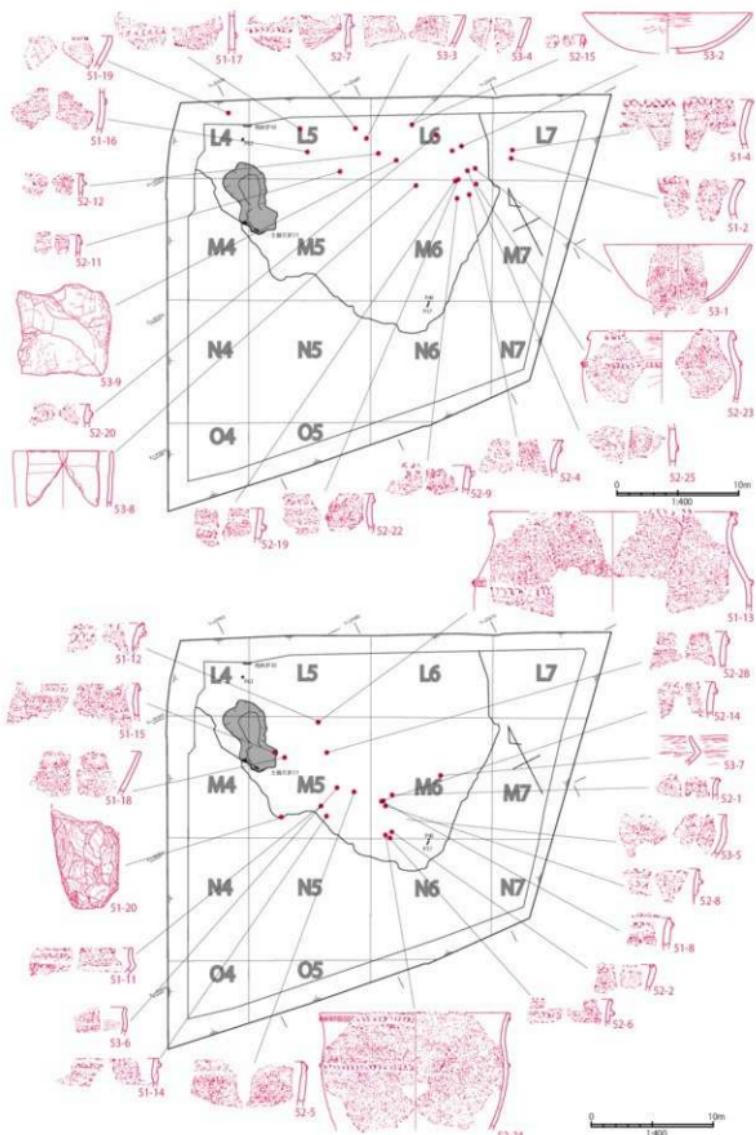
ある。焼成前の塗布の可能性がある。4～8は浅鉢である。9、10は石器である。9は石錐、10は石鎌である。

11～16は、下層出土の遺物である。11、12は深鉢であり、口縁端部に、刺突（刻目）が施されている。13は、粗製の土器であり、内面に炭化物と、植物の実が付着している。14～16は浅鉢である。14は朱塗り浅鉢の体部である。

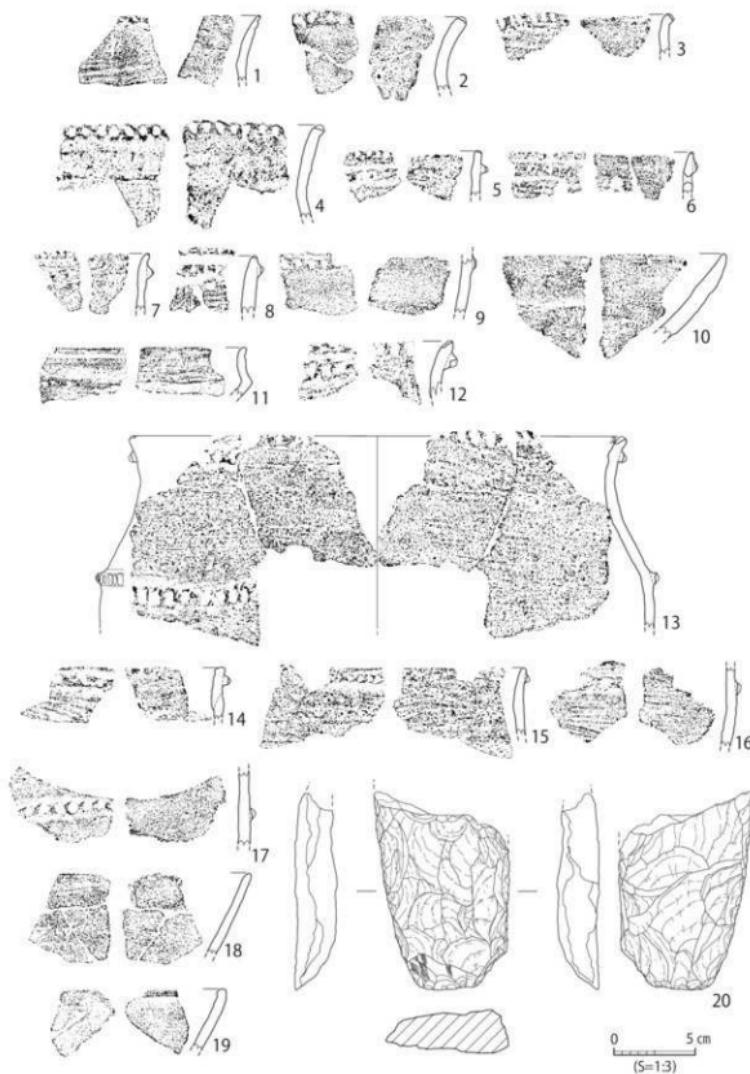
3. 第6層出土遺物（第50～53図）

第6層は①～⑨層に細分（そのうち④～⑦層は土器だまり1の堆積土）したが、細分層位と遺物の出土層位を対応させて取り上げることができたのは、第51図12～20（②層）、第52図1～27・第53図（③層）、第52図28（⑧層）である。第51図1～11は、第6層出土ではあるが、細分層位は不明である。

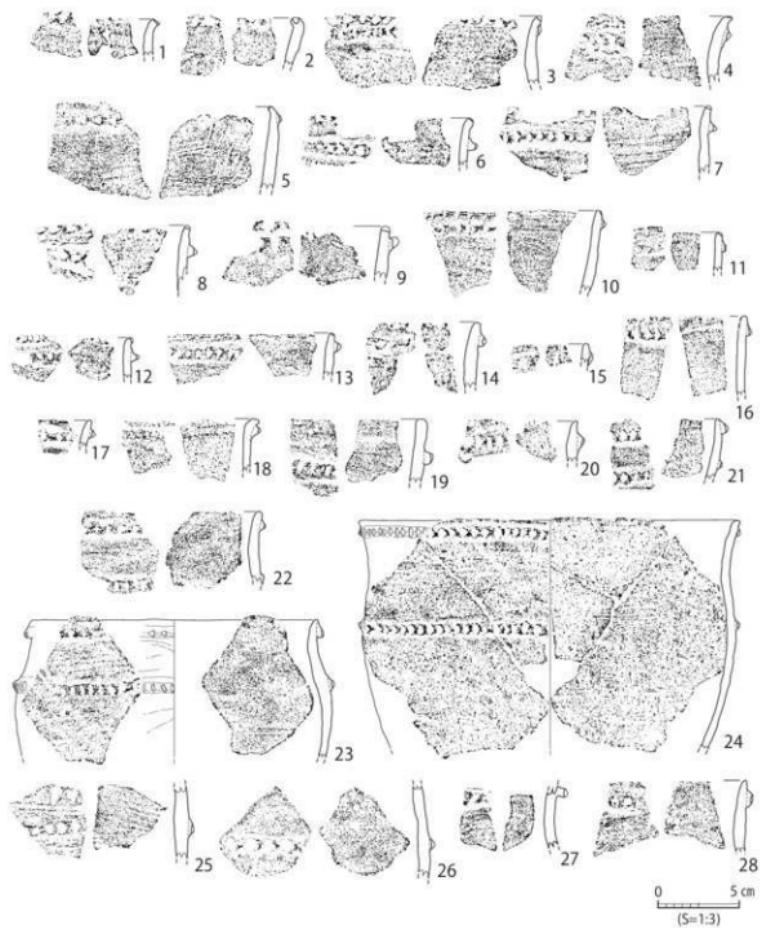
第51図1～4は、深鉢と考えられる。1は巻貝によると考えられる条痕が、内外面に残る。2～4は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。5～8は、口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている突帯文土器の深鉢である。9は二条突帯の深鉢の胴部である。10、11は浅鉢である。12～17は突帯文土器の深鉢である。12、13は口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。13は二条突帯で、口縁部及び胴部最大径付近に突帯が付いている。14、15は口縁端部には刺突（刻目）が施されている。16、17は二条突帯の胴部である。18、19は浅鉢である。20は石器、打製石斧であり、欠損している。



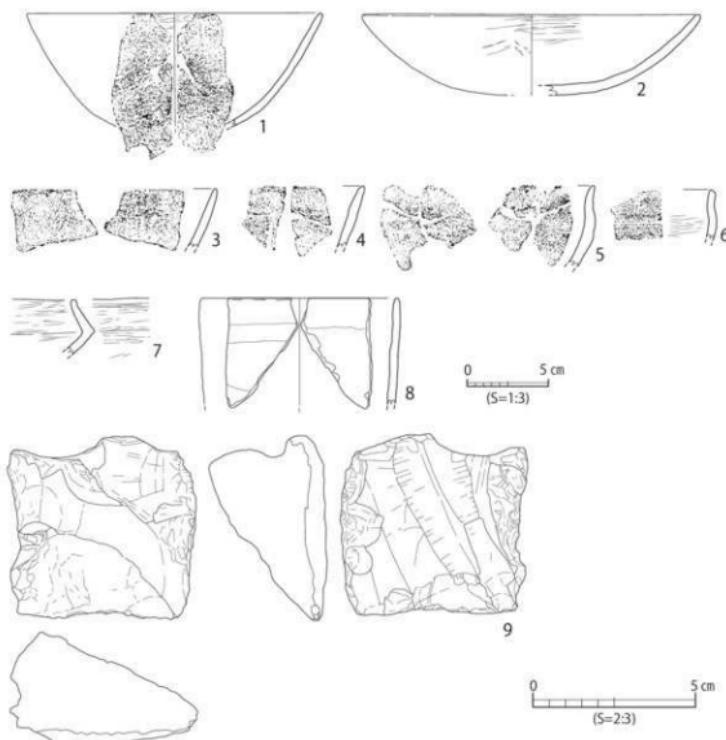
第50図 古屋敷遺跡 A 区第6層遺物出土状況図



第51図 古屋敷遺跡A区第6層出土遺物実測図1



第52図 古屋敷遺跡 A 区第6層出土遺物実測図2



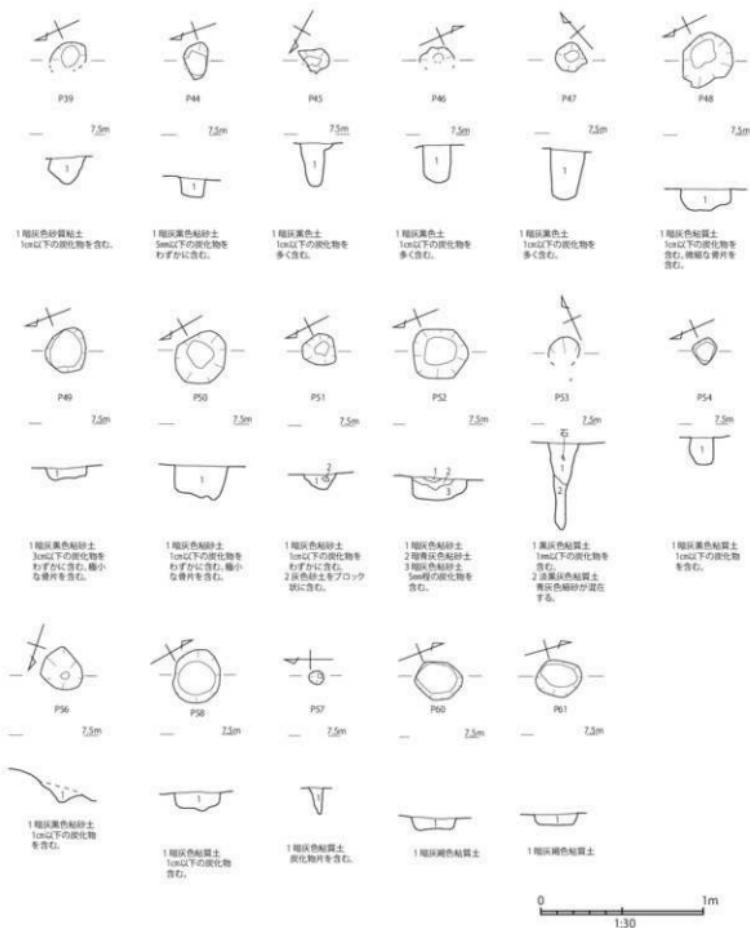
第53図 古屋敷遺跡A区第6層出土遺物実測図3

第52図1、2は、深鉢で、口縁端部に、刺突（刻目）が施されている。3～27は、突帯文土器の深鉢である。3～13は口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。14～20は突帯には刺突（刻目）が施されているが、口縁端部には施されていない。21～26は二条突帯文である。21～24は二条の突帯には刺突（刻目）が施されているが、口縁端部は施されていない。25、26は胸部である。27は口縁部であるが口縁端部を欠損している。28は突帯文土器・深鉢である。

第53図1～7は浅鉢である。8は器種は不明である。鉢や円筒形の土器の口縁部などが推測される。また内外面に赤色の塗料が塗布されている。黒色の土器の器面に、外面には口縁部よりやや下がった位置と、さらに3cm下がった位置に、二条の黒色部分が描き出されている彩文土器と考えられる。また内面の口縁部も赤彩されている。9は石器で、スクレイパーの可能性が考えられる。

第6節 第7層の調査

第7層では、土器だまり3、地床炉1、ピット22などが検出された。土器だまり2は、8層上面に近い7層下位の検出であったが、その他は7層上面の検出である。7層でも下位部分の土器だまり2についてはA区グリッド(M6-N7-O7)ライン土層図やA区南西-北東土層図の観察により、

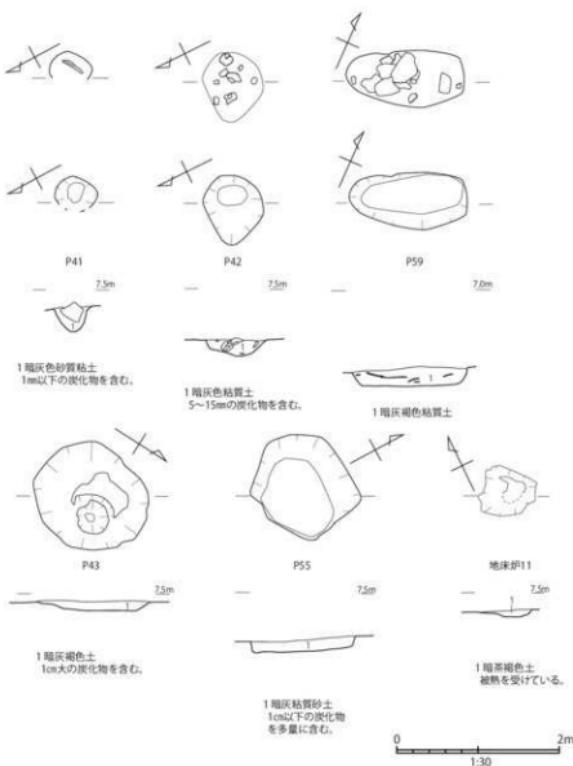


第54図 古屋敷遺跡A区第7層ピット実測図1

SR3部分に大量の砂礫が堆積する前の流路により削りとられていたと考えられる。

1. ピット・地床炉（第54～56図）

ピットは調査区北東部端付近と土器だまり2の上位で検出された。平面的には、およそ3グループに分かれて、分布している。調査区北東端のグリッドL5～L6にかけて一つのグループ、調査区東端のグリッドL7付近に一つのグループ、土器だまり2の上位に一つのグループである。検出された標高は、7.0～7.5mである。ピットから出土した遺物は、第56図のとおりである。1

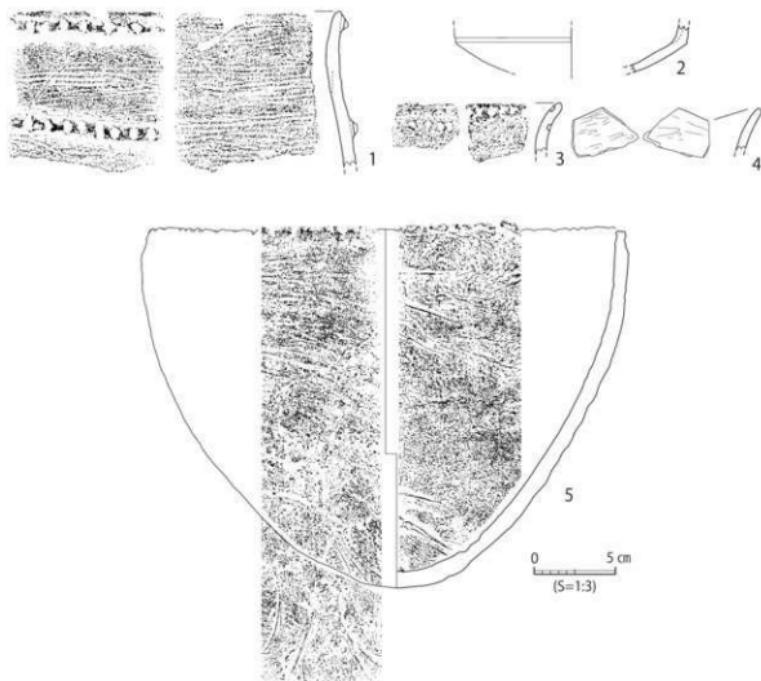


第55図 古屋敷遺跡A区第7層ピット実測図2

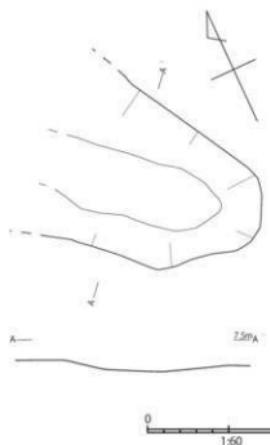
はP41から出土した二条突带文土器の深鉢である。内外面に二枚貝による条痕がはっきりと残っている。2は第6層検出のP40出土の浅鉢である。3はP42出土の深鉢の口縁部である。内面の口縁端部付近と外側口縁部から1.5cmくらい下がった部分に刺突文が施されている。4はP55出土の浅鉢である。波状口縁と考えられる。5はP59出土の深鉢である。他のピットは土器の破片1点程度の出土であるが、P59からは、1個体ではあるが、50%以上復元できる遺物が出土した。粗製の深鉢で、口縁端部には、刺突（刻目）が施されている。

2. 土器だまり3（第57・60図）

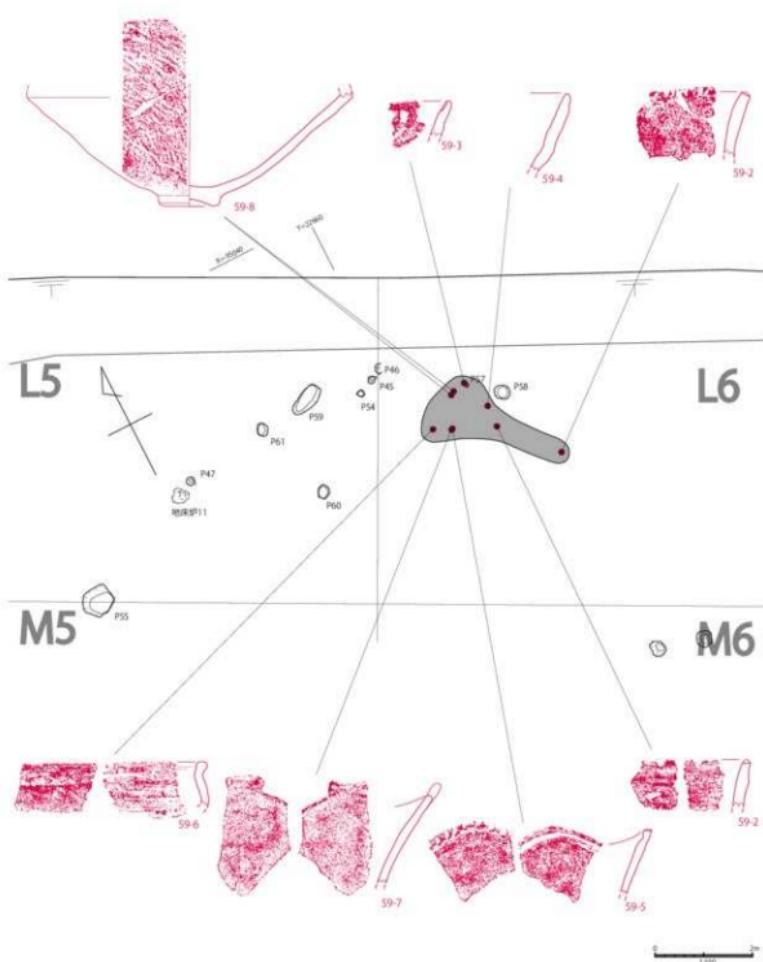
調査区北端に位置する。長さ2.5m、幅2m、深さ10cmであり、北東方向には調査区の外に広がっている。



第56図 古屋敷遺跡A区第7層ピット出土遺物実測図



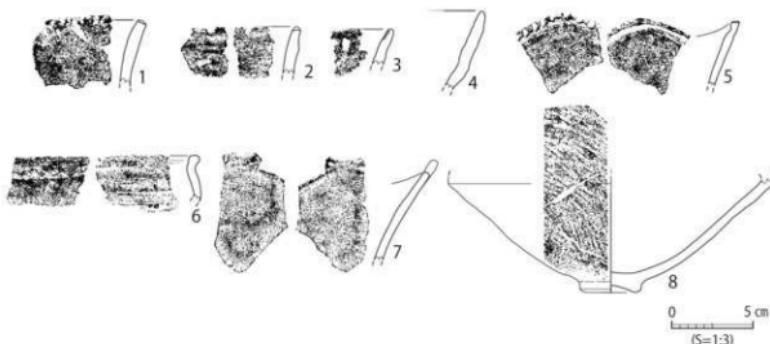
第57図 古屋敷遺跡A区第7層土器だまり3実測図



第58図 古屋敷遺跡A区第7層土器だまり4遺物出土状況図

3. 土器だまり4(第58、59図)

調査区の北東端部分のピットが集中する部分で検出された。遺物の出土量は多くないが、割石が出土したこと、調査区端の壁面で第7層上面に落ち込み部分が確認できたことから土器だまり4とした。第59図1～4は深鉢である。1、2は口縁端部に刺突(刻目)が施されている。3は口縁部内面に刺突文が施されている。5～8は浅鉢である。5は口縁端部内面に沈線があり、端部には刺突(刻目)が施されている。波状口縁である。7はリボン状突起が付く口縁である。8は胴部最大径部分から底部にかけての部分であり、外面に二枚貝条痕が残っている。



第59図 古屋敷遺跡A区第7層土器だまり4出土遺物実測図

4. 第7層出土遺物（第60～63図）

第61図及び第62図1～25は、細分層位不明の遺物である。第62図25、26は第7-①層出土遺物である。第63図1～2は第7-④層出土遺物である。3～8は、第7-⑤層出土遺物である。

第61図1～6は、深鉢である。1～3は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。7、8は突帯文土器の深鉢である。8は緩波状口縁である。突帯及び口縁端部に刺突（刻目）が施されている。两者とも50%以上復元できた。

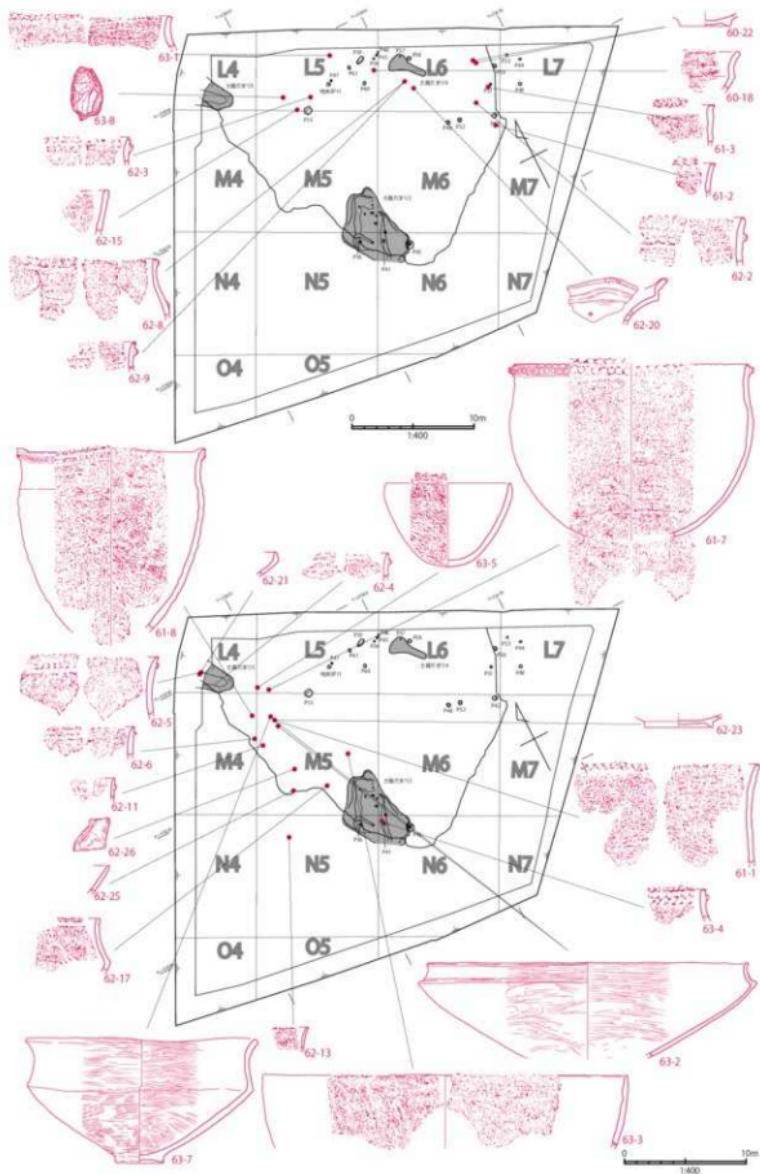
第62図1～12は突帯文土器の深鉢である。1～9は、口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。10、11は口縁端部には刺突（刻目）が施されていないが、突帯には施されている。12～25は浅鉢である。12～21は口縁部である。21は波状口縁であり、口縁部が「く」の字に屈曲し、口縁端部に2箇所刺突（刻目）が施されている。また体部に1箇所、焼成後に穿孔が施されている。22～24は底部である。25は浅鉢の口縁部である。26は石器・スクレイバーである。上下両端が欠損している。

第63図1は深鉢で、口縁端部に刺突（刻目）が施されている。2、3は浅鉢である。4、5は深鉢である。4は突帯文土器の深鉢で、口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。5は深鉢である。6、7は浅鉢である。7は約80%復元できた。8は、石器・打製石斧である。

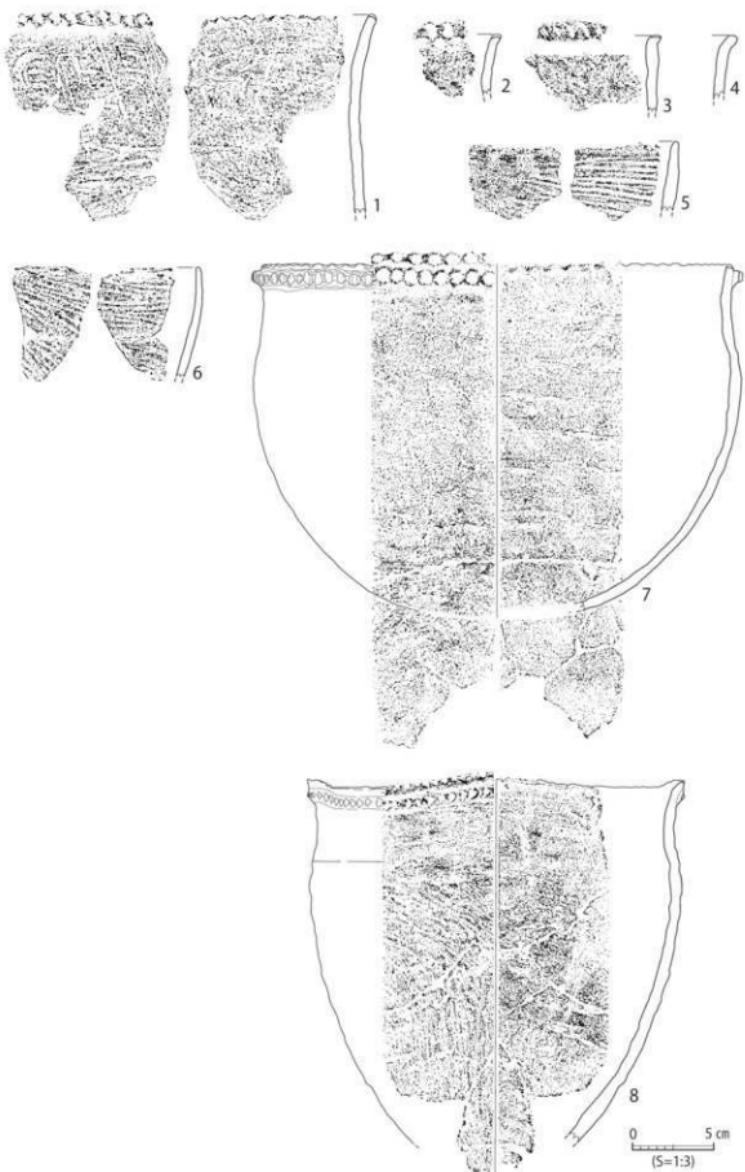
5. 土器だまり2（第64～72図）

調査区のほぼ中央に位置し、標高7.0～7.1mで検出され、第7-⑤層と第8層にはさまれた状態であった。平面規模は、南北6.0m、東西に4.0mの不整長方形の落ち込みに遺物が集積していた。（第64図）な楕円状である。深さは、一番深い部分では検出面から30cmである。5層に分かれる。土器だまり2第1層は、全体の第14・15層である。多くの遺物が出土したのはD2-3層及びD2-4層であり、遺物の他炭化物が多く出土した。とくにD2-2層は多量の炭化物が出土している。土器だまり2の底面は全体に皿状をしているが、南西端は、SR3によって削られている。

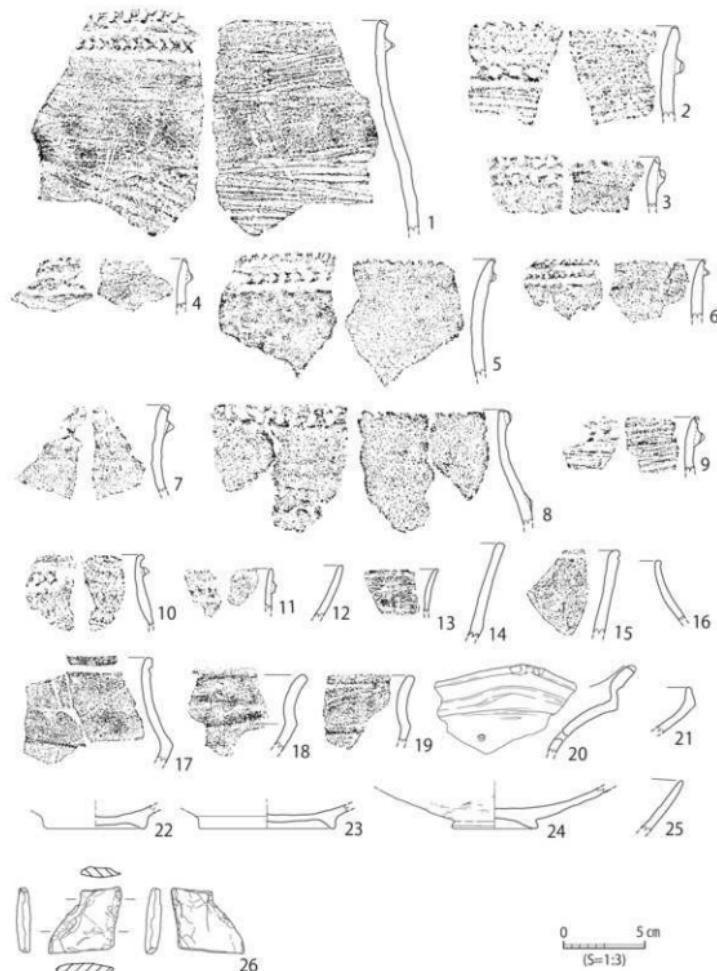
第68図1～5は、出土層位不明の遺物である。第68図6、7及び第69図1～3は、土器だまり2直上の7-⑤層出土の遺物である。第69図4～10はD2-1もしくはD2-2層出土の遺物である。第70図及び第71図1～11はD2-3層出土遺物である。第71図12～17及び第72図1



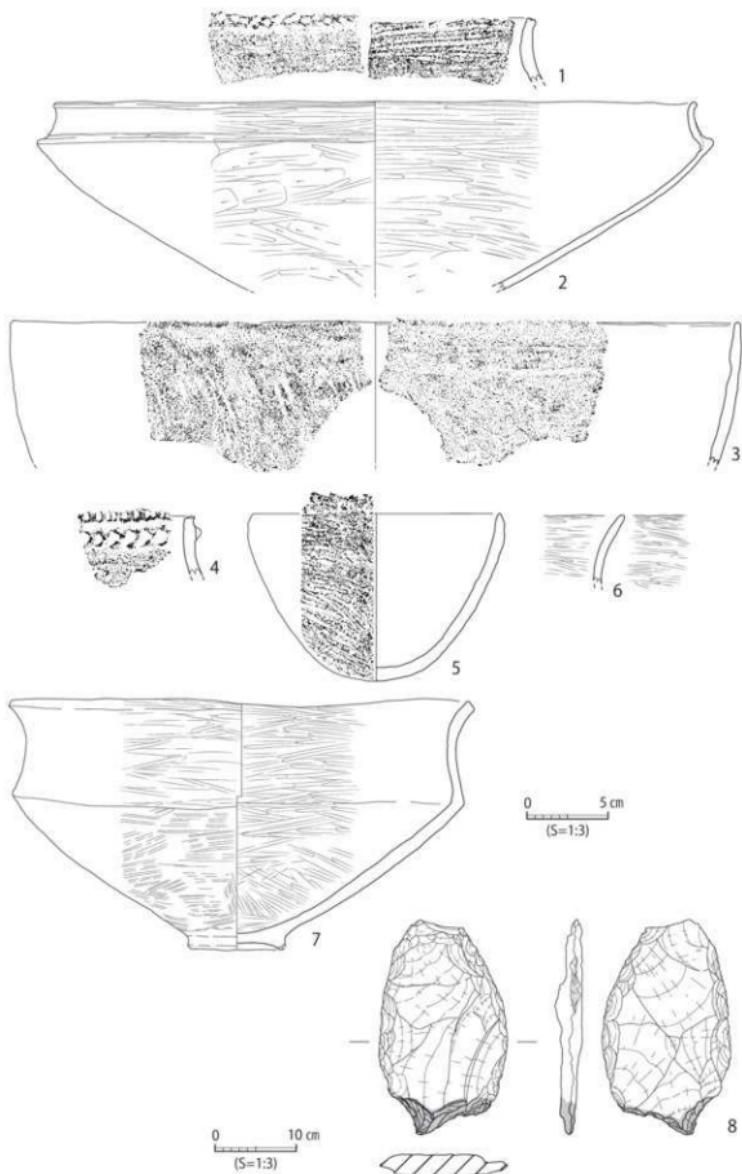
第60図 古屋敷遺跡A区第7層遺物出土状況図



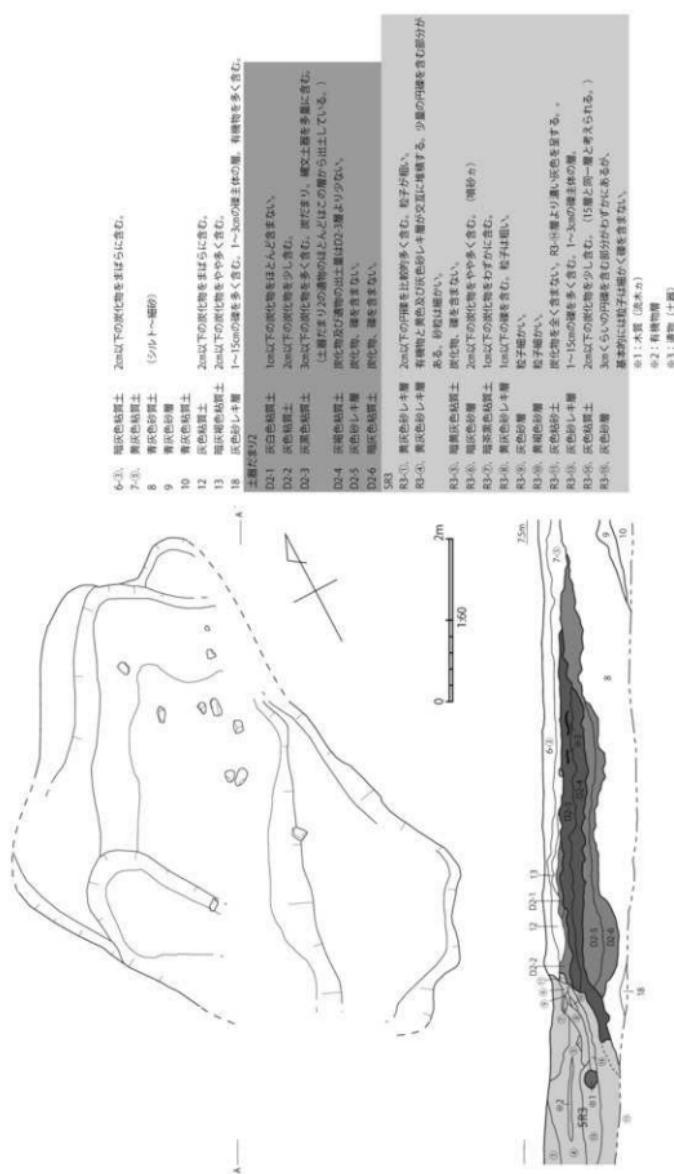
第61図 古屋敷遺跡 A 区第7層出土遺物実測図 1



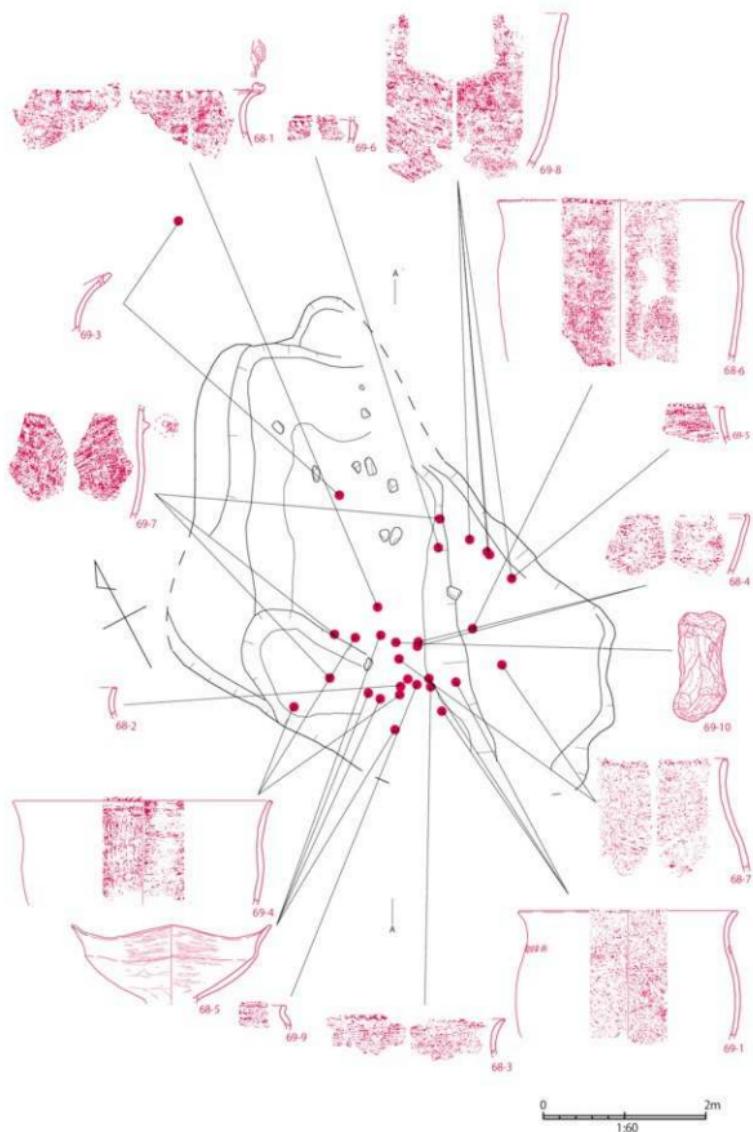
第62図 古屋敷遺跡 A 区第7層出土遺物実測図 2



第63図 古屋敷遺跡 A 区第7層出土遺物実測図3



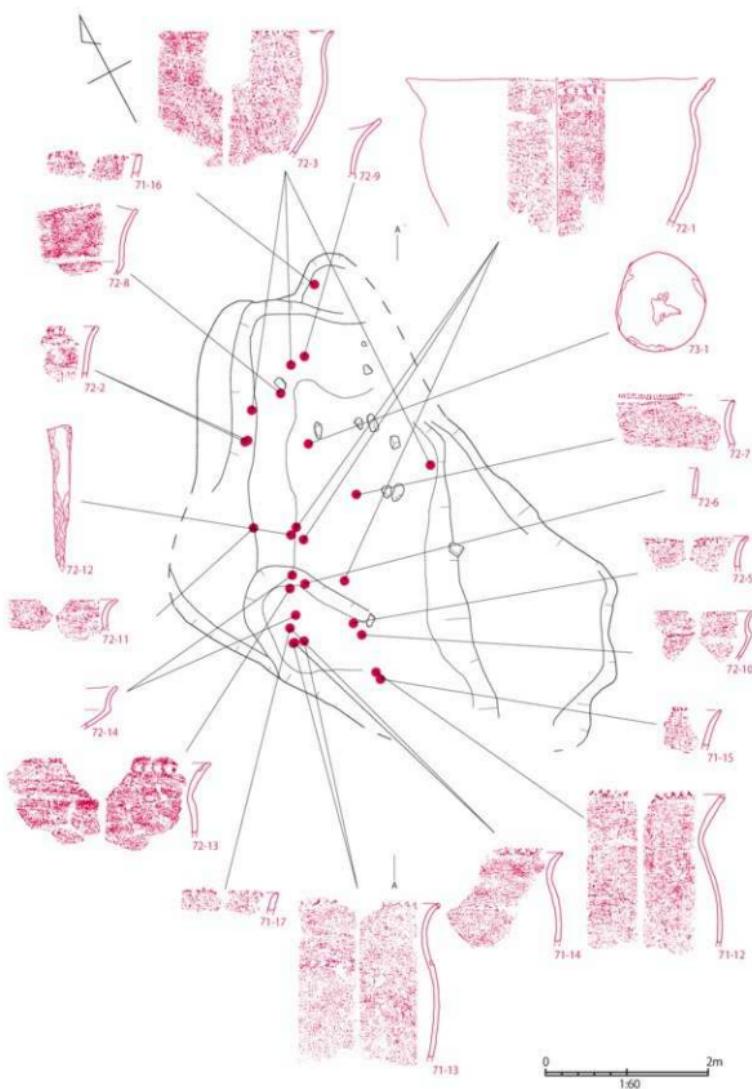
第64図 古屋敷遺跡A区第7層土器だまり2実測図



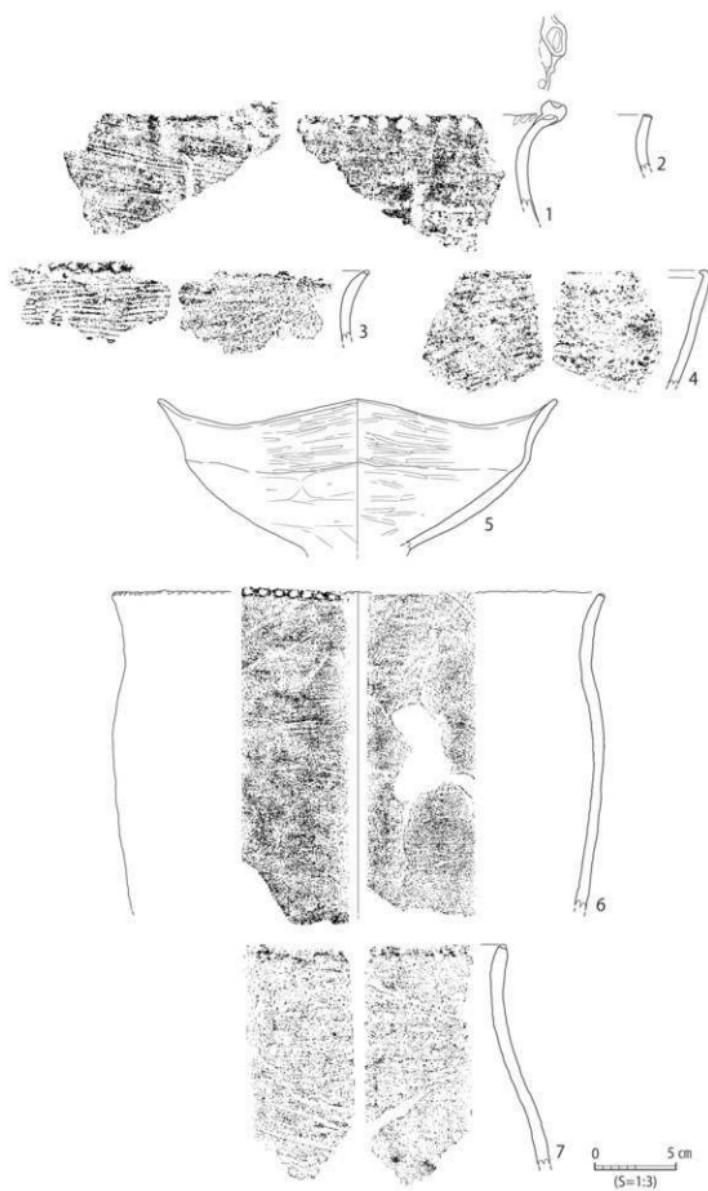
第65図 古屋敷遺跡A区第7層土器だまり2遺物出土状況図1



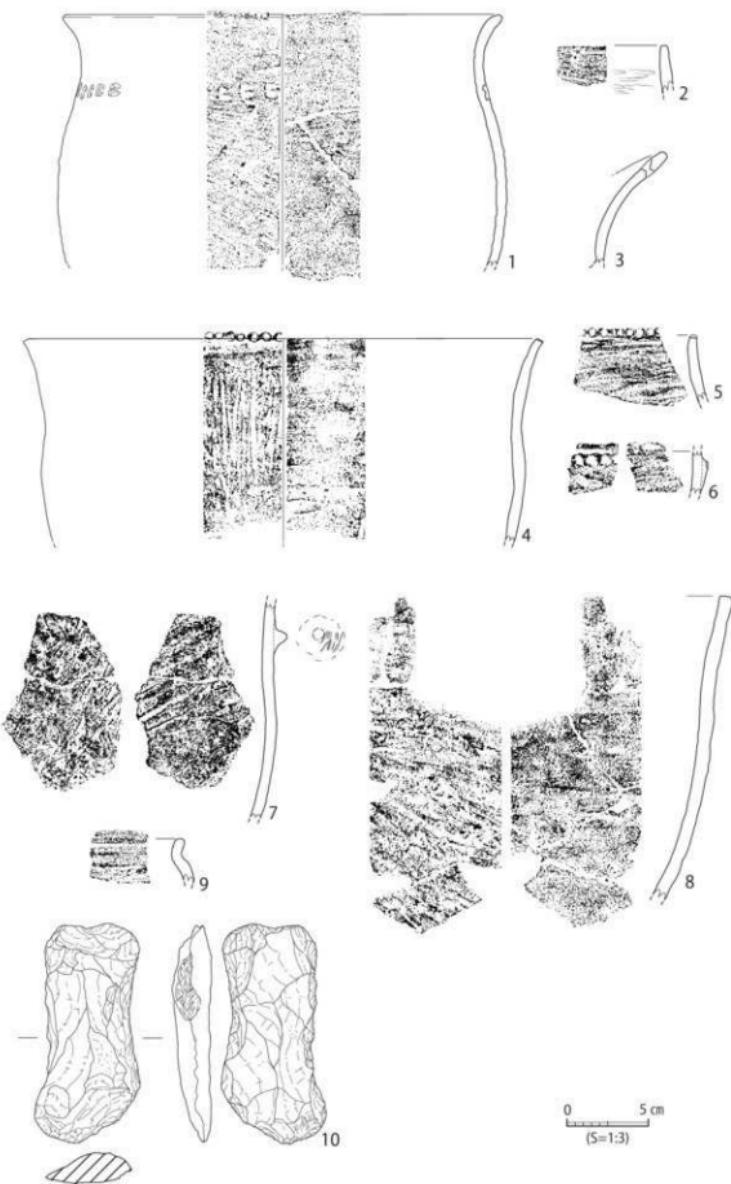
第66図 古屋敷遺跡 A 区第7層土器だまり 2 遺物出土状況図 2



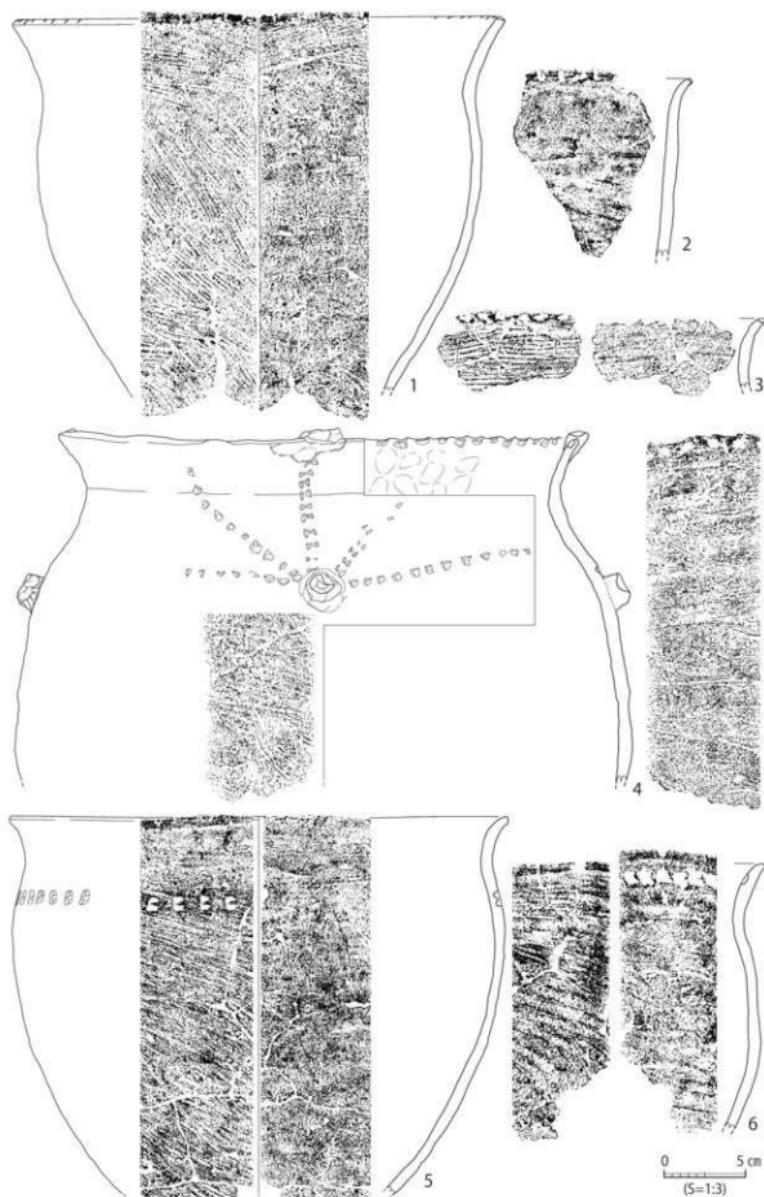
第67図 古屋敷遺跡 A 区第7層土器だまり 2 遺物出土状況図 3



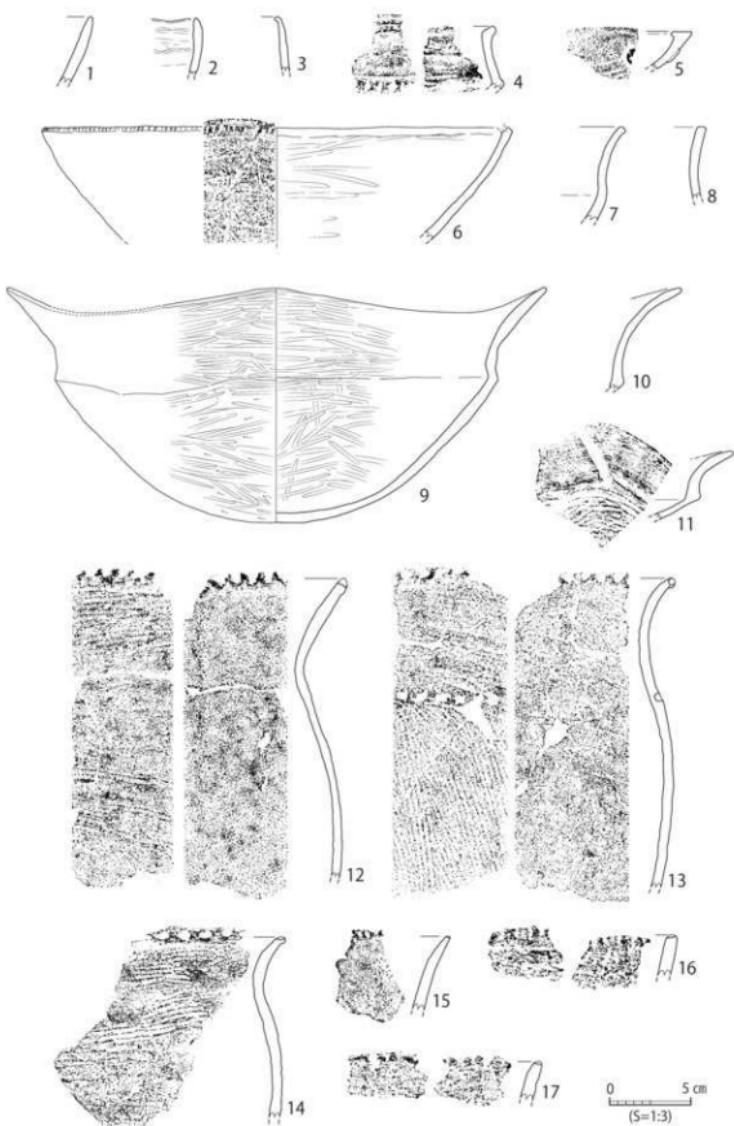
第68図 古屋敷遺跡 A 区第7層土器だまり2出土遺物実測図1



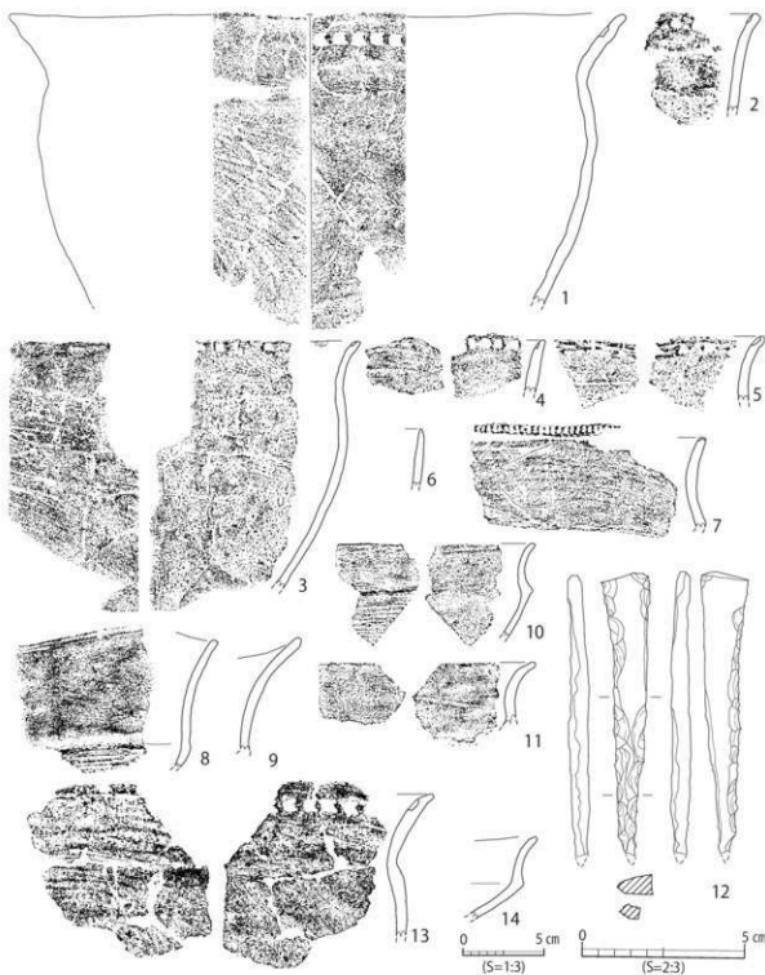
第69図 古屋敷遺跡 A 区第7層土器だまり 2 出土遺物実測図 2



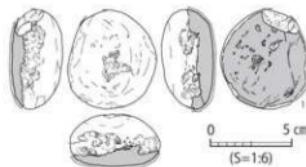
第70図 古屋敷遺跡 A 区第7層土器だまり 2 出土遺物実測図 3



第71図 古屋敷遺跡 A 区第7層土器だまり 2出土遺物実測図 4



第72図 古屋敷遺跡 A 区第7層土器だまり 2 出土遺物実測図 5



第73図 古屋敷遺跡 A 区第7層土器だまり 2 出土遺物実測図 6

～12はD2-4層出土遺物である。第72図13、14及び第72図はD2-5層出土遺物である。

第68図1～4は深鉢である。1は口縁部に小さな突起が付いている。現状で1箇所浮文が付いている。また口縁部内面に連続刺突文が施されている。突起は刺突文が施された後、その上から粘土を貼り付けている。内外面には、二枚貝条痕が残っている。また土器の色調は灰白色を呈している。第70図4と同一個体の可能性が考えられる。2、3は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。内外面に二枚貝条痕がよく残っている。4は口縁端部が内面にかぎ状に折り曲げられている。5は波状口縁の浅鉢である。6、7は口縁端部に刺突（刻目）が施されている深鉢である。7はV字状の刺突である。

第69図1、2は深鉢である。1は頸部に押し引き状の連続刺突文が施されている。刺突文の約1cm上には、水平方向に沈線上の落ちこみが残っている。この落ち込み部分から下は斜め方向の条痕がはっきりと残っている。3は浅鉢である。波状口縁と考えられ、波頂部下には、焼成後に穿孔が施されている。わずかに残存する底部外面には、二枚貝条痕が残っている。口縁部外面は最終的にはミガキ調整であるが、口縁端部付近に二枚貝腹縁部痕と考えられる浅い圧痕が確認される。4、5は口縁端部に刺突（刻目）が施されている深鉢である。外面口縁部から胴部にかけては粗い縦方向のミガキ状の調整が施されている。器形、調整、胎土などから7と同一個体の可能性が高いと考えられる。6は口縁端部が欠損しているが、口縁部外面に突帯が付き、刺突（刻目）が施されている。やや異形ではあるが、土器だまり2では唯一の突帯文土器の可能性がある。深鉢と考えられる。7は、深鉢と考えられ、胴部外面に直径約1.5cm、高さ約8mmの鉢状の浮文が貼り付けられている。浮文の横にはへら状の工具で沈線が幾重にも付けられている。8は無文の深鉢である。他の土器に比べ固く、焼き締まった感がある。胴部外面下半は斜め方向の巻貝条痕と考えられる。9は浅鉢である。10は石器・打製石斧である。先端部分が欠損したと考えられる。

第70図1～6は深鉢である。1～3は口縁端部に刺突状の刻み目文が施されている。1・3の外面は、二枚貝条痕が顕著に残っている。4は外反する短い頸部をもち胴部が強く張る深鉢である。口縁内面上端には連続刺突文が施され、上面が凹む小突起が付されている。胴部には上面が凹む円形浮文が付され、それに取り付くように連続刺突文が付けられている。連続刺突文の意匠は、胴部が水平、肩部・頸部が下向きの矢印状の意匠である。外面には二枚貝条痕がよく残っている。

第71図1～3は、深鉢である。4～11は浅鉢である。4は「く」の字に屈曲する部分に刺突（刻目）が施されている。5は外面に円形の浮文が付いている。6は「く」の字に屈曲する部分に刺突（刻目）が施されている。12～17は深鉢である。口縁端部に刺突（刻目）が施されている。12の外面は、二枚貝条痕が残っている。また胴部外面は橙色を呈している。13は頸部と胴部の境界付近の水平方向に連続刺突文が施されている。刺突文下の胴部外面には二枚貝条痕がはっきりと残っている。14は、外面に二枚貝条痕が残る。16、17の口縁端部にはV字状の細い刺突（刻目）が施されている。

第72図1～6は深鉢である。1～5は、口縁部内面に連続刺突文が施されており、2～5は口縁端部とほぼ接している。7～11は浅鉢である。7は口縁端部に密に刺突（刻目）が施されている。外面には黒色物質の付着が観察できる。12は石器・石錐である。13は、口縁部内面に連続刺突文が施されている。14は浅鉢である。

第73図1は、石器・擦石／敲石である。

第7節 8・10・11層の調査

1.8 層出土遺物（第74・75図）

第74図1、2は深鉢である。口縁端部に刺突（刻目）が施されている。1は、口縁部内面の端部から0.5cm下に、口縁部外面の端部から1.5cm下にそれぞれ連続刺突文が施されている。3は浅鉢である。

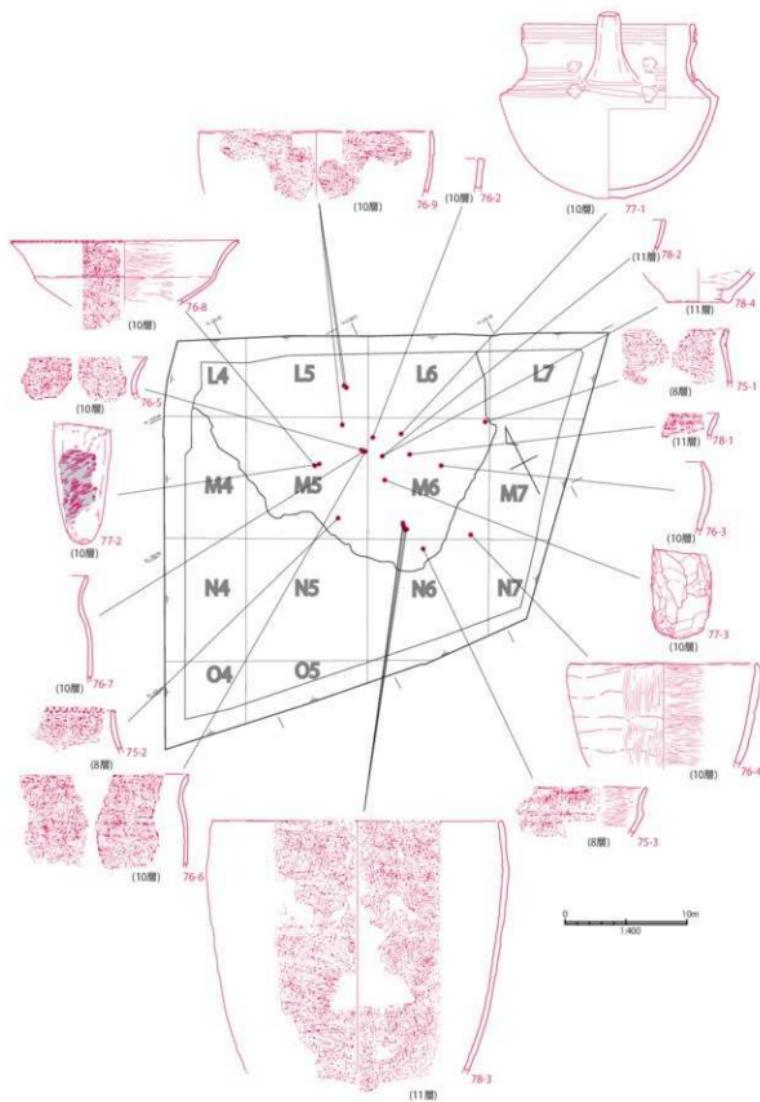
2. 第10層出土遺物（第74・76・77図）

第76図1～7は深鉢である。1は外面の頸部を除く部分に擬似羽状縄文が施されている。後期中葉崎ヶ鼻2式もしくは冲丸式である。全体的に風化している。4の外面は縱方向のミガキがわずかに確認できる。5～7は頸部が緩く「S」字状に屈曲する。8は浅鉢である。8は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。

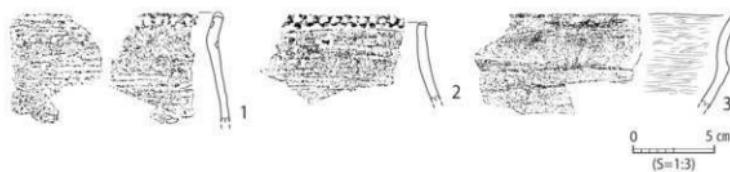
第77図1は注口土器である。三分の二程度復元された。口縁部は「く」の字形に屈し、胴部最大径で明瞭な稜が付く。文様は4口縁部、頸部、胴部の3箇所に2条ずつ四線文が付けられている。口縁部と頸部には対をなして推定8箇所施されている。これとは別に注口の首位をめぐるように5箇所配されている。2は擦石／敲石、3は打製石斧である。2は側面に磨面が、また全体的に敲打痕が多く確認できる。

3. 第11層出土遺物（第74・78図）

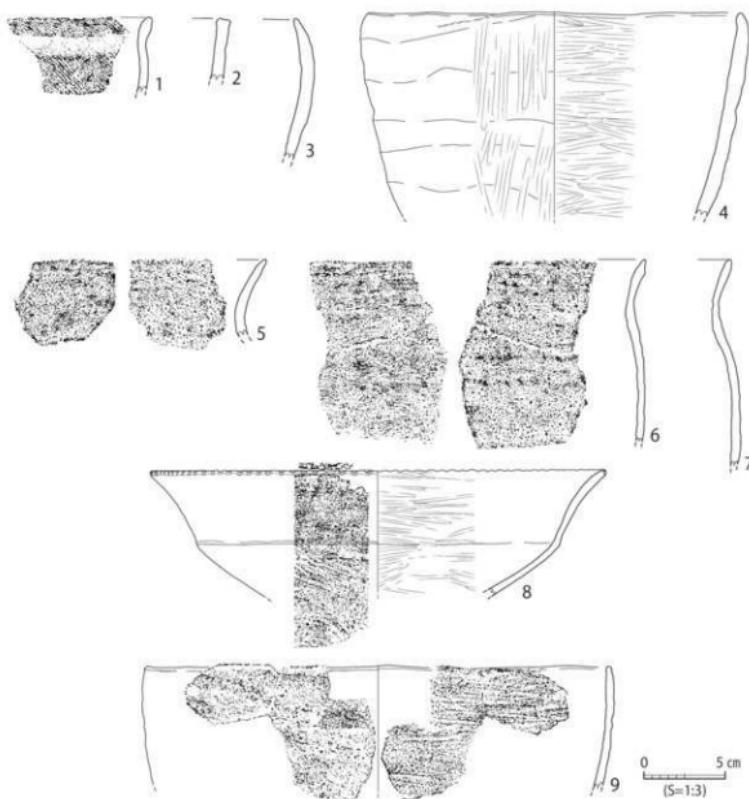
第78図1は口縁部外面に縄文が施されている。後期中葉と思われる。3は口縁から胴部にかけての粗製深鉢である。4は深鉢の底部である。5は外面に凹点文とそれにとりつく沈線文が施されている。



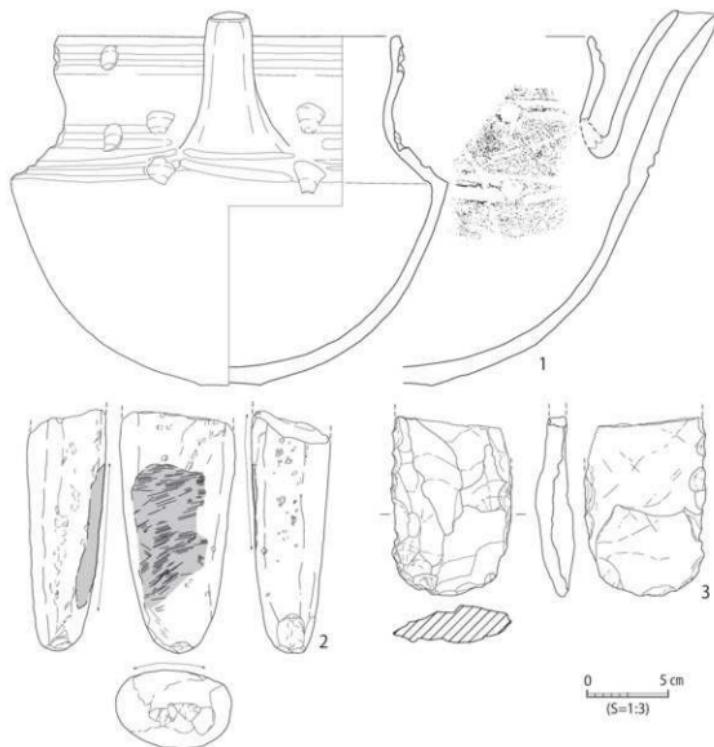
第74図 古屋敷遺跡A区第8～11層遺物出土状況図



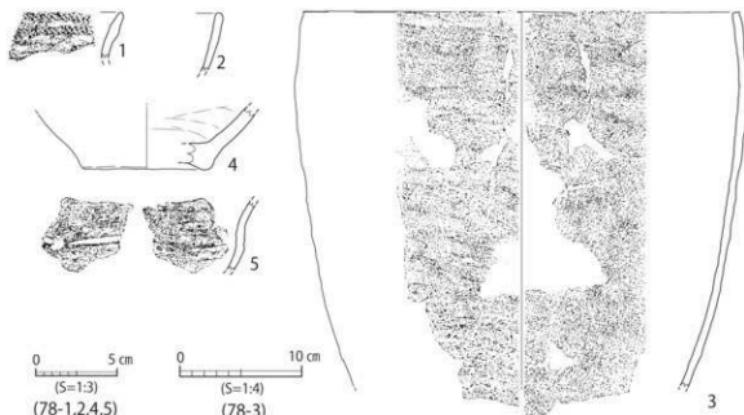
第75図 古屋敷遺跡A区第8層出土遺物実測図



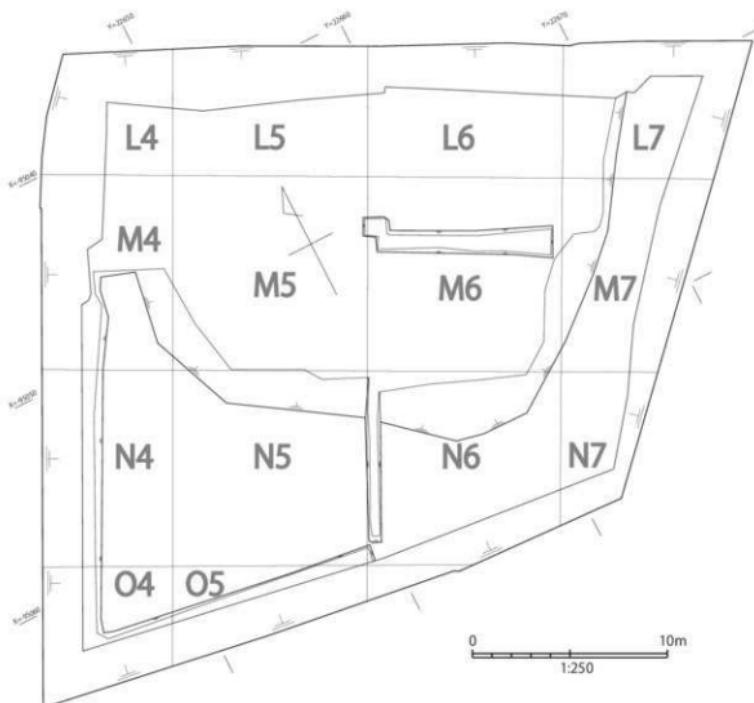
第76図 古屋敷遺跡A区第10層出土遺物実測図1



第77図 古屋敷遺跡A区第10層出土遺物実測図2



第78図 古屋敷遺跡A区第11層出土遺物実測図



第79図 古屋敷遺跡A区調査終了後平面図

第4章 古屋敷遺跡E区の調査

第1節 調査の概要

E区は標高8.7mの水田部に位置し、遺跡全体では北にあり水路遺構、河道跡が検出された。

第80図は、E区で検出された遺構の配置図である。複数の層位で確認されたものを1つの図で示した。一番東に位置する水路遺構は河道跡を切る形で検出された。調査区西側で検出された浅い落ち込み部分は、第12層上面で検出されている。河道跡は、第12層を切る形で検出されている。調査区中央部や北東壁土層図で検出された木質が、灰色粘土化したと考えられる痕跡は、第12～15層で検出されている。杭などの人為的なものかどうかは不明である。

第81図は調査区北東壁土層図である。第1層は圃場整備後の畦畔盛土や現代の造成土である。第2・3層は道路の側溝に関係する土である。第5層は水路遺構部分を埋めた土と考えられる。第6層は、浅い落ち込みの埋土もしくは中世の路面の可能性が考えられる。第7層は黄色の細砂層で、石材側溝時の溝の埋土もしくは洪水時に堆積した砂の可能性がある。第10層は河道埋没後の自然堆積の可能性が考えられる。第8-11層は河道の埋土である。第8-①層は河道部分の自然堆積と考えられる。第8-②層は河道に併設していた道の法面盛土もしくは流土の可能性が考えられる。第9層は中世の道の溝などの痕跡の可能性がある。第12層は自然堆積の黄色砂である。時期は不明であるが、表面観察のみでは、A区第2層と似ている。第13層は、黄白色土層であり、表面観察では、A区第3層と似ている。第14層は、第15層を削り込んで堆積しており自然河道の痕跡と考えられる。河道の時期は不明である。第16層は中世の道部分の法面にあたり、杭や盛土の痕跡の可能性が考えられる。17は水路遺構の石材の抜き取り痕と考えられる。

第2節 第8層の調査

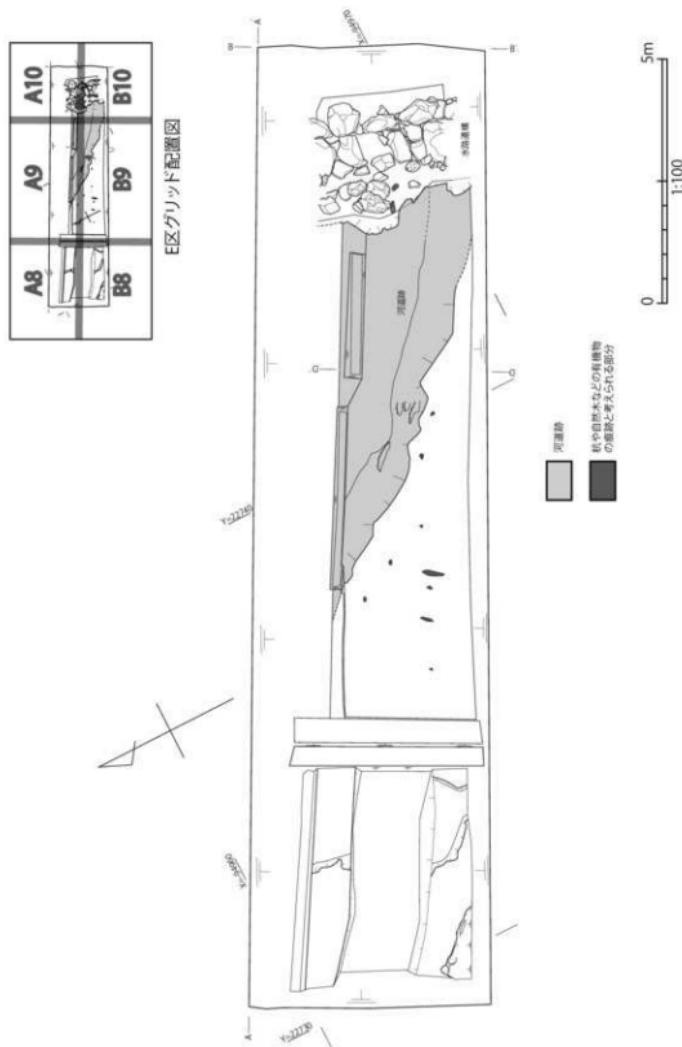
1. 水路遺構（第80、81、84図）

調査区の南東端付近に位置し、南北方向に作られた石組の水路遺構である。水路の内法で幅約1mを測り、長さ約3m、深さ40cmの範囲を検出した。東側の側壁石列に比べ、西側の側壁石列は不ぞろいで、南側には石列がないことから、西側石列は原位置ではない可能性がある。水路の長軸の方位はN-19°-Eである。この遺構は河道跡を2.1mの幅で掘り込んだ後に、石を組んで水路としている。基底部には30cm～1m大の平坦な石が敷かれていた。側壁は平坦面が内側に向くように並べられ、石の大きさは東側が長さ60～80cm、西側が30～40cmと、東側に大型の石がみられた。側壁は、基本的には基底部の石の上に置かれていたようである。掘り形上面と側壁上面との比高差が20cmあるが、検出された側壁石列の上にさらに石が積まれていたかどうかは判断できない。なお、西側側壁石列の南端には杭が2本立っていたが、この遺構に伴うものかどうかは不明である。埋没した時期は近世以降と考えられる。

遺物は、埋土から青花・皿の破片（86-8）、釉薬のかかっていない黒瓦片が出土している。

2. 河道跡（第80～83図）

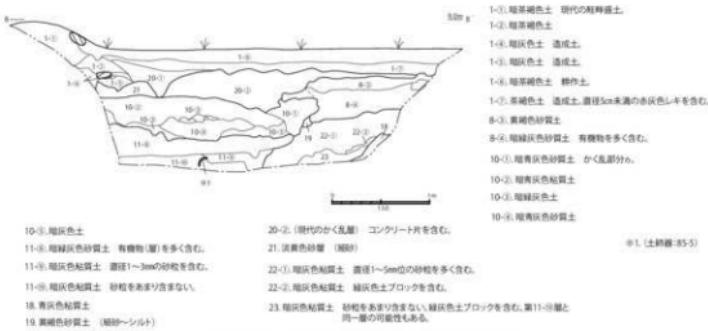
調査区中央部から東端にかけての標高8.0m付近、長さ約8m、深さ70cmの範囲で検出された。河道の南肩だけ検出された。調査区東端を起点とした場合およそN-42°-Wの方向に流れしており



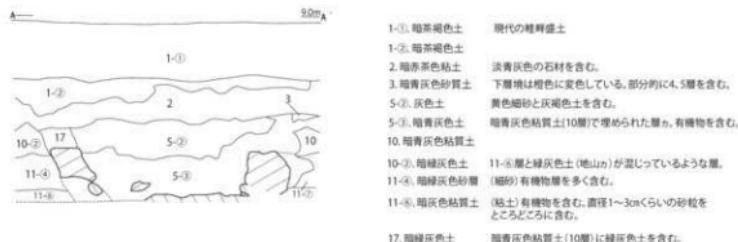
第80図 古屋敷遺跡E区遺構配置図



第81図 古屋敷遺跡E区北東壁土層図



第82図 古屋敷遺跡E区南東壁土層図



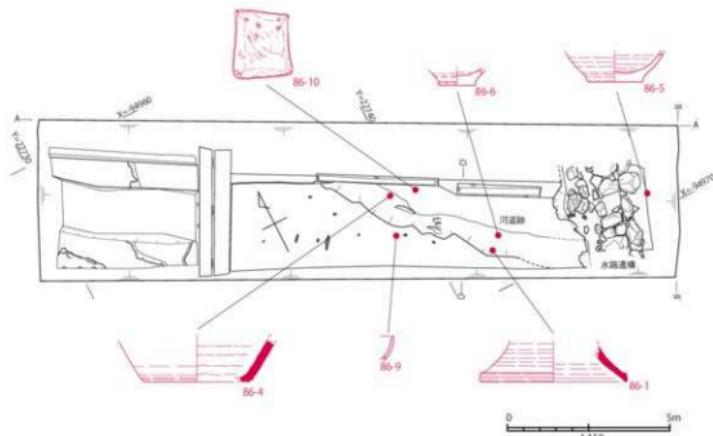
第83図 古屋敷遺跡E区石組造構実測図

北側に緩く曲がっている。河道の中央付近の法面には、ステップ状になっている部分が確認された。ステップは最大のものでも、幅50cm、長さ10cmである。第83図は、横断面の土層図(DD'ライン)である。第1層は、第2層部分からの流土と考えられる。第2層は圃場整備以前の畦道部分にあたる可能性があり、畦道の造成土と考えられる。第3~5層はこの河道の埋土である。第4層が砂層、第5層が粘質土と、上下の層で土質が大きく変わっている。第5層は堆積の速度が遅いと考えられるのに対して、第4層は急激に堆積したと思われる。第5層の底に直径10cm強の円形の窪みが確認された。第7~10層は水平に堆積しており、地山と考えられる。河道傾斜面や底面から長さ30cm大の石材が出土した。人為的に配置された可能性も考えられる。

出土遺物は、第5層から須恵器・壺(86-4)、土師器・皿(86-6)、東南壁土層図の第11~10層から土師器・壺(86-5)、砥石2個(86-10、86-11)が出土している。土師器・皿(86-6)が下限の遺物とすると、中世前半の河道と考えられる。



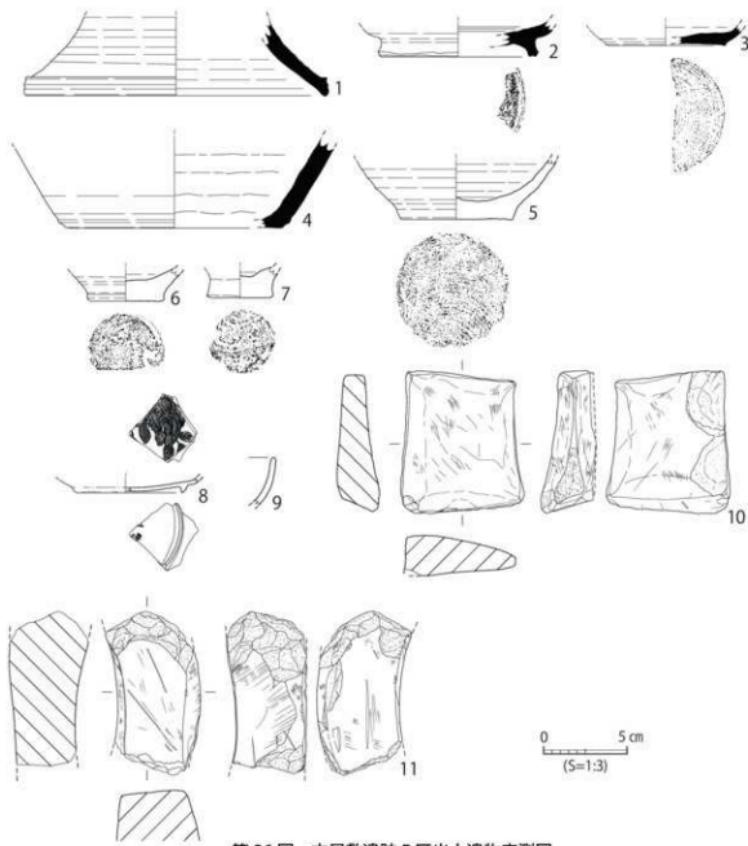
第84図 古屋敷遺跡E区河道路跡実測図



第85図 古屋敷遺跡E区遺物出土状況図

3.E区出土遺物（第85、86図）

1～4は須恵器である。高環の脚部と考えられる。第8層から出土している。2は長頸瓶の底部と考えられる。破片であるが、底部は糸切りである。3は須恵器・壺の底部である。回転糸切りである。第8層から出土している。4は壺の底部と考えられる。外面には回転ヘラケズリ調整されている。河道出土である。時期の詳細はわからないが、1は古墳時代の須恵器が考えられる。2～4は奈良時代から平安時代前半にかけてと推測される。5～7は土師器である。5は壺の底部である。底部は回転糸切りである。河跡出土である。6は回転糸切りの皿の底部と考えられる。7は回転糸切りの柱状高台皿の底部と考えられる。第8層出土である。時期の詳細は不明であるが、5は平安時代後半から中世前半、6、7は中世前半と考えられる。8は青花・皿の底部である。見込みに牡丹の可能性がある絵付けがあり、底部外面に「宣徳年製」と考えられる銘が施されている。また高台疊付けには、砂目が残る。時期は16世紀代と考えられる。9は石見焼・鉢の口縁部と考えられる。8層が上層から搅乱を受けた部分から出土している。幕末から明治時代の時期の可能性が考えられる。10、11は石製品・砾石である。河跡から出土している。



第86図 古屋敷遺跡E区出土遺物実測図

第5章 自然科学分析

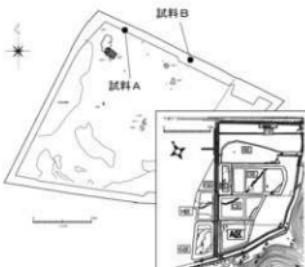
古屋敷遺跡A区発掘調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

はじめに

本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が、古屋敷遺跡A区での縄文時代晚期堆積層での耕作の可能性の検討を目的として、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターから委託を受け実施した、土壤の軟X線写真観察、花粉分析及び植物珪酸体分析報告書の概報である。

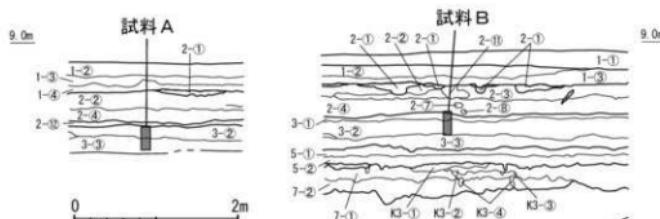
古屋敷遺跡は、島根県中央部、大田市仁摩町に立地する遺跡である。



試料について

古屋敷遺跡発掘調査での調査区の配置、及びA区内での

試料採取地点を、図1に示す。さらに、各地点の断面図(図2)中に、分析試料(軟X線写真観察用試料)の採取層準(位置)を示す。また、各種分析試料は軟X線写真観察試料から分取した。分取位置は、各ダイアグラム中にグレーのハッチで示している。



- 1-①：黄褐色土(造成土) 1-②：茶色土(耕作土) 1-③：灰褐色土(造成土) 1-④：唯黃褐色土(造成土)
- 2-①：灰褐色砂質土(造成時にできた落みや遺構の痕跡など)
- 2-②：綠灰色土(粘土～シルト)緑灰色シルトと細砂が交混じっている様)
- (直径約10mmの灰白色粒子を含む。部分的に細砂の堆積層が確認されている。)
- 2-③：綠灰色土 2-④：綠灰色粘質土(1cm未溝の炭化物片を含む。下面は擾乱を受けている部分がみられる。)
- 2-⑤：淡灰褐色砂質土(粘直か) 2-⑥：淡灰褐色砂質土(1cm未溝の炭化物片を含む) 2-⑦：淡灰褐色砂質土
- 2-⑧：黄褐色砂層(きめ細かい砂層) 上面は擾乱を受けている部分がある。1cm未溝の炭化物片含む。)
- 3-①：唯灰色粘質土(シルト～砂) 緑灰色土 1cm未溝の炭化物片を含む。)
- 3-②：唯灰色粘質土(シルト～砂) 直径約1cm未溝の炭化物片を少し含む。)
- 3-③：灰色粘質土(粘土～シルト) しまっている。) 5-①：淡青灰色砂質土(シルト) 5-②：暗青灰色砂質土(シルト～砂) 炭化物片を含む。)
- 7-①：灰褐色砂質土 7-②：暗青灰色砂質土(暗青灰色砂質土と暗青灰色粘質土を含む。暗青灰色粘質土部分は炭化物を多く含む。)
- K3-①：灰褐色粘質土(炭化物を含む。) K3-②：青灰色粘質土(炭化物をあまり含まない。) K3-③：茶褐色粘質土 K3-④：灰色粘質土

図2 試料採取位置(A区北壁断面図:部分)

分析方法

(1) 軟X線観察方法

ブロック試料から、 $25\text{cm} \times 10\text{cm} \times 1\text{cm}$ の透明アクリルケースを用いて観察資料を分取し、調整を行った。軟X線撮影は、増感紙を挟んだ印画紙に $40 \sim 45\text{kVp} \cdot 30\text{mA}$ の電流で 50 秒～1 分 20 秒の間、軟X線を照射した（観察した軟X線写真は、ネガ画像である）。記載は、「土壤記載薄片ハンドブック（久馬・八木：訳監修、1989）」に準じて実施した。

(2) 微化石概査方法

花粉分析用プレバート及び花粉分析処理残渣を用いて花粉（胞子）、植物片、炭片、珪藻、火山ガラス、植物珪酸体の含有状況を概観し、4 段階で示した。

(3) 花粉分析方法

渡辺（2010）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村（1974）に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科（40 ミロン以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科（40 ミロン未満）に細分している。

(4) 植物珪酸体分析方法

藤原（1976）のグラスビーズ法に従い行った。プレバートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。同定に際して、表 1 に示す母植物との対応が明らかかな、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が 300 を超えるまで計数を行った。

分析結果

(1) 軟X線観察結果

図 3、4 に試料ごとの実視写真、軟X線写真、解析結果を示す。

① 試料 A

試料採取にあたり、トレンチ壁面を掘り込んで試料を採取した。このため、断面図（図 2）から読み取れる層と、ズレが生じていい。

1) 2-④層

粗粒混じりシルト質粘土からなり、中粒砂がブロック状に混じる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が斑状に多く認められる。軟X線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは 1mm 以下のものが多いが、数 mm のものも目立つ。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ベドフィーチャーが顕著に認められる。全体にベッドの発達は弱い。

1) 2-②層

シルト質極細砂からなる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が斑状に認められるが、右側にはやや大きな塊となっている。また、数 mm 以下の炭片が点在する。軟X線写真では、根跡と考えられる直線的

表 1 同定分類群
(同定分類群と推定母植物の関係)

階級レベル	コード	分類群	判定する植物種
3	1	イネ科	イネ科
3	21	ムカシイネ科(種の表面細胞)	コモギ、オオムギ
3	41	サツマイモ科(種の表面細胞)	タマネギ
61	キビ属	キビ属	キビ
61	キビ葉型	キビ葉型	キビ
62	キビ茎型	キビ茎型	キビ
64	ヒエ属	ヒエ属	ヒエ
64	ヒエ葉型	ヒエ葉型	ヒエ
84	ウシクサ族	ウシクサ族	アフリカウシクサ
91	モロシモ属	モロシモ属	モロシモ
92	シラズマ属	シラズマ属	ハムシモ
4	14	アラカシ属	アラカシ
14	15	アラカシ葉型	アラカシ
15	マコロ属	マコロ	マコロ
31	ヨシ属	ヨシ属	ヨシ
33	ダツチク属	ダツチク	ダツチク
35	モクシ属	モクシ	モクシ
51	シノミ属	シノミ属	シノミ
71	トダシノ属	トダシノ属	トダシノ
81	ススキ属	ススキ属	ススキ
83	クサチク属	クサチク	クサチクなど
201	タケ属	タケ	タケ
203	ホツザサ属	ホツザサ	ホツザサ
205	チマキザサ葉型	チマキザサ葉型	チマキザサ節・チマキザサ
205	チマキザサ茎型	チマキザサ茎型	チマキザサ節
209	モクシ属	モクシ	モクシ
350	カヤツリグサ科(スゲ属など)	カヤツリグサ科	カヤツリグサ
390	シダ属	シダ属	シダ
501	シダ属(イイ属)	シダ属	イイ
503	モクシ属(カガシ属)	モクシ属	カガシ
510	クスノキ科	クスノキ科	パハリノキなど(クスノキ以外)
520	マツサク科(イスノキ属)	マツサク科	イスノキ
530	アワブキ科	アワブキ	アワブキ
540	シダ属	シダ	シダ
570	アラカシ属	アラカシ	アラカシ
580	マツ属	マツ	マツ
580	マツ葉型	マツ葉型	マツ葉

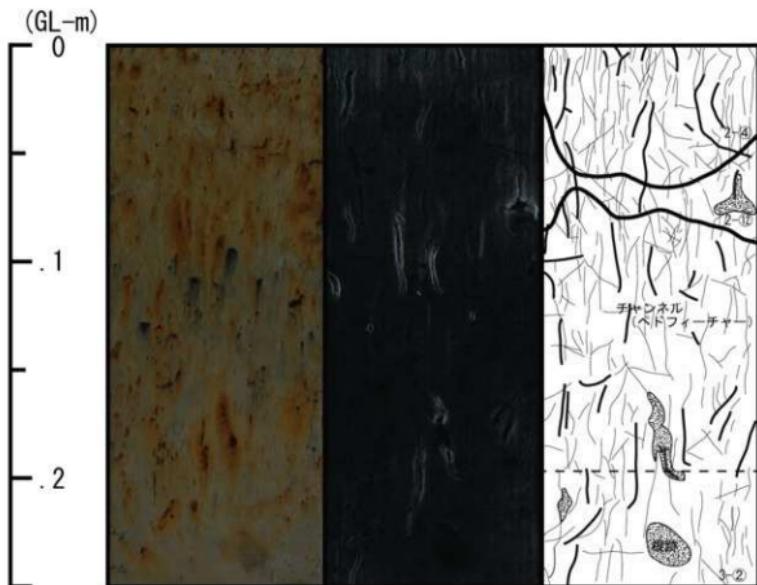


図3 軟X線写真観察結果（試料A）
(左：実視 中：軟X線 右：解析結果)

なチャンネルが顕著で、多くは上位の2-④層から2-②層を貫いて下位の3-②層に達している。その太さは1mm以下のものが多いが、数mmのものも目立つ。さらに、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ベドフィーチャーが顕著に認められる。また、実視で右側に認められた塊状の酸化鉄は、根跡と考えられる暗色部の周囲を準被覆するベドフィーチャーであることが分かる。全体にベッドの発達は弱い。

2) 3-②層

中～粗粒砂混じり粘土からなる。炭片の含有状況や酸化鉄の検出量及びチャンネルの分布量から、上部と下部に2分される。以下では、上部と下部に分けて記載を行う。

上部：実視では黄褐色を呈する酸化鉄が短い帯状に検出し、2-②層との境界部に多く検出される。また数mm～1mm以下の炭片が点在し、その含有量は上部ほど多く、下部に向かって漸移的に減少する。軟X線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは1mm以下のものが多いが、数mmのものも目立つ。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ベドフィーチャーが顕著に認められる。全体にベッドの発達は弱い。

下部：実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が僅かに認められる。また、炭片はほとんど確認できない。さらに、下部中央に長径3cmほどでオリーブ色を呈する部分が認められ、根跡と考えられ。軟X線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネル及びその周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ベドフィーチャーが認められるが、上部に比べ少ない。全体にベッドの発達は弱い。また、下部中央に長径3cmほどの暗色を呈する根跡が確認できる。

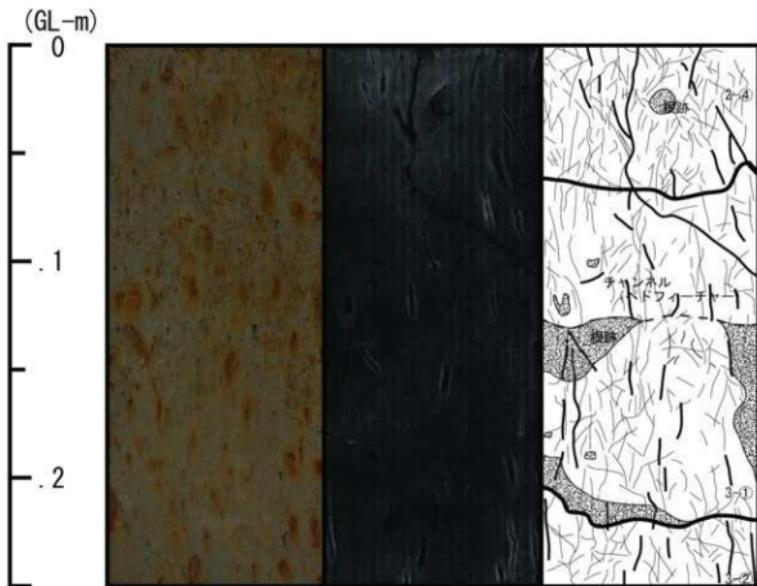


図4 軟X線写真観察結果（試料B）
（左：実視 中：軟X線 右：解析結果）

① 試料B

1) 2-④層

粗粒砂混じり細～中粒砂質シルトからなる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が認められる。酸化鉄は所によって帯状に検出される。軟X線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは1mm以下のものが多いが、数mmのものも目立つ。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ベドフーチャーが顕著に認められる。全体にベッドの発達は弱い。

1) 3-①層

層相から、粗粒の上部と細粒の下部に2分される。以下では、上部と下部に分けて記載を行う。
上部：シルト質細～中粒砂からなる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が認められる。特に、下部との境界付近ではより明瞭である。また、数mm以下の炭片が点在する。軟X線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは1mm以下のものが多いが、数mmのものも目立つ。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ベドフーチャーが顕著に認められる。全体にベッドの発達は弱い。

下部：中～粗粒砂混じり細粒砂質シルトからなるが、試料内で下部の周囲を囲むようにシルト混じり細粒砂が分布し、根跡の可能性が指摘できる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が僅かに認められる。また、数mm以下の炭片が点在するが、特に上部との境界近くで量が多い。軟X線写真では、根跡と考えられる

表2 微化石概査結果

地点名	分析No.	花 粉	炭	植物片	珪藻	火山ガラス	フリント・ホーネル
試料A	1	△	○	△×	×	△	△
	2	△×	◎	△×	×	△×	△
	3	△	◎	△×	×	△	○
試料B	1	△	◎	△×	×	△	△
	2	△	◎	△×	△×	△	△
	3	△	◎	△×	×	△	△
	4	△	◎	△×	×	△	△

凡例 ◎：十分な数量が検出できる ○：少ないが検出できる △：非常に少ない

△×：極めてまれに検出できる ×：検出できない

直線的なチャンネルが顕著である。その太さは1mm以下のものが多いが、数mmのものも存在する。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ベドフィーチャーが顕著に認められる。全体にベッドの発達は弱い。また、シルト混じり細粒砂の部分はやや明るい色調を示す。

3) 3-②層

中～粗粒砂混じり細粒砂質シルトからなる。実観では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が僅かに認められる。また、上位の3-①層で認められた炭片がほとんど認められない。軟X線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは1mm以下のものが多いが、数mmのものも存在する。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ベドフィーチャーが顕著に認められる。全体にベッドの発達は弱い。

(2) 微化石概査結果

表2に微化石概査結果を示す。分析試料全般に、炭片を除く微化石、火山ガラスの含有量が少なかった。

(3) 花粉分析結果

分析結果を図5、6の花粉ダイアグラム及び表3の花粉組成表に示す。花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として分類群ごとに百分率を算出し、木本（針葉樹）花粉、木本（広葉樹）、草本・藤本花粉、胞子の区分でスペクトルの色を変えて示した。また右側に、区分ごとの累積百分率と、1g当たりの花粉と胞子の含有量を示した。

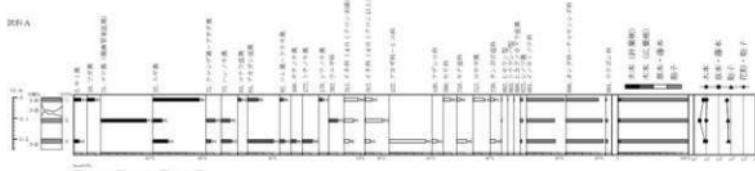


図5 試料Aの花粉ダイアグラム



図6 試料Bの花粉ダイアグラム

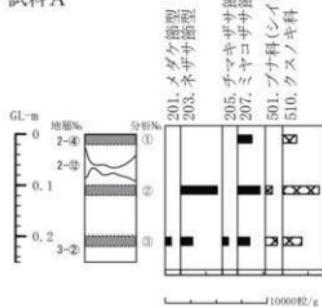
(4) 植物珪酸体分析結果

分析結果を図7の植物珪酸体ダイアグラム及び表4の植物珪酸体組成表に示す。に示す。植物珪酸体ダイアグラムでは、1gあたりの含有数に換算した数を、検出した分類群ごとにスペクトルで示した。

表3 花粉組成表

植物名	花粉粒形	A地			B地										
		2-2	3-2	3	2-2	2	3								
Polygonaceae	マツコキ属														
Araceae	モクシ属	2	9%		1	6%	1	4%							
10. Fagiaceae	ツバキ属 複被管束葉属	2	9%	5	56%	4	17%	4	14%						
30. Scrophulariaceae	コウモリ舌属														
31. Cyperaceae	スゲ科														
41. Cupressaceae type	ヒノキ科型	12	87%	1	11%	3	39%	1	4%						
62. Pterocarya-type	サルガム属 園-クルミ属														
71. Carya-type	カバノキ属														
75. Alnus	ハシノキ属														
82. Fagus-japonica type	イヌクチ亞属														
84. Adonis	ゴトウリ属														
84. Cyathellales	アラカシヤ属	1	4%	5	21%	4	17%	1	4%						
85. Castanea	クルミ属	3	12%					1	2%						
88. Castanopsis-Pesaria	シンノキ属-マタベイシ属							5	10%						
91. Liquidambar	カニノキ属														
94. Aplanthera-Celtis	エノキ属-ムクノキ属	1	4%	1	8%	1	4%	5	10%						
102. Zanthoxylum	サンショウウ属														
103. Laurus	モクノキ属														
112. Aesculus	オルニヨウモドキ属														
118. Tiliaceae	シナノキ属	1	4%												
208. Araliaceae	ワブリ科			1	1%										
311. Cyrtomium-type	(4.0ミクロン未満)	4	1%	1	1%	6	26%	5	18%						
312. Gramineae-type	(4.0ミクロン以上)	2	9%	2	22%	1	6%	7	30%						
320. Cyperaceae	カバノリグサ科														
348. Liliaceae	ユリ科							1	4%						
420. Cyperaceae	リメノキ科														
422. Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アラサザン-ヒユ科														
430. Caryophyllaceae	ナナカマド科														
440. Malvaceae	アカバナ科														
504. Acalypha-Vigna	アズキ属-ササゲ属														
508. Umbelliferae	セリ科	2	9%												
601. Trichochlorospermum	テリカカラズ属														
702. Cyperaceae	カキノキ属	1	4%	2	12%	1	4%	1	4%						
712. Artemisia	ヨモギ属	3	12%			3	12%	1	4%						
720. Ciclorhizidae	タマノヒダ科	1	4%	1	6%	1	4%	4	16%						
802. Urostachys-sabulosa type	ヒメカキノキ属	5	22%	3	32%	2	17%	4	14%						
803. Urostachys-sabulosa type	ヒメカキノキ属	2	9%												
808. Selaginella-Lycopodium	ヒカゲノカズラ属	2	9%												
815. Davallia	シノブ属	30	100%	17	100%	21	121%	26	122%						
816. Polypodiaceae	イモリ科	42	100%	18	100%	19	100%	21	100%						
818. Aquid-Aqae	オオクダ-チャセンシダ科	214	162%	229	254%	450	281%	296	173%	223	79%	316	75%	501	96%
831. Polypodiaceae	ウツボクサ科	8	39%	12	137%	25	156%	8	39%	5	18%	6	14%	14	27%
832. POLYCLADE-TYPE-SPORE	透鏡微塵孢子	24	19%	35	389%	68	413%	39	17%	17	6%	21	24%	67	129%
TRIPLIDIA-TYPE-SPORE	透鏡微塵孢子	79	73%	75	353%	205	100%	19	100%	27	75%	49	75%	27	75%
本邦花粉粒数		23	2%	9	2%	18	2%	23	3%	28	6%	42	7%	52	5%
日本花粉粒数		15	1%	3	1%	13	1%	22	2%	23	5%	20	3%	41	4%
世界花粉粒数		660	6%	300	6%	800	9%	924	10%	1246	8%	864	9%	909	9%
平均花粉粒数		95.6	200	320	320	501	240	500	440	600	600	500	500	1040	1040
世界花粉粒数		476	500	520	530	531	530	531	531	531	531	531	531	531	531

試料A



試料B

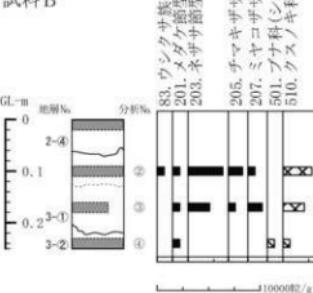


図7 植物珪酸体ダイアグラム（左:A地点、右:B地点）

表4 植物珪酸体組成表

調査区 地点名 地層名 試料番号	A区							
	A地点			B地点				
	2-(2)	3-(2)	3	2	3	3-(1)	3-(2)	4
1 イネ	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
81 ススキ属型	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
83 ウシクサ族A	-	-	-	-	1	-	-	-
-	-	-	-	7	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
84 ウシクサ族B(サトウキビ属を含む)	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
201 メダケ節型	-	-	1	1	1	1	1	1
-	-	6	7	7	7	7	7	7
-	-	0.07	0.08	0.08	0.08	0.08	0.09	-
203 ネザサ節型	-	5	2	5	3	-	-	-
-	36	12	34	21	-	-	-	-
-	0.17	0.06	0.17	0.10	-	-	-	-
205 チマキザサ節型	-	-	1	2	1	-	-	-
-	-	6	14	7	7	-	-	-
-	-	0.05	0.10	0.05	-	-	-	-
207 ミヤコザサ節型	2	3	2	1	2	-	-	-
14	22	12	7	14	-	-	-	-
0.04	0.06	0.04	0.02	0.04	-	-	-	-
501 ブナ科(シイ属)	-	1	2	-	-	-	1	-
-	7	12	-	-	-	-	7	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
510 クスノキ科	2	5	3	4	3	-	1	-
14	36	19	28	21	-	-	7	-
520 マンサク科(イスノキ属)	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
プラント・オーバル総数	4	14	11	14	10	3	-	-
カウントガラスピース数	439	416	483	435	431	400	-	-
カウント総数	443	430	494	449	441	403	-	-
試料重量($\times 0.0001g$)	6999	7021	7041	7021	7035	7020	-	-
ガラスピース重量($\times 0.0001g$)	134	133	134	133	134	133	-	-

上段 検出粒数

中段 検出密度(単位: $\times 1000\text{粒}/\text{g}$)下段 推定生産量(単位: $\text{kg}/\text{m} \cdot \text{cm}$)

花粉・胞子化石の含有量が少なかった原因について

(1) 花粉化石の含有量の少ない原因

通常は以下のようなことが考えられている。

- 堆積速度が速いために、堆積物中に花粉化石が含まれない。
- 花粉化石の平均的な粒径(数~100 μ)と堆積物の粒度が著しく異なり、堆積物中に花粉化石が含まれない。
- 土壤生成作用に伴う堆積物で、堆積速度が極めて遅く、堆積した花粉化石が紫外線により消滅した。
- 花粉化石が本来含まれていたが、堆積後の化学変化により花粉化石が消滅した。
- 有機物に極めて富む堆積物で花粉以外の有機物も多く、処理の過程で花粉化石が回収できなかった。

(2) 分析試料(堆積物)の状態

今回の分析試料（堆積物）の状態は、以下の通りであった。

軟X線写真観察では、土壤化の指針であるペッドの発達が弱く、土壤化がさほど進んでいなかった。微化石概査結果（表1）で示したように、炭（微粒炭）が多く含まれているが、その他の微化石の含有量は少なかった。全ての試料で花粉・胞子化石の含有量が少なく、胞子化石の割合が高い（花粉化石の割合が低い）。

（3）花粉・胞子化石の含有量が少なかった原因

炭（微粒炭）が多く含まれることから、本来有機物も多く含まれていた可能性がある。堆積物の粒径も細粒であることから、堆積速度はさほど速くなかったと考えられる。一方、酸化鉄、酸化マングンの検出が顕著であることから、含まれていた有機物（植物質）や珪藻、プラントオパールなどの珪酸質までも、堆積後の化学変化によって分解したことが分かる。また、酸化環境下で胞子化石の保存状態が花粉化石に比べよいためから、胞子化石が選択的に残存したものと考えられる。

縄文時代晩期での耕作について

耕作が推定された縄文時代晩期の遺物が出土する3-①層、3-②層では、軟X線写真観察結果（図3、4）で示したようにペッドの発達が弱く、土壤化の程度が弱い（長期間に亘り地表面にあり、動植物による擾乱、分解を受けたとは考えにくい）。また、植物珪酸体分析（図7）ではイネを初めとする、イネ科栽培種由来の可能性がある分類群は検出されていない。花粉分析（図5、6）でも、稲作を示唆するイネ科（40ミロ以上）の高率での出現は認められなかった。一方、試料B分析No.3(3-①層)でアズキ属・ササゲ属、4(3-②層)でソバ属が検出されている。上記の事柄から、縄文時代晩期での稲作に関しては否定的であるが、ソバやアズキなどの雑穀類が栽培された可能性は指摘できる。

ただし、検出量がごく僅かであることや、地層内に根跡と考えられる生物擾乱が多く認められることから、上位の耕作土から混入した可能性も否定できず、今後の追従が必要である。

周辺地域の古植生の推定

邇摩平野では、今回の調査地点から100～200mほど離れた五丁遺跡及び庵寺遺跡において花粉分析が実施・報告されている（渡辺・山田, 2010）。今回の花粉分析で十分な花粉化石が検出された、試料B 3-②層：分析No.4（縄文時代晩期）と同時期の分析は、庵寺遺跡下部地点で実施されていた（渡辺・山田, 2010）。

今回の分析では、渡辺・山田（2010）に比べスギ属が低率であることが特徴であった。一方で、マツ属（複維管束亞属）、その他の針葉樹、コナラ亞属が高率を示している。このことは、互いに數100mの位置関係であるが、入り組んだ地形と調査地の立地に起因すると考えられる。庵寺遺跡は潮川の形成する沖積平野から外れており、潮川に合流する小河川沿いの小谷に位置する。谷斜面が両側に近く、スギの生育に適していたと考えられる。一方、今回のA区は潮川が形成する沖積平野上に立地し、特にA区には丘陵が迫っている。恐らく丘陵上の植生の影響が強く表れていると考えられる。

縄文時代晩期のやや冷涼な時期（A区試料B 3-②層）には、モミやツガ、コウヤマキといった温帯針葉樹種が丘陵上でカシ類と混淆していたと考えられる。マツ類やナラ類も主として丘陵上に

生育していたと考えられるが、何らかの人が加わった後に、遷移林として入り込んでいたものと考えられる。また、植物珪酸体分析で検出されたシノキ属やクスノキ科の樹木は、カシ類とともに丘陵上に生育していたと考えられる。一方スギは、低地の水際に散在していたと考えられるが、堆積環境が不安定なために、さほど大きな林を成すことがなかったと考えられる。

まとめ

通摩平野の東端近くに立地する古屋敷遺跡において、耕作土と考えられる地層を対象とした花粉分析、植物珪酸体分析及び軟X線写真観察による堆積構造の記載、年代測定を行った。特筆すべき考察結果は、以下の事柄である。

(1) 花粉分析を7試料で実施したが、多くの試料で花粉化石の含有量が少なかった。軟X線写真観察、含有物概査結果を踏まえると、堆積後の化学変化によって植物質、珪酸質が劣化、消滅したものと考えられる。

(2) 繩文時代晩期に水田耕作が行われた可能性は低い。一方、ソバ、アズキなどの栽培が行われた可能性が指摘できた。今後の追従が必要である。

(3) 繩文時代晩期の遺跡周辺での古植生を推定した。從来（渡辺・山田、2010）考えられていた植生より、低地でのスギが少なく、丘陵上の植生は多様性に富んでいたことが分かった。

〈参考文献〉

- 久馬一剛・八木久義訳監修（1989）土壤記載薄片ハンドブック、p.176、博友社、東京。
- 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネを中心として、第四紀研究、13、187-197。
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（I）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9、15-29。
- 渡辺正巳（2010）花粉分析法、必携 考古資料の自然科学調査法、174-177、ニュー・サイエンス社。
- 渡辺正巳・山田和芳（2010）五丁遺跡・庵寺遺跡発掘調査に伴う自然科学分析、梨ノ木坂遺跡庵寺古墳群庵寺遺跡II、一般国道9号仁摩温泉津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書、3、93-130、国土交通省中国地方整備局・鳥根県教育委員会。

第6章 総括

第1節 遺構

第11層（縄文時代後期崎ヶ鼻式併行期～後期滋賀里I式併行期）

出土遺物の様相から縄文時代後期の宮滝式併行期と考えられる。第11層を確認できたのはグリッドL6、L7付近であった。青灰色粘質土が基盤層を形成している。遺構などは確認されていない。

遺物は後期崎ヶ鼻式併行期の深鉢（第78図1）、後期滋賀里I式併行期の浅鉢（第78図5）などが少量出土している。

第10層（縄文時代後期宮滝式併行期～晚期篠原式併行期）

第10層は調査区の東部から西部にかけて堆積している。調査区東部の標高が西部に比べて高い東から西へ傾斜面状になっている地形だったと考えられる。遺構は確認されていない。遺物は、後期宮滝式併行期の注口土器（第77図1）など後期～晚期篠原式併行期の土器、石器が出土している。

第8・9層（縄文時代晚期篠原式併行期）

第8・9層は基本的に砂～砂質土である。第10層と同様に東から西へ傾斜面状になった地形だったと推測される。遺構は確認されていない。遺物は、少量の晚期篠原式併行期の土器が出土している。

第7層（縄文時代晚期篠原式併行期～晚期突帯文期）

第7層は砂質土層を細分層として含む粘質土が主体の層である。第7-⑤層（第5図）は標高が低い調査区西側に堆積しており、上層の第7-①、④層堆積時には調査区内は水平に近い地形になったと想定される。第7層では、晚期篠原式併行期から突帯文期にかけての多くの遺構・遺物が確認されている。このうち 土器だまり2では、晚期篠原式併行期の遺物がまとまって出土している。

第6層（縄文時代晚期突帯文期）

第6層は、茶褐色系の粘質土が主体の層である。土器だまり1や多くの遺物が出土しているので、安定した基盤面が形成され、一定の期間生活面として利用されていたと考えられる。

土器だまり1では、彩文土器の浅鉢（第49図1）が出土している。口縁部外面端部に「C」字文が施されている。器面を黒色に焼成するかもしくは焼成後に黒色の塗料を塗布して文様を描く素地を作ったと考えられる。その後赤色の顔料を用いて、文様を描き出している。下地を黒色にして、赤色の上塗りで文様を描く方法は雀居遺跡（福岡県福岡市）出土の三叉文を持つ壺形土器及び彩文土器や居徳遺跡（高知県土佐市）出土の木胎漆器・蓋などに描かれている方法と同様である。

また今回出土した浅鉢は黒色部分である「C」字部分に赤色塗料で点描が施されている。居徳遺跡出土の木器の黒色部分にも似たような点描が施されており共通の文様の可能性が考えられる。文様が描かれている浅鉢は、突帯文期の西日本で普遍的にみられるものである。描かれている文様のモチーフは大洞C₂式～A₂式の系譜を引くものと考えられる。万場I遺跡（島根県雲南市）出土

の彩文土器である夜臼式の壺に描かれている文様も同様と考えられ、これは縄文時代晚期突帯文期の日本列島における東西交流の現れととらえられている。今回彩文土器が出土したことにより、万場Ⅰ遺跡などと同様に古屋敷遺跡も東西交流の影響下にあったことが確認された。

赤色塗料の材料は、蛍光X線分析装置による元素の同定の結果、ベンガラと考えられる。

また第6層から器種不明の彩文土器（第53図8）が出土している。彩文土器・浅鉢と同じく外面を黒色素地に赤色塗料で2条の線が書き出されているが、文様全体のモチーフなどは不明である。これらの彩文土器の出土は、島根県内では万場Ⅰ遺跡に次ぐ2例目である。

SR3（縄文時代晚期突帯文期）

グリッド(M6-N6-O6)土層図（第8図）より、SR3は第6-③層を浸食しているのでSR3が埋没するのは第6層が堆積した後に氾濫があったと考えられる。SR-③層で噴砂と考えられる部分が確認できることからSR3埋没後に大規模な災害（地震）があったことが想定される。

遺物は、晚期縄原式併行期～突帯文期の土器、石器が出土していることより晚期突帯文期に埋没したと考えられる。

第5層（縄文時代晚期突帯文期）

第5層は砂質土であり、出土遺物は、晚期縄原式併行期～突帯文期の土器、石器が出土している。深鉢（第39図1）は口縁端部に穿孔が施されており、いわゆる孔列（文）土器と考えられる。特徴としては単純口縁の深鉢であり、孔も貫通している。

SR2（縄文時代晚期突帯文期～弥生時代前期）

北東壁土層図（第5図）においてSR2の堆積であるK3層以下の堆積は、少なくとも第3層を浸食して堆積していると考えられる。

遺物は縄文時代後期～弥生土器前期が出土している。

第4層（縄文時代晚期突帯文期）

第4層は砂礫層であり、調査区の北側部分のみで確認された。遺構・遺物は確認されていない。

第3層（縄文時代晚期突帯文期～弥生時代前期）

第3層は細砂が堆積している層を細分層で含むが基本的には、黄灰色のシルト～粘質土である。

木棺墓（SK2）をはじめとする多くの遺構、遺物が確認されており、安定した生活面が形成されていたと考えられる。

木棺墓（SK2）の木棺の規模を検討するに当たり、比較的良好に残存していた南側側板を基に左右対称として復元すると、長さ193cm、幅66cmとなる。両側板で小口板を挟む構造と推測される。また西側の小口板は底板に載っていたと考えられる。明確な小口穴は確認されなかったが、東側小口部分にわずかな段差が確認できる。また南側側板部分は長さ1.9m、幅5～10cm、深さ5cmの溝状の落ち込みが検出された。木棺を構築する時に側板を固定するために意図的に掘られた段差と考

えられる。底板及び蓋板も使われており、蓋板と推測される材の1つは、現状で長さ90cm、幅20cm、厚さ1cmを測り、確認できた個体の部材の中では最大であった。また側板の可能性もあるが木棺裏込めに木材が使われていた可能性も考えられる材も出土している。

墓壙内からは、土器片17点、石錐2点、石材剥片、炭化物片が出土している。土器はすべて破片である。出土状況は様々であるが、床面直上の可能性がある遺物は第23図1のみである。石錐(第23図7)は蓋板の上から出土している。石錐(第23図6)は北側側板の外で検出されたが、北側側板は外側(北側)に倒れたことが想定されるので元は蓋板の上や棺内にあった可能性も考えられる。その他の土器片は埋土もしくは墓壙内への流入土や裏込土などに混入していたなど様々な可能性が考えられる。また墓壙中央部の底板直上では、人の大腿骨が出土した。両端が欠損しているため断定は難しいが、成人女性の可能性が示唆された。東側を頭位と想定した場合、骨の出土状況から膝を南向きに向けて屈曲した体位が想定される。

今回検出された木棺墓の特徴は、①(頭位側に)棺を固定するための石材を作う。②側板で小口板を挟む形態を探る。③側板を固定する穴(溝)を有するが、小口穴を作わない。④石錐が副葬されている可能性がある。⑤人骨が出土しており、亡骸は横向きで膝を折り曲げた状態だったと想定される。

①棺を固定するための石材については、晩期後葉(弥生早期)に北部九州において支石墓の下部構造の木棺墓に裏込石や棺台などに石材を作う例があり、その影響も考えられる。②側板で小口を挟む形態については晩期後葉(弥生早期)の木棺墓では小口板で側板を挟む形態が多いが、両側板で小口板を挟む形態も池島・福万寺遺跡(大阪府東大阪市)、上出A遺跡(滋賀県近江八幡市安土町)近畿地方で確認されている。③小口穴を作わない形態については晩期後葉(弥生時代早期)では小口穴を作う例が多いが、側板の穴(溝)や小口穴を作わない例も江辻遺跡(福岡県糟屋郡柏原町)で確認されている。④石錐が副葬されている例は、弥生時代前期ではあるが堀部第1遺跡出土木棺墓では、床直上などから出土している。⑤体位については同じく堀部第1遺跡第28号墓では、人骨(下肢骨)が出土しており、横向きの膝を折り曲げた状態だったとされている。

以上から木棺墓の形態としては、墓壙及び木棺が(後世の災害等の影響のためか)不整形であったり、小口板が底板に載っていたりと特異な部分もあるが、大きな枠では縄文時代晩期後葉から弥生時代前期にかけて北部九州から近畿地方で見られる木棺墓の形態と共通する部分が確認された。木棺墓の時期については、弥生土器の供伴しない縄文時代晩期突堤文期と考えられる。

SR1(弥生時代前期～中期)

第3層を切って形成されたと推測される。北東壁土層図(第5図)のSR1のR4層から弥生土器前期(第29図-25: I-2様式)の土器が出土しており、R4層以下の層はこの時期の堆積と考えられる。しかし上位の層であるR1～R3層は前期に堆積したR4層の上面に形成された流路やR4層を形成する砂礫層の流上部分と推測される。出土遺物からR1～R3層堆積の時期は弥生時代前期～中期と考えられる。

第2層(弥生時代以降)

弥生時代前期以降の堆積と考えられる。時期不明の遺構が検出された部分もあるが、第2層上部は後後に削平された可能性が考えられる。

第2節 遺物

縄文土器の編年

A区では、篠原式から突帯文末期にかけての土器が重層的に良好な状態で出土したため、ここで編年案を示しておく。区分は、後期末・晚期前葉（1～3期）・突帯文1～4期とする。後期から晚期前葉にかけては十分な資料が得られていないが、従来の区分に従って後期末＝滋賀里I式、晚期前葉1期＝滋賀里II式、同2期＝滋賀里IIIa式、同3期＝篠原式と想定した。2期以前は他の調査区の成果に期待したい。突帯文期は、古屋敷遺跡A区での層位を重視した編年であって、他の遺跡との整合性を検討していない。山陰地方中部または西部を包括する編年は、将来に期する。

後期末～晚期前葉2期（1～3） 1は四点文と連弧状の沈線文が描かれ、後期末・滋賀里I式に類似すると考えられる。2は、口縁部外面にわずかに稜がつき、滋賀里IIIb式と篠原式の中間的な様相を持つ。類例が少なく、安定的に型式組成するかどうか不明である。3は長頭の浅鉢で口縁端部に細かな刻み目が施されている。2・3は下位の層から出土していることから一応晚期前葉2期としておくが、同3期に下る可能性もある。

晚期前葉3期（4～8） 7層上器つまり2で一括りの高い資料が出土した。深鉢は、頸部が大きくくびれて胴部が張り、口頸部が短めの器形が目立つ（4・5）。胴部の張りが弱いものも一定量存在する（第68図6など）。口縁部内面（5）・口唇部（4）に刺突文列が施されるものが多い。刺突文列は肩部にも横走する（4）が、5のように意匠を描くものは稀である。深鉢は、口頸部と頸部以下で調整方向・手法を変えたものが多い。4・5は二枚貝条痕の調整方向を変えた例だが、口頸部にナデ調整が施されるものもある。浅鉢は、長頭（6・8）と短頭（7）が出土している。長頭浅鉢のうち、6は方形浅鉢である。平面形は方形だが、典型的な方形浅鉢とは違って波頂部下の胴部が明瞭に突出しないことから、萌芽的な方形浅鉢と考えられる。ほかに、口頸部がやや短い浅鉢（7）が組成するようである。底部は8が丸底、6が14のような小型の平底である。浅鉢の平底はこの段階から存在するが、主体は丸底かもしれない。

突帯文1期（9・10） 突帯が口唇から離れた位置に付され、口唇部・突帯に大きめの刻み目文が施されたものである。突帯文出現期と考えられ、二条突帯文は出現していないと思われる。この段階の深鉢は、口唇部がしっかりと面取りされるという説明がなされるが、9など面取りが顕著でないものがみられる。突帯の位置が古相を示すことから、この段階に位置付けたが、A区では良好な状態で出土していないため、他調査区での検討が必要である。

突帯文2期（11～15） 7層で良好な資料が得られた。7層からは、突帯文3期以降の深鉢は出土していない。深鉢は頸部のくびれが緩くなるが、口頸部と頸部以下の調整の違いは前段階までと同じである。口唇部はやや先細状となるものが多くなり、突帯が口唇部に接するようになる。刻み目は突帯・口唇ともに比較的大きめである。7層からは二条突帯が1点出土している（第62図8）が、この段階では二条突帯は主体とはならないと思われる。浅鉢は、①鈎状口縁の長頭（方形？）浅鉢（12）、②短頭の「く」の字口縁浅鉢（15）、③口縁部が内傾する「く」の字形の浅鉢（13）がこの時期に出現する。ほかに①と②の中間的な器形（14）があるが、これは各層から出土しているため時期を限定できない。

突帯文3期（16～26） 5・6層、6層土器溜1・SR3出土土器から抽出した。これらの層からは

突帯文4期の深鉢は出土していない。深鉢は、二条突帯が一定量組成する。一部に突帯が口唇部に接して一体化したものがある(20)。刻み目文はやや小型のものが多く、口唇部に施文されるものは前面から施文されることが多い。刻み目文は口唇に施されるもの(16・19)と施されないもの(11・20)がある。調整は口縁部から胴部まで一様で、条痕・ケズリを消す意図がみられる(17・18・20)。深鉢で底部まで残る個体はないが、平底が存在しないことから、この段階までは深鉢は丸底だった可能性が高い(25)。浅鉢は、前期に続き短頭の「く」の字口縁浅鉢(22)、口縁部が内傾する「く」の字形の浅鉢(23)が主体的である。24は小型だが、23と同じ系譜の土器と考えられる。26は頸部が明瞭に屈曲する浅鉢で、口縁内面が肥厚して段がつくものである。これは7層以下では出土していない。

突帯文4期(25～36) 3層およびSR1・2出土土器から抽出した。深鉢に施文される刻み目文は、斜線状を呈するV字刻み目(27～29)で、無刻み(30・31)がこの時期から出現する。また、28のように垂下する隆帯が付加されるものもある。調整は比較的難で、器面に凹凸が顕著である(27・29)。口唇部は先細(27)か、突帯が口唇に接して一体化している(29・31)。この段階での2条突帯は確認されていない。浅鉢は、2期から続く短頭「く」の字形口縁(32)や内傾口縁のもの(33)のほかに、全体器形は32と同じながら口縁形態が3期26同様内面に段が付くもの(35)、「く」の字形口縁だが胴部に稜がつかず丸くなるもの(36)、鉢形の有文浅鉢(37)、胴部外面に段が付くもの(36)などが出現する。37の文様は「三田谷文様」である。これらは、SR1で遠賀川式土器(38・39)とともにいるが、SR2および3層では遠賀川式土器は出土していない。遠賀川式土器が主体となるのは、さらに後のことかもしれない。

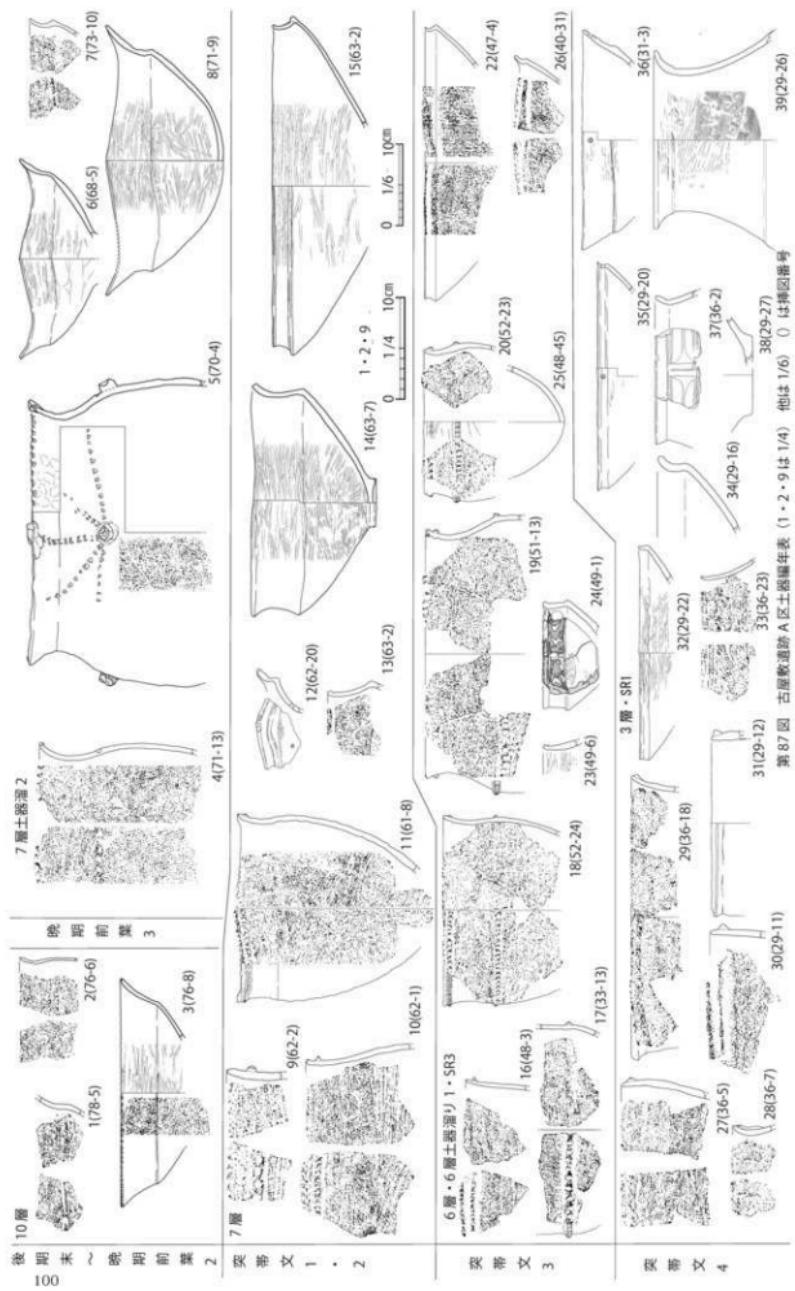
第3節 まとめ

古屋敷遺跡A区では、縄文時代晩期の遺構、遺物が大量に検出され、その後の弥生時代前期から中期にかけての河道跡とそれに伴う一定量の遺物も確認された。また、時期不明のピットや平安時代の土師器など古墳時代以降の遺物も確認された。

E区では、古墳時代の須恵器や、中世前半の河道跡、近世以降の水路遺構が確認された。

また第1図で示したB～D、F～H区では、縄文時代後期から弥生時代前期にかけての遺構・遺物が確認されている。

本報告書の調査区では、縄文時代晩期の突帯文期において、東日本の影響がみられる文様が施された彩文土器の出土や、中国地方では2例目となる木棺墓の検出など、他地域との交流や影響を窺わせる貴重な資料が確認できたと考えられる。



【参考文献】

- 澤下孝信 2009 「縄文時代の木棺墓・下関市御堂遺跡例の検討 - (上)」『研究紀要 第13号』下関市立考古博物館
- 澤下孝信 2010 「縄文時代の木棺墓・下関市御堂遺跡例の検討 - (下)」『研究紀要 第14号』下関市立考古博物館
- 中村健二 2007 「木棺墓からみた西日本の縄文から弥生へ」『縄文から弥生へ－農耕社会の形成と実年代－』滋賀県立 安土考古博物館
- 中村健二 2009 「木棺墓小考」『究班』
- 中村健二 2010 「IX. 近畿地方の縄文集落の葬墓制」『シリーズ 縄文集落の多様性Ⅱ 葬墓制』雄山閣
- 轟中光輔 2011 「人間活動からみた島根県の縄文時代遺跡と地域社会『古代文化研究 №19』島根県古代文化センター
- 瀬田竜彦 2006 「中国地方における縄文・弥生移行期の東日本系土器」『考古学ジャーナル 2006.10.549 特集 西 日本の亀ヶ岡式土器』 ニューサイエンス社
- 山田康弘 2014 「山陰地方における弥生時代前期の墓地構造」『国立歴史民俗博物館研究報告 第185集 農耕社会の成立と展開 -弥生時代像の再構築』 国立歴史民俗博物館
- 小学館 1997 『世界陶磁全集 17 韓国古代』
- 独立行政機関法人国立文化財機構 2007 『日本の美術 12 №499 縄文土器晩期』
- 講談社 1989 『古代史復元 4 弥生農村の誕生』
- 講談社 1996 『歴史発掘 2 縄文土器出現』
- (株)アム・プロモーション 2008 『総覧 縄文土器』
- 石川県能都町教育委員会 2002 『真駒遺跡 2002 史跡真駒遺跡整備事業に係る第3～6次発掘調査概要』
- 滋賀県教育委員会 2001 『上出A遺跡』
- (財)大阪府文化財センター 2008 『池島・福万寺遺跡5(池島Ⅱ期地区 04-2調査区)』
- (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2003 『居徳遺跡群IV』
- 福岡市教育委員会 1995 『雀居遺跡』
- (財)北九州市教育文化事業団 1988 『貫川遺跡1』
- (財)広島県埋蔵文化財調査センター 1994 『岡の段C遺跡』『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(IV)』
- 岡山県教育委員会 1995 『南溝手遺跡1』
- 鳥取県教育委員会 2013 『本高弓ノ木遺跡(5区)1』
- 鳥取県教育文化財団 1993 『井手脇遺跡』
- 鳥取県教育文化財団 1999 『古市遺跡群1 古市カハラケ田遺跡 古市河原田遺跡』
- 仁摩町教育委員会 1999 『五丁遺跡群発掘調査報告書』
- 鹿島町教育委員会 2005 『福部第1遺跡』
- 雲南市教育委員会 2009 『方場1遺跡』
- 島根県古代文化センター 2014 『山陰地方の縄文社会』
- 島根県教育委員会 1998 『板屋Ⅲ遺跡』
- 島根県教育委員会 2000 『三田谷1遺跡 vol.3』
- 島根県教育委員会 2005 『宮ノ脇遺跡 家の後II遺跡1』
- 島根県教育委員会 2007 『林原遺跡』
- 島根県教育委員会 2006 『原田遺跡(2)－2区の調査－』
- 島根県教育委員会 2009 『五丁遺跡 廬寺遺跡1 於才追遺跡』

土器観察表

博団 番号	因版 番号	種別	断面	併行式 (時間)	gδ	道様	層位	口径 (cm)	最高 (cm)	底径 (cm)	特徴	調整	胎土	色調	
14-1	25	土師器	高台付 片	-	L4	-	1層	-	-	(5.6)	-	外：回転ナデ 芯。(1mm溝の赤色粒、4 mm以下の中白粒を含む) 内：回転ナデ	外：暗SYR2/6 内：浅黄褐7.5YR8/4	-	-
14-2	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	L6	-	2~3層	-	-	-	(無創目) 尖帯	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の中粒を含む	外：灰黄褐10YR6/2 内：灰黄褐10YR6/2	-
14-3	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	L4	-	2~3層	-	-	-	(無創目) 尖帯	外：ナデ 内：ナデ	2mm以下の中粒を含む	外：にぶい黄褐10YR6/3 内：黒N2	-
14-4	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	L4	-	2~3層	-	-	-	尖帯、竹管による刺突	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の中粒を含む	外：にぶい黄褐10YR6/3 内：にぶい黄褐10YR6/2	-
14-5	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	L6	-	2~3層	-	-	-	尖帯、円形状の刺突	外：磨滅 内：磨滅	2mm以下の中粒を含む	外：にぶい黄褐10YR6/3 内：黒褐10YR8/1	-
14-6	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	L4	-	2~3層	-	-	-	尖帯、円形の刺突。口縁部欠 損	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の中粒を含む	外：灰白10YR2/1 内：暗7.5YR6/6	-
14-7	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	L4	-	2~3層	-	-	-	尖帯、円形状をした刺突	外：磨滅 内：磨滅	3mm以下の中粒を含む	外：にぶい赤褐SYR5/3 内：黒褐10YR8/1	-
14-8	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	M6	-	2層	-	-	-	尖帯、斜方向の刺目	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の中粒を含む	外：明赤褐SYR5/3 内：明赤褐SYR5/3	-
14-9	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	L6	-	2層	-	-	-	尖帯、平面形が不整形の刺突	外：ナデ 内：ナデ	4mm以下の中粒を含む	外：灰黄褐10YR6/2 内：にぶい黄褐10YR6/3	-
14-10	25	縄文土器	深鉢	尖帯文	M5	-	-	-	-	-	尖帯文、刺目、工具不明。わざ かに修理する	外：ナデ 内：ナデ	芯。①3mm大の中粒を多 くに含み、②1mm以下の中 粒を多く含む	外：にぶい黄褐10YR6/2 内：灰黄褐2.5YR6/2	-
14-11	25	弥生土器	盤	-	M6	-	2層	-	-	7.4	穿孔により不明瞭。外面深付着	外：ナデカ 内：ナデカ	粗。(2mm以下の石英・長 石。4mm以下の砂粒を多 く。6mm未満の赤色粒子を 少し含む)	外：にぶい赤褐SYR5/3 内：浅黄褐10YR8/3	-
14-12	25	土師器	(Hも しくは 皿)	-	L4	-	2層	-	-	6.4	摩擦により不明瞭	外：ナデカ 内：ナデカ	粗。(2mm溝の粗骨、角 石・閃石を少し。2mm以下の中 粒・長石その他の砂粒を多 量に含む)	外：にぶい黄褐10YR6/3 内：灰2.5Y7/2 内：暗SYR6/6~6/8	-
18-1	26	縄文土器	深鉢	尖帯文	L4	SK1	3層	-	-	-	(無創目) 尖帯、橢円形をした 小さな刺突	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の中粒	外：闊褐10YR6/1 内：灰黄褐10YR5/2	-
18-2	26	縄文土器	深鉢	尖帯文	L4	SK1	3層	-	-	-	尖帯、管状の工具による刺突	外：ナデ 内：ナデ	4mm以下の中粒	外：にぶい黄褐10YR6/3 内：浅黄褐10YR8/3	-
18-3	26	縄文土器	深鉢	尖帯文	L4	SK1	3層	-	-	-	尖帯、円形の刺突	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の中粒	外：暗7.5YR6/6 内：にぶい黄褐10YR7/3	-
18-4	26	縄文土器	深鉢	尖帯文	L4	SK1	3層	-	-	-	(無創目) 尖帯	外：ナデ 内：ナデ	2mm以下の中粒	外：明黄褐10YR6/6 内：黒褐2.5Yr/1	-
18-5	26	縄文土器	深鉢	尖帯文	L5	SK1	3層	-	-	-	(無創目) 尖帯	外：ナデ 内：ナデ	4mm以下の中粒	外：灰2.5Y7/2 内：灰黄2.5Y7/2	-
18-6	26	縄文土器	深鉢	尖帯文	L5	SK1	3層	-	-	-	(無創目) 尖帯	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の中粒	外：にぶい黄褐10YR6/3 内：浅黄褐2.5Y7/3	-
23-1	26	縄文土器	深鉢	-	L4	SK2	3層	(14.0)	-	-	全体磨滅している。煤焼残る	外：素面 内：ナデカ	やや粗い、径3mm以下の砂 粒を多く含む	外：暗7.5YR6/6 内：暗灰黄2.5Y5/2	-

辨認番号	回収番号	種別	器種	併行式(時期)	g/d	遺構	層位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	特徴	調整		地土	色調	
												外:	内:	外:	内:	
23-2	26	縦文土器	深鉢	実等文	L4	SK2	3層	-	-	-	突堤、斜め字形の列目	外: ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外: にじい黄緑10YR7/3	内: 黄緑2.5Y7/2	
23-3	26	縦文土器	深鉢	実等文	L4	SK2	3層	-	-	-	(無列目) 突堤、管状の工具で削開、一部擦滅	外: ナデ	5mm以下の砂粒を含む	外: にじい黄緑10YR7/2	内: 黄緑2.5Y4/1	
23-4	26	縦文土器	深鉢	実等文	-	SK2	3層	-	-	-	突堤、削開、管状工具による列突	外: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黄緑闇10YR4/2	内: 黄緑闇10YR5/2	
23-5	26	縦文土器	浅鉢	-	L5	SK2	3層	-	-	-	-	外: 三ガホ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黒3Y2/1	内: 墓田黒2.5Y5/2	
29-1	27	縦文土器	深鉢	織部式	M7	SR1	-	-	-	-	内縮する輪郭、削開文様、浅い列突(文半筋竹管)、沈線	外: 二枚貝条痕、ナデ	中や細、径2~3cmの大粒砂を多く含み、径1cm以下の砂粒を多く含む	外: 青緑闇2.5Y7/3	内: 青白2.5Y8/2	
29-2	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	O字形列目、口縁底部V字形列目、内から外へ削開、列目等文、列目文、孔列式土器	外: ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外: 黄緑2.5Y7/2	内: 黄白2.5Y8/1	
29-3	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	全体的に磨滅している、削開文、列目	外: 磨滅	粗、径2mm未満の砂粒多く含む	外: 墓田黒2.5Y5/2	内: 黒3Y3/2	
29-4	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	列目、列目等文、全体的に磨滅して調整不明	外: 磨滅	やや粗、径2mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄緑闇10YR5/2	内: にじい黄緑10YR5/3	
29-5	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	列目、実等文、全体的に磨滅して調整不明	外: 磨滅	中や粗、径2mm以下の砂粒を多く含む	外: 暗9Y6/6	内: 青黒382/1	
29-6	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	列目等文、全面擦滅する、腹部平ら	外: -	粗、径2mmの大粒砂を若干含む	外: 墓田10YR5/1	内: 黑褐10YR3/2	
29-7	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7・L7	SR1	-	-	-	-	列目、实等文、外面に残る、内面は削開して調整不明	外: ナデ	粗、径1cm以下の砂粒を多く含む	外: にじい黄緑10YR4/3	内: 黑褐2.5Y4/2	
29-8	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	全体磨滅していて調整不明	外: 磨滅	やや粗、径3mm以下の砂粒を多く含む	外: 黑2.5Y6/1	内: 黑2.5Y5/1	
29-9	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	列目等文、全面磨滅していて調整不明	外: 磨滅	粗、径1cm以下の砂粒を多く含む	外: 黑2.5Y7/2	内: 黑2.5Y6/2	
29-10	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	突堤、列目	外: ナデ・二枚貝条痕	粗、径3mm以下の砂粒を若干含む	外: にじい黄緑10YR7/2	内: 黑2.5Y8/4	
29-11	27	縦文土器	深鉢	実等文	N6	SR1	-	-	-	-	(無列目) 実等文	外: 素面(巻貝)	粗1~2mmの砂粒を多く含む	外: にじい黄2.5Y6/3	内: にじい黄2.5Y6/3	
29-12	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	(無列目) 実等文	外: ナデ	やや粗、径2mm以下の砂粒を多く含む	外: にじい黄緑10YR6/3	内: 黑褐闇10YR6/2	
29-13	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	列目等文、二条突堤、内面擦滅して調整不明	外: ナデ	粗、径1cm以下の砂粒を多く含む	外: 墓田10YR4/1	内: 黄緑10YR6/1	
29-14	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	外面擦滅、列目等文、二条突堤、厚く残る、二条突堤	外: 素面	粗、径1cm未満の砂粒を多く含む	外: 黄緑闇10YR4/2	内: 黄緑闇10YR5/2	
29-15	27	縦文土器	深鉢	実等文	M7	SR1	-	-	-	-	列目等文、外面擦滅、底部二条突堤	外: -	粗、径1cm以下の砂粒を多く含む	外: 黄緑闇10YR4/2	内: 墓田10YR6/1	

井田 番号	固版 番号	種別	基種	供用形式 (時期)	g/d	造様	部位	口径 (cm)	縦高 (cm)	選幅 (cm)	特徴	調整	熟土	色調
29-16	27	磚文土器	丸	(丸鉢) (初期)	L7	SRI	-	-	-	-	進化のため調整不明	外： 内：	0-1~2mmの砂粒を多く含む 赤褐色粒子を多く含む	外：標準SYR6/6 内：にぶい標準SYR7/3
29-17	27	磚文土器	丸鉢	-	N5 + O5	SRI	-	-	-	-	脂の痕、沈縫	外：ミガキ + ナ 内：ナデカ	肥、径1mm以下の砂粒を多 く含む	外：黒SY2/1 内：黒SY4/1
29-18	27	磚文土器	丸鉢	-	M7	SRI	-	-	-	-	外面に模様	外：ミガキ 内：ナデカ	肥、径1mm未溝の砂粒を多 く含む	外：標準SYR6/1 内：標準N3/1
29-19	27	磚文土器	丸鉢	-	M7	SRI	-	-	-	-		外：ミガキ 内：ミガキ	肥、径0.5mm未溝の砂粒を多 く含む	外：黒SY2/1 内：黒SY4/1
29-20	27	磚文土器	丸鉢	-	M7	SRI	-	(27.8)	-	-	一条沈縫、一部模様。全面ミガ キ力	外：ミガキ力 内：ミガキ力	肥、径1mm未溝の砂粒を多 く含む	外：黒SY2/3/1 内：黒SY2/1
29-21	27	磚文土器	丸鉢	-	M7	SRI	-	-	-	-	外面のミガキ砂粒が大きく動 いた痕あり、一側沈縫	外：ナデ + ミガ キ力 内：ミガキ	肥、径1mm以下の砂粒を多 く含む	外：黒SY2/1 内：黒SY6/2
29-22	27	磚文土器	丸鉢	-	M7	SRI	-	(36.0)	-	-		外：ミガキ 内：ミガキ	肥、径0.5mm未溝の砂粒を多 く含む	外：標準N3/1 内：標準N3/1
29-23	27	磚文土器	丸鉢	-	M7	SRI	-	-	-	-	内面および外面の一部模様	外： 内：	やや粗、径1mm以下の砂粒 を多く含む	外：黒SY2/1 内：黒SY3/2
29-24	27	磚文土器	丸鉢	肥厚力	M6	SRI	-	-	-	7.2	底部が高台状になっている	外：ヘラミガキ 内：ナデカ	きめ細かい、0-1mm程度 砂粒を少しあわし、0.5mm くらいの砂粒を含む	外：にぶい標準SYR6/3 内：黒SY2/3/1
29-25	27	弥生土器	西	I-2 様式	L7	SRI	-	21.5	-	-	口縁部と頸部の僅、頸部と肩部 の頸に一段、へらによる縫い接 ぎによる縫い接	外： 内：	ハケメのちヘ ラミガキ + ナ テハマメのち ヨコマタナメ ヘラミガキ	外：標準SYR6/6
29-26	27	弥生土器	西	I-2 様式,力	M7	SRI	-	-	-	-	口縁部へ傾斜 ハクア形柱状 ヨコマタナメ ヨコマタニガ キ・ヨコ(= ナメ) / ハケ メ、相撲压痕 あり	外： 内：	口縁部へ傾斜 ハクア形柱状 ヨコマタナメ ヨコマタニガ キ・ヨコ(= ナメ) / ハケ メ、相撲压痕 あり	外：標準SYR6/6
29-27	27	磚文土器	深鉢	-	N6	SRI	-	-	-	-	茶色の微塵が付着している (土器の表面にしみ込んでいる よう)、調質は不良、土器内に 変化物質がしみ込んでいる 力	外： 内：	茶(2mm以下) 石(2mm以下) 白(2mm以下) 灰(3mm以下) 砂粒を多く含む	外：浅黄SYR6/3 内：浅黄SY7/2
29-28	27	弥生土器	-	初期力	M4	SRI	-	-	-	-	進化はげしく調整不明	外： 内：	0-1~5mmの砂粒を含む (赤褐色、赤白色粒子を 含む)	外：標準SYR6/6 内：標準SYR2/6
29-29	27	弥生土器	西	-	M7	SRI	-	-	-	-	外面に少なくとも一条の凹縫、 ヘラ沈縫、摩滅により調整不明	外： 内：	粗(4mm以下) に含む	外：にぶい標準SYR7/4 内：にぶい標準SYR7/4
30-1	27	弥生土器	東カ	初期力	N7	SRI	-	-	-	12.0	外表面風化が激しい部分あり(ヨ コたおしの時期が長かったの か?)	外： 内：	ナデのちタ ナデのミガ キカ 0-1~3mmの砂粒を含む (赤白色粒子が多い)	外：にぶい標準SYR7/4 内：浅黄SY7/3
30-2	28	弥生土器	東カ	初期力	M7	SRI	-	-	-	(8.8)	内面、底部が擦減していて調質 不明	外： 内：	タデハケメ 0-1~3mmの砂粒を多く含 む(赤白色粒子が多い)	外：にぶい標準SYR7/4 内：にぶい標準SYR7/4
30-3	28	弥生土器	東カ	初期力	M6 + M7 + M8	SRI	-	-	-	7.0	まもう激しく調質不明、底部も み痕?	外： 内：	0-2mmくらいの砂粒を多く 含む	外：にぶい標準SYR7/3 内：にぶい標準SYR6/3

辨認 番号	固版 番号	種別	器種	併行式型 (前輪)	gd	道様	席位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	特徴	測量	地土	色調
30 - 4	28	弥生土器	-	前輪左	M7	SR1	-	-	-	-	調整不明(摩耗はげしい) 黒化	外: 内:	外: に赤い黄緑10YR7/4 内: に赤い黄緑10YR7/3	
30 - 5	28	弥生土器	(重)	前輪左	M6	SR1	-	-	-	9.0	黒化はげしく調整不明	外: 内:	外: 地表現10YR8/4 内: 地表現25YB4	
30 - 6	28	弥生土器	捷	-	M7	SR1	-	-	-	10.3	-	外: ヘラミガキ。 底面に穿孔ナ ヌ、一部カラ ケズり 内: ナメハラメ (のちナナ)? ヘラミガキ。 底ナヌ	外: に赤い黄緑10YR7/2 内: に赤い黄緑10YR7/2	
30 - 7	27	弥生土器	(重も しくは 捷)	中前左	M5 + M7	SR1	-	-	-	6.0	2個体	外: タテ方向のマ ガキ 内: -	外: 深葉25Y7/3 内: に赤い黄25Y6/4	
30 - 8	28	弥生土器	捷	-	M7	SR1	-	-	-	9.8	内外面保付裏	外: ヘラミガキ。 底面に丁寧な ナヌ 内: ヘラミガキ。	外: に赤い黄緑10YR5/3 内: 褐斑10YRA1	
30 - 9	28	弥生土器	(重も しくは 捷)	中前左	-	SR1	-	-	-	-	調整不明。内外面保付裏	外: - 内: モガシカ	外: 深葉25Y7/3 内: に赤い25Y6/3	
30 - 10	28	弥生土器	-	-	M7	SR1	-	-	-	-	調整不明。黒褐色(スカル)を 呈している	外: - 内: (モガシカ)	外: に赤い黄緑10YR6/3 内: 褐斑25Y3/1	
30 - 11	28	弥生土器	捷カ	中前左	L7	SR1	-	-	-	-	内面当頭直庄	外: ハウメ・ナ デカ 内: ナデカ・指標 庄度	外: 深葉10YR5/5 内: 褐斑10YR3/1	
30 - 12	28	弥生土器	捷カ	中前左	N6	SR1	-	-	-	-	縦列模様あり、2条の波状紋、外 面調査不明。内面付着物質(黒 褐色10YR5/5)あり。内面(各個 の可逆性あり)	外: - 内: ハウメ	外: 0.1~2mmの粒状を含む (少しだけ)の白砂粒。 内: 0.1~5mmの赤褐色粗 粒子	外: 暗25YR6/6 内: に赤い黄緑10YR5/4
30 - 13	28	弥生土器	捷カ (中~後 期)カ	-	L7	SR1	-	-	-	-	(口縁部切込貼付等)	外: 口縁部切込コ ナヌ、全体タ ラカヒのハ シガキ 内: 口縁部切込コ ナヌ、全体タ ラカヒ ケヌメ・指標 庄度・ハウメ	外: に赤い黄緑10YR7/3 内: 深葉10YR8/3	
30 - 14	29	弥生土器	捷	-	M7	SR1	-	-	-	8.9	外面磨滅により不明瞭	外: ナデカ 内: ナメハラ メ・ナデ	外: 深葉10YR7/4 内: 褐斑25Y6/2	
31 - 1	29	縄文土器	深鉢	後削左	O4	SR2	-	-	-	-	内面に段をもつ、全面磨滅して いて調整不明	外: - 内: -	外: 褐25Y7/1 内: 褐斑10Y2/1	
31 - 2	29	縄文土器	深カ	奥革文	N5	SR2	-	-	-	-	縫き不明。内縫する縫合?物の 可能性あるが、細、透かしては はねが大きめ。前に縫、両端 交叉	外: - 内: -	外: に赤い黄緑10YR7/2 内: 褐斑10Y2/1	
31 - 3	29	縄文土器	浅鉢	-	L4	SR2	-	0.66	-	-	「縫の跡」、縫合部面で面をつく る。縫合しててわざりつづき が内縫面でない。約5mm、 孔たて×幅よこ=4×3cm、紐をも 貼った接着合が縫合に見える	外: モガキ 内: モガキ	外: 褐1mm未満の砂粒を多 く含む 内: 褐斑25Y7/2	
31 - 4	29	縄文土器	深鉢	奥革文	N4	SR2	-	-	-	-	縫目痕帯文	外: - 内: -	外: 褐葉10YR5/2 内: 褐斑10YR6/2	
31 - 5	29	縄文土器	深鉢	奥革文	M5	SR2	-	-	-	-	縫目痕帯文。全体的に磨滅して いる	外: - 内: -	外: 褐葉10YR5/2 内: 褐斑10YR5/2	
31 - 6	29	縄文土器	深鉢	奥革文	O4	SR2	-	-	-	-	糸目痕帯文。全体磨耗し ている	外: - 内: -	外: 褐葉25Y5/1 内: 褐斑25Y7/2	
31 - 7	29	縄文土器	深鉢	奥革文	N4	SR2	-	-	-	-	二枚貝壳痕カ。外側わずかに埋 れる。内側裏面ともに磨滅してい る。糸目痕帯文	外: - 内: -	外: 褐葉25Y5/2 内: 褐斑N2/	

井田番号	田版番号	種別	面積	供用型式(時期)	g/f	造様	屋位	口幅(cm)	幅高(cm)	連幅(cm)	特徴	調整	熟土	色調
31-8	29	磚文土器	深鉢	実帯文	O4+O5	SR2	-	-	-	-	縫隙に約5mm間隔の切目がある部分(△)と、割合が少ない部分(△)が存在する感じ(縫隙なので詳しくはわからない)。(△)縫隙切目、△より外反し、切目なし△や面となり	外: 基底(のちナデカ) 内: ナデ	0.1m前後の砂粒を含む	外: 淡黄2.5Y7/3 内: 淡黄2.5Y7/3
31-9	31	磚文土器	深鉢	実帯文	N4	SR2	-	(30.4)	-	-	側面実帯文。縮減していくて調整不明。ナデ	外: やや粗、径7mm以下の砂粒を多く含む 内:	やや粗、径7mm以下の砂粒を多く含む	外: 黒地2.5Y3/2 内: 暗灰黄2.5Y3/2
31-10	29	磚文土器	深鉢	実帯文	N5	SR2	-	-	-	-	側面実帯文。縮減していくて調整不明。ナデ	外: ナデ 内:	地、径1~2mmの砂粒をわずかに含み、径7mm未満の砂粒を多く含む	外: 黒地2.5Y6/1 内: 黒5Y7/1
31-11	29	磚文土器	鉢	実帯文	N5	SR2	-	-	-	-	縮減の為、調整不明。側面実帯文	外: 内:	やや粗、径2mm以下の砂粒を多く含む	外: 淡黄2.5Y6/2 内: 黑5Y5/1
31-12	29	磚文土器	深鉢	実帯文	M4	SR2	-	-	-	-	側面実帯文。縮減していくて調整不明	外: 内:	地、径3mm以下の砂粒を多く含む	外: 暗灰黄2.5Y5/2 内: 暗黄2.5Y5/2
31-13	29	磚文土器	深鉢	実帯文	M4	SR2	-	-	-	-	内外面縮減していくて調整不明。側面実帯文	外: 内:	やや粗、径3mm以下の砂粒を多く含む	外: にじむ淡黄5Y6/4 内: 淡黄2.5Y6/2
31-14	29	磚文土器	深鉢	実帯文	O4	SR2	-	-	-	-	側面実帯文。全体縮減していくて調整不明	外: 内:	地、径2~3mm以下の砂粒を若干含み、径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黑5Y7/2 内: 黑2.5Y3/2
31-15	29	磚文土器	深鉢	実帯文	M5	SR2	-	-	-	-	二枚貝垂れ、側面実帯文。外面全面保護村、二条実帯	外: 二枚貝垂れ 内: 二枚貝垂れ	地、径1~2mmの砂粒をわずかに含み、径7mm未満の砂粒を多く含む	外: 暗灰褐10YR5/2 内: 黑5Y7/1
31-16	29	磚文土器	深鉢	実帯文	M5	SR2	-	-	-	-	側面実帯文。外曲面培、二条実帯	外: 二枚貝垂れ 内: ナデ	地、径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 暗灰褐10YR5/2 内: 黑5Y7/1
31-17	29	磚文土器	力	-	L4	SR2	-	-	-	(9.4)	調整不明	外: 内:	0.1~3mmの砂粒を多く含む	外: 淡黄2.5Y6/3 内: 淡黄2.5Y7/3
31-18	29	磚文土器	浅鉢	-	N5	SR2	-	-	-	-	複製浅鉢、全体的に縮減していくて調整がわからいく	外: ミガキ 内: ミガキ	地、径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 淡黄4/1 内: 黑5Y5/1
31-19	29	磚文土器	浅鉢	-	L7+M7	SR2	-	-	-	-	表面縮減している。調整不明	外: 粗いミガキ 内: ナデ	地、径1mm未満の砂粒を多く含む	外: 淡黄10YR6/1 内: 黑5Y5/1
31-20	29	磚文土器	浅鉢(單純)	-	N4	SR2	-	-	-	-	外曲面縮減。ナデ、内面丁寧なナデ	外: ナデ 内: ミガキ	地、径1mm以下の砂粒を多く含む含む	外: 淡黄2.5Y7/3 内: にじむ暗褐10YR7/4
31-21	29	磚文土器	浅鉢	-	N4	SR2	-	-	-	-	全面縮減していくて調整がわからいく	外: ミガキ 内: ミガキ	地、径1~3mmの砂粒をわずかに含む、径7mm未満の砂粒を多く含む	外: 淡黄2.5Y6/1 内: 黑5Y5/1
31-22	29	磚文土器	浅鉢	力	N4+O4	SR2	-	-	-	-	-	外: ナデ 内: ナデ	きめ細かい、中7mm未満の砂粒を含む	外: 黑5Y3/1 内: 黑5Y5/1
31-23	29	磚文土器	深鉢	力	O4	SR2	-	-	-	-	-	外: ナデ 内: ナデ	0.1~3mmの砂粒を含む、(淡白色、赤褐色粒子を含む)	外: 淡黄2.5Y7/3 内: 淡黄2.5Y7/3
31-24	29	磚文土器	深鉢	力	M4	SR2	-	-	-	-	調整不明。(黒化したため)、底部はもともとの段差か、粘土がされたか不明	外: 内:	0.1~3mmの砂粒を多く含む。(淡白色を含む)	外: 淡黄2.5Y7/3 内: 淡黄2.5Y7/3
31-25	30	弥生土器	-	前輪	M4	SR2	-	-	-	7.6	-	外: 内:	0.1~2mmの砂粒を含む、比較的密	外: 淡黄2.5Y8/4 内: 淡黄2.5Y8/3
31-26	29	弥生土器	不明	中輪	O4	SR2	-	-	-	-	(口縁端部) 一条の凹縫	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	きめ細かい、1~3mmの砂粒を少し含む	外: にじむ黒褐10YR7/3 内: 暗灰褐10YR6/2
33-1	31	磚文土器	深鉢	-	O4+O5	SR3	-	(15.2)	-	-	-	外: 内:	地、径3mm以下の砂粒を多く含む	外: 黑5Y4/1 内: 黑5Y3/1
33-2	31	磚文土器	深鉢	-	N6	SR3	-	-	-	-	縮減していくて調整不明。側面	外: 内:	地、径1mm以下の砂粒を多く含む	外: にじむ赤褐2.5YR5/4 内: 暗灰5Y5/2

井田 番号	回収 番号	種別	岩種	併行式 (明期)	gd	道構	層位	口径 (cm)	都高 (cm)	底高 (cm)	特徴	調整		地土	色調
												外:	内:		
33-3	31	縞文土器	深鉢	-	N6	SR3	-	-	-	-	剖面	外: -	やや粗。径3mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐色10YR5/2	内: にじむ黄褐色10YR6/2
33-4	31	縞文土器	深鉢	-	N5	SR3	-	-	-	-	剖面、剖面変遷	外: -	やや粗。径2mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄8.5Y6/1	内: にじむ黄褐色10YR6/4
33-5	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	O5	SR3	-	-	-	-	剖面変遷文欠損、剖面	外: -	やや粗。径2mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄8/2	内: 離灰3N3/
33-6	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	M5	SR3	-	-	-	-	剖面変遷文、保有する、剖面	外: -	粗。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐2.5Y3/1	内: 離灰10YR4/1
33-7	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N5	SR3	-	-	-	-	奥帯文、剖面	外: -	やや粗。径3mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐2.5Y6/2	内: 土オリーブ7.5YS5/2
33-8	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N5	SR3	-	Q8.6	-	-	剖面変遷文、外面集塵	外: 集塵	やや粗。径4~5mmの大砂粒を若干含む。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐2.5Y5/1	内: にじむ黄褐色2.5Y6/3
33-9	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N5	SR3	-	-	-	-	剖面変遷文	外: ナデ	粗。径2mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐色2.5Y5/3	内: 黄8/2
33-10	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N5	SR3	-	-	-	-	奥帯文、浅い切目、焼痕はほぼ全面上に残る	外: -	粗。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: にじむ黄褐色10YR5/3	内: にじむ黄褐色2.5Y6/3
33-11	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N6	SR3	-	-	-	-	剖面文	外: 集塵	粗。径1mm以下の砂粒を若干含む	外: 離灰2.5Y4/2	内: 黄褐色10YR7/2
33-12	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N5	SR3	-	-	-	-	變遷していく調整不用。剖面変遷文	外: -	やや粗。径2mm以下の砂粒を多く含む	外: 明灰2.5Y7/6	内: 明黃褐色10YR6/6
33-13	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N5	SR3	-	-	-	-	外内両方に磨滅している。剖面変遷文、二条突堤、一部保残する	外: ナデ	粗。径2mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐色10YR5/1	内: 黄褐色10YR3/1
33-14	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N6	SR3	-	-	-	-	剖面変遷文、二条突堤、側部突堤	外: ナデカ	やや粗。径3mmの大砂粒をわずかに含む。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐色10YR5/2	内: 黄褐色10YR4/2
33-15	31	縞文土器	深鉢	奥帯文	N6	SR3	-	-	-	-	剖面変遷文、二条突堤	外: 二枚集塵	やや粗。径3mmの大砂粒をわずかに含む。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐色2.5Y7/3	内: 黄褐色2.5Y5/1
34-1	31	縞文土器	深鉢	-	N5	SR3	-	-	-	-	内面磨減調整不明	外: 二枚集塵+ナデ	粗。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐色2.5Y8/6	内: 黄8.5Y8/2
34-2	31	縞文土器	浅鉢	-	N6	SR3	-	-	-	-	沈締跡の段	外: 三ガキ	やや粗。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄褐色10YR6/2	内: 離灰3N1/
34-3	31	縞文土器	浅鉢	-	N6	SR3	-	-	-	-	摺合しているのがわかる	外: 三ガキ	粗。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄9/2/1	内: 黄2.5Y2/1
34-4	31	縞文土器	浅鉢	-	N5	SR3	-	-	-	-	-	外: 三ガキ	やや粗。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 黄N+1.5/	内: 黄7.5Y4/1
36-1	32	縞文土器	深鉢	-	L5	-	3層	-	-	-	-	外: 剥貝集塵	粗。径1mm以下の砂粒を多く含む	外: 離灰2.5Y4/2	内: にじむ黄褐色10YR5/3
36-2	32	縞文土器	浅鉢	-	L5	-	3層	-	-	-	三田吉文律土器 火をかけているよう。(壁面も) →紀文土器 (49-1) の特徴に似る。 内面磨化している	外: ヨコ方向の三 ガキ	ヨコ方向の三 ガキ	外: 黄褐色2.5Y6/2、黄灰 2.5Y4/4	内: (特に灰白色粒子)

井戸 番号	井戸 番号	種別	基盤	併行型式 (判別)	gd	道様	屢位	口径 (m)	最高 (m)	進深 (m)	特徴	調整	地土	色調
36-3	32	縦文土器	深鉢	-	M6	-	3層	-	-	-	基底丸、内面削減のため不明	外：基底丸 内：	やや粗、径7m以下の砂粒 を多く含む	外：にじいろ黄緑10YR7/3 内：にじいろ7.5YR7/4
36-4	32	縦文土器	浅鉢 土器	-	L5	-	3層	-	-	-	全面削減していて調整不明	外： 内：	やや粗、径3m以下の砂粒 を多く含む	外：深2.5YR8/2 内：深2.5YR8/2
36-5	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L6	-	3層	-	-	-	尖等、斜行するV字形の剖面	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YR6/2 内：にじいろ黄緑10YR5/3
36-6	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L6	-	3層	-	-	-	尖等、斜行V字形の剖面	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：灰黄褐色2.5YR7/2 内：オリーブ黒7.5Y3/1
36-7	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L6	-	3層	-	-	-	尖等、斜めV字形の剖面、基 下削除	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒を含む	外：深2.5YR8/2 内：透明白10YR7/3
36-8	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L4	-	3層	-	-	-	尖等、V字形の剖面	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：黒褐色10YR5/2 内：にじいろ黄緑10YR6/3
36-9	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L4	-	3層	-	-	-	尖等、V字形	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：灰黄褐色2.5YR7/2 内：灰黄褐色2.5YR7/2
36-10	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L4	-	3層	-	-	-	尖等、縦および斜め方向に字形 の剖面	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒	外：灰黄褐色2.5YR7/2 内：深2.5YR8/2
36-11	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L4	-	3層	-	-	-	尖等、斜行字形	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒	外：にじいろ黄緑10YR7/4 内：灰黄褐色2.5YR7/2
36-12	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L5	-	3層	-	-	-	尖等、斜め字、やや削減、剖面 斜行	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YR5/2 内：にじいろ黄緑10YR7/2
36-13	32	縦文土器	深鉢	尖等文	-	-	3層	-	-	-	斜め字、剖面	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：にじいろ黄緑10YR5/3 内：にじいろ黄緑10YR7/2
36-14	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L4	-	3層	-	-	-	尖等、不整形の剖面	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YR6/2 内：にじいろ黄緑10YR7/2
36-15	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L6	-	3層	-	-	-	尖等、円形剖面？（崩落してい る）	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：にじいろ黄緑10YR7/3 内：にじいろ7.5YR7/4
36-16	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L4	-	3層	-	-	-	尖等、管状の工具による削開	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：にじいろ7.5YR6/3 内：灰黄褐色10YR6/2
36-17	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L6	-	3層	-	-	-	尖等、円形状の剖面、内面削減	外：ナデ 内：削減	4m以下の砂粒 内：削減	外：深2.5YR8/1 内：赤褐色10R6/6
36-18	32	縦文土器	深鉢	尖等文	M4	-	3層	34.2	-	-	(無剖面) 尖等文、内外面削減	外：削減 内：削減	7m以下の砂粒を含む	外：灰黄褐色10YR7/2 内：灰黄褐色2.5YR7/2
36-19	32	縦文土器	深鉢	尖等文	L5	-	3層	-	-	-	(無剖面) 尖等文	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：深2.5YR8/1 内：深2.5YR8/1
36-20	32	縦文土器	深鉢	尖等文	M5	-	3層	-	-	-	(無剖面) 尖等文	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒	外：灰黄褐色2.5YR6/2 内：灰黄褐色2.5YR4/2
36-21	32	縦文土器	深鉢	尖等文	M5	-	3層	-	-	-	(無剖面) 尖等文	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YR5/2 内：灰黄褐色10YR4/2

探査 番号	回収 番号	種別	基種	現行型式 (時期)	gd	道様	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	特徴	調査	胎土	色調
36-22	32	縄文土器	深鉢	実等文	L4	-	3層	-	-	-	(無則屈) 実等文	外: ナデ 内: ナデ	2m以下の中粒	外: 地震10YR5/1 内: 黒7.5V2/1
36-23	32	縄文土器	浅鉢	実等文	M6	-	3層	-	-	-	沈線文、口縁部欠損	外: ワガキ 内: ワガキ・ナデ	1m以下の中粒を含む	外: 地震2.5VS/2 内: 黒2/2
36-24	32	弥生土器	甕	前割	N	M4	-	3層	-	8.2	内外面着底により調整不明	外: - 内: -	赤、1m以下の石塊、3mm以下の長石。4mm以下の砂粒、赤色粘土を多量に含む。	外: 10YR7/3に赤い黄 内: 10YR7/3に赤い黄
38-1	33	縄文土器	深鉢	実等文	M5・ M6	-	3~5層	-	-	-	口縁部D字形、実等V字形	外: ナデ 内: ナデ	1m以下の中粒を含む	外: オリ・ブ陶2.5Y3/3 内: 黒2.5V6/2
38-2	33	縄文土器	深鉢	実等文	M5・ M6	-	3~5層	-	-	-	口縁部剖切V字形、実等、V字形	外: ナデ 内: ナデ	5m以下の中粒を含む	外: 黒N=1.5/ 内: 黑2.5V7/2
38-3	33	縄文土器	深鉢	実等文	M5・ M6	-	3~5層	-	-	-	口縁部剖切丸みのあるV字形で 判別)、実等、不規則なV字形	外: ナデ 内: ナデ	4m以下の中粒を含む	外: オリ・ブ陶2.5Y3/1 内: 黒2.5Y3/1
38-4	33	縄文土器	深鉢	実等文	M5・ M6	-	3~5層	-	-	-	口縁部剖切V字形、実等V字形	外: ナデ 内: ナデ	5m以下の中粒を含む	外: 黒N=1.5/ 内: 黑3/4/1
38-5	33	縄文土器	深鉢	実等文	M5・ M6	-	3~5層	-	-	-	実等、D字形剖切、口縁部直垂 り	外: ナデ 内: ナデ	6m以下の中粒を含む	外: に赤い黄2.5Y3/3 内: に赤い黄2.5Y3/2
38-6	33	縄文土器	深鉢	実等文	M5・ M6	-	3~5層	-	-	-	実等、V字形の剖目	外: ナデ 内: ナデ	2m以下の中粒を含む	外: 黒2.5VS/1 内: 黑7.5V4/1
39-1	33-34	縄文土器	深鉢	孔列 (文) 土 器	L6	-	5層	-	-	-	孔列(文) 土器 穿孔(外から内へ)	外: ナデ 内: ナデ	1m以下の中粒を含む	外: に赤い黄5Y6/4 内: 黑5Y6/8
39-2	34	縄文土器	深鉢	-	L4	-	5層	-	-	-	口縁部剖切V字形の剖目	外: ナデ 内: ナデ	4m以下の中粒	外: 黑2.5Y4/1 内: 黑2.5Y4/1
39-3	34	縄文土器	深鉢	-	L4	-	5層	-	-	-	口縁部剖切、丸い側面直溝 付け	外: ナデ 内: ナデ	4m以下の中粒	外: に赤い黄7.5Y5/3 内: に赤い黄10YH6/3
39-4	34	縄文土器	深鉢	実等文	M4~ M6	-	5層	-	-	-	実等D字、口縁部剖切V字形の剖 目	外: ナデ 内: ナデ	2m以下の中粒を含む	外: 黑2.5YM2 内: 黑7.5V2/1
39-5	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	実等、D字形の剖目	外: ナデ 内: ナデ	2m以下の中粒を含む	外: に赤い黄10YR5/3 内: 黑N/2
39-6	34	縄文土器	深鉢	実等文	M4~ M6	-	5層	-	-	-	実等、V字形の剖目	外: ナデ 内: ナデ	2m以下の中粒を含む	外: 黑2.5Y3/2 内: 地震2.5VS/2
39-7	34	縄文土器	A	実等文	L7	-	5層	-	-	-	実等、V字形の剖目	外: ナデ 内: ナデ	3m以下の中粒	外: 地震10YR4/2 内: 黑2.5Y4/1
39-8	34	縄文土器	深鉢	実等文	M4~ M6	-	5層	-	-	-	実等、V字形の剖目	外: ナデ 内: ナデ	3m以下の中粒	外: 地震2.5VS/2 内: 黑2.5Y7/3
39-9	34	縄文土器	深鉢	実等文	M5	-	5層	-	-	-	実等、V字形の剖目	外: ナデ 内: ナデ	3m以下の中粒を含む	外: 地震2.5VS/2 内: 地震10YR5/2
39-10	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	実等、逆D字、V字形の剖目	外: ナデ 内: ナデ	2m以下の中粒	外: 地震2.5VS/2 内: 黑2.5Y6/1

井戸 番号	因縁 番号	種別	基準	併行型式 (判別)	gδ	造構	屢位	口径 (m)	最高 (cm)	選別 (cm)	特徴	調整	歴史	色調
39-11	34	縦文土器	深鉢	安藤文	M6	-	5層	-	-	-	安等、V字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-2m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YRS/2 内：灰SYB/1
39-12	34	縦文土器	深鉢	安藤文	M6	-	5層	-	-	-	安等、V字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-3m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YRS/2 内：灰SYB/1
39-13	34	縦文土器	深鉢	-	L6	-	5層	-	-	-	安等、V字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-2m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YRS/2 内：灰SYB/1
39-14	34	縦文土器	浅鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	外側削減のため平手、波状口縁となる	外：磨滅 内：新しい方舟	-2m以下の砂粒	外：浅緑2.5Y7/3 内：灰2.5Y6/2
39-15	34	縦文土器	浅鉢	安藤文	M6	-	5層	-	-	-	表面の為不明	外：三方キ 内：三方キ	-2m以下の砂粒	外：褐色10YRS/1 内：褐色N/1
39-16	34	縦文土器	浅鉢	-	M5	-	5層	-	-	-	表面の為不明	外：磨滅 内：磨滅	-3m以下の砂粒	外：明緑7.5YR5/6 内：灰白10YR7/1
39-17	34	縦文土器	浅鉢	安藤文	M6	-	5層	-	-	-	表面の為不明	外：三方キ+磨滅 内：磨滅	-3m以下の砂粒	外：灰2.5Y6/1 内：灰2.5Y7/4
39-18	34	縦文土器	浅鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	表面の為不明	外：三方キ 内：三方キ	-1m以下の砂粒を含む	外：褐色10YR4/1 内：灰2.5Y4/1
39-19	34	縦文土器	浅鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	外側削減の為不明	外：磨滅 内：三方キ	-2m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YR6/2 内：灰M/4
40-1	34	縦文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	二枚貝壳底、口縁削部V字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-4m以下の砂粒を含む	外：灰2.5Y7/2 内：灰2.5Y7/2
40-2	34	縦文土器	深鉢	安藤文	M6	-	5~6層	-	-	-	安等、短方向の押引、口縁削部短方向の押引	外：ナデ 内：ナデ	-2m以下の砂粒を含む	外：にいし黄褐色10YRS/3 内：にいし黄褐色10YRS/3
40-3	34	縦文土器	-	安藤文	M6	-	5~6層	-	-	-	安等文、口縁削部C字形の剖目、短方向の押引、V字形の剖目、安等、短方向に棒状工具を押引	外：ナデ 内：ナデ	-3m以下の砂粒を含む	外：灰黄褐色10YR4/2 内：灰黄褐色10YR4/2
40-4	34	縦文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	安等、D字形の剖目、V字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-3m以下の砂粒	外：黒N=1.5/ 内：黒N=1.5/
40-5	34	縦文土器	深鉢	安藤文	M6	-	5~6層	-	-	-	安等、D字形の剖目、口縁削部D字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-3m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YR4/2 内：黒N=1.5/
40-6	34	縦文土器	深鉢	安藤文	M4	-	5~6層	-	-	-	安等、斜めV字形の剖目、口縁削部V字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-3m以下の砂粒を含む	外：灰2.5Y4/1 内：灰白2.5YB/2
40-7	34	縦文土器	深鉢	安藤文	M6	-	5~6層	-	-	-	安等、口縁削部D字形剖目、V字形の剖目（棒の側面押しあてる）	外：ナデ 内：ナデ	-3m以下の砂粒	外：にいし黄褐色10YRS/3 内：灰SYB/6
40-8	34	縦文土器	深鉢	安藤文	M6	-	5~6層	-	-	-	安等、ごく浅いD字形、口縁削部D字形（押引）	外：ナデ 内：ナデ	-3m以下の砂粒	外：灰白10YR8/2 内：灰白2.5Y7/1
40-9	34	縦文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	安等、V字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-3m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YR4/2 内：灰NA/
40-10	34	縦文土器	深鉢	安藤文	M6	-	5~6層	-	-	-	安等、V字形の剖目、口縁削部V字形の剖目	外：ナデ 内：ナデ	-2m以下の砂粒	外：灰黄褐色10YR5/2 内：灰SYB/3/1

辨認番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	道様	層位	口径(cm)	最高(cm)	底径(cm)	特徴	測量	地土	色調
40-11	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、ヘラによる橢円形の刮目 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	2m以下の砂粒	外：灰黒褐10Y8/2 内：灰黒2.5Y7/2
40-12	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、D字形刮目 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	5m以下の砂粒を含む	外：灰黒2.5Y7/2 内：にぶい黄褐10Y8/4
40-13	34	縄文土器	深鉢	吳哥文	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、D字形刮目 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	2m以下の砂粒を含む	外：灰黒褐10Y8/2 内：灰黒2.5Y6/1
40-14	34	縄文土器	深鉢	吳哥文	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、斜め引削の刮目 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：灰黒2.5Y6/1 内：にぶい黄褐10Y8/2
40-15	34	縄文土器	深鉢	吳哥文	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、D字形刮目 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	2m以下の砂粒を含む	外：灰白2.5Y7/1 内：灰白2.5Y8/1
40-16	34	縄文土器	深鉢	吳哥文	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、V字形刮目 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒	外：灰白3Y7/1 内：灰黒2.5Y5/1
40-17	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、V字形刮目 内：ナデ 外：二枚貝 条痕	外：ナデ 内：ナデ	2m以下の砂粒	外：灰黒2.5Y4/1 内：灰黒2.5Y3/1
40-18	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、V字形刮目 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒	外：灰黒2.5Y6/2 内：灰3Y8/1
40-19	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、D字形の刮目 内：ナデ 外：二枚貝 条痕	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒を含む	外：灰白2.5Y7/1 内：灰黒2.5Y4/1
40-20	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤、D字形の刮目 内：ナデ 外：二枚貝 条痕	外：ナデ 内：ナデ	2m以下の砂粒を含む	外：灰黒2.5Y6/2 内：灰3Y2/1
40-21	34	縄文土器	深鉢	吳哥文	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤 - V字形の刮目 (二枚貝の可能性あり) 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒を含む	外：灰黒2.5Y3/1 内：灰黒2.5Y3/2
40-22	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	突堤 - V字形の刮目 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	2m以下の砂粒	外：灰黒褐2.5Y5/2 内：灰黒2.5Y4/1
40-23	35	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	- 内：三ガキ	外：三ガキ 内：三ガキ	2m以下の砂粒を含む	外：灰黒褐10Y8/1 内：灰7.5Y2/1
40-24	35	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	-	- 内：三ガキ	外：三ガキ 内：三ガキ	2m以下の砂粒を含む	外：灰黒褐10Y8/2 内：灰黒2.5Y4/1
40-25	35	縄文土器	浅鉢	吳哥文	M4	-	5~6層	-	-	-	- 内：三ガキ	外：三ガキ 内：三ガキ	1m以下の砂粒を含む	外：灰3Y4/1 内：灰3Y4/1
40-26	35	縄文土器	浅鉢	吳哥文	M6	-	5~6層	-	-	-	- 内：三ガキ	外：三ガキ 内：三ガキ	1m以下の砂粒を含む	外：灰黒2.5Y4/1 内：灰3Y4/1
40-27	35	縄文土器	浅鉢	吳哥文	L6	-	5~6層	-	-	-	- 内：三ガキ	外：三ガキ 内：三ガキ	1m以下の砂粒を含む	外：灰N2/ 内：灰N3/
40-28	35	縄文土器	浅鉢	吳哥文	M6	-	5~6層	-	-	-	- 内：三ガキ	外：三ガキ 内：三ガキ	2m以下の砂粒を含む	外：灰9Y2/1 内：灰3Y4/1
40-29	35	縄文土器	浅鉢	吳哥文	M4	-	5~6層	-	-	-	- 内：三ガキ	外：三ガキ 内：三ガキ	1m以下の砂粒を含む	外：灰7.5Y2/1 内：灰D12/1

井田番号	田版番号	種別	基盤	併行式(時給)	gd	道種	屢位	口径(cm)	鍛高(cm)	選率(cm)	特徴	調整	熟土	色調
40・30	35	穀文土器	浅鉢	安寄文	M4	-	5~6層	-	-	-	外面に炭化物付着	外: ナデ 内: ナデ	3mm以下の中粒を含む	外: 黄灰2.5Y4/1 内: 黄灰2.5Y5/1
40・31	35	穀文土器	浅鉢	安寄文	M6	-	5~6層	-	-	-	研磨	外: 三ガキ・ナデ 内: 三ガキ	2mm以下の中粒を含む	外: 深黄2.5Y7/2 内: 深黄2.5Y6/2
40・32	35	穀文土器	浅鉢	安寄文	M4	-	5~6層	-	-	-	外面素面無地、動物混入の可能性あり	外: 三ガキ 内: 粗い三ガキ	1mm以下の中粒を含む	外: オリーブ系3Y3/1 内: 黄灰2.5Y4/1
40・33	35	穀文土器	浅鉢	安寄文	M6	-	5~6層	-	-	-		外: 三ガキ 内: 三ガキ	1mm以下の中粒を含む	外: 黄灰2.5Y4/1 内: 黑2.5Y2/1
40・34	35	穀文土器	浅鉢	-	L6	-	5~6層	-	-	6.0	表面凹んでいる	外: 三ガキ・ナデ 内: 粗い三ガキ	3mm以下の中粒を含む	外: 深黄2.5Y7/2 内: 黄灰2.5Y5/1
40・35	35	穀文土器	浅鉢	-	M6	-	5~6層	-	-	7.6		外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の中粒を含む	外: にぶい黄褐10Y6/3 内: にぶい黄褐10Y7/4
47・1	35	穀文土器	深鉢	安寄文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	口縁端部、V字形の割目、安寄 D字形の割目	外: ナデ・二枚貝 内: ナデ	5mm以下の中粒	外: にぶい黄褐10Y6/3 内: にぶい黄褐10Y7/2
47・2	35	穀文土器	深鉢	安寄文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目突出、内面擦減していて調 整不明	外: - 内: -	肥、径1mm未溝の中粒を多 く含む	外: 暗灰黄2.5Y4/2 内: 黄灰2.5Y5/1
47・3	35	穀文土器	深鉢	安寄文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目突出	外: - 内: -	肥、1~4mmの大粒をわ ざかに含み、径1mm未溝の 中粒を多く含む	外: 黑N2/ 内: 黑N#1.5/
47・4	35	穀文土器	浅鉢	安寄文	L4	土器 たまり 1	6層	23.4	-	-		外: 三ガキ 内: 三ガキ	1mm以下の中粒を含む	外: 深黄褐10Y6/2 内: 暗2.5Y6/6
47・6	36	穀文土器	深鉢	安寄文	L5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目	外: 亂痕 内: 亂痕	0.1~4mmの粒子を含む	外: 黄3Y4/1 内: オリーブ系3Y3/1
47・7	36	穀文土器	浅鉢	-	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	表面残る、1条へラ北縫	外: - 内: 三ガキ	肥、径0.5mm以下の中粒を 多く含む	外: 黑2.5Y2/1 内: 黑2.5Y2/1
47・8	36	穀文土器	深鉢	安寄文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	口縁端部割目、割目安寄文	外: - 内: -	肥、径1mm以下の幼粒を 多く含む	外: 黑2.5Y7/1 内: 黑2.5Y2/1
47・9	36	穀文土器	深鉢	安寄文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目、割目安寄文	外: 卷貝条痕 内: 卷貝条痕	肥、径1mm以下の幼粒を 多く含む	外: にぶい黄褐10Y7/2 内: 暗灰10Y6/1
47・10	36	穀文土器	深鉢	安寄文	L5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	(口縁端部、口縁部) 割目、 (施文主体は二枚貝)	外: ナデ 内: ナデ	0.1~2mmの中粒を含む メのよのうな 調整	外: 黄2.5Y4/1 内: オリーブ系3Y3/1
47・11	36	穀文土器	深鉢	安寄文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	口縁端部割目、割目安寄文	外: 亂痕 内: 亂痕	肥、径0.5mm以下の中粒を 多く含む	外: 暗灰N4/ 内: オリーブ系3Y3/1
47・12	36	穀文土器	深鉢	安寄文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	口縁端部割目、割目安寄文	外: - 内: -	肥、径1mm以下の幼粒を 多く含む	外: にぶい黄褐10Y6/2 内: 暗灰10Y6/1
47・13	36	穀文土器	深鉢	安寄文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	口縁端部割目、割目安寄文。う しく複数ある、全体的に荒削して いる	外: - 内: -	肥、径1mm以下の幼粒を 多く含む	外: 黑2.5Y6/1 内: 黑N2/
47・14	36	穀文土器	深鉢	安寄文	L5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	口縁端部割目、割目安寄文	外: 卷貝条痕・ナ 内: 卷貝条痕	肥、径2mm以下の幼粒を 多く含む	外: にぶい黄褐10Y6/2 内: 暗灰2.5Y6/2

探査番号	回収番号	種別	基種	供用型式(時期)	gd	道種	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調査	歴土	色調
47- 15	36	縄文土器	深鉢	突等文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	初日突等文、内面削減していく 不明	外： 垂直 内： ナデカ	密、径1m未満の砂粒を多 く含む	外： 黒褐色2.5Y3/1 内： 深黒褐色10YR5/2
47- 16	36	縄文土器	深鉢	突等文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	初日突等文、二条突等	外： 三ガキ 内： 三ガキ	密、径1m以下の中粒を多 く含む	外： 黑褐色2.5Y6/2 内： 暗黒褐色2.5Y4/2
47- 17	36	縄文土器	深鉢	突等文	M4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	初日突等文、縁一部残る、全体 削減していくで調整不明	外： - 内： -	密、径2m以下の砂粒を多 く含む	外： 深黒褐色10YR4/2 内： にぶい黄褐色10YR3/3
47- 18	36	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	-	外： 三ガキ 内： 三ガキ	密、径1m以下の砂粒をわ ずかに含む	外： 黑褐色2.5Y2/1 内： 暗黒褐色2.5Y5/1
47- 19	36	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	深鉢残る、沈線	外： 粗い三ガキ 内： 三ガキ	やや粗、径0.5m以下の砂 粒を多く含む	外： 黑褐色2.5Y3/1 内： 黑褐色2.5Y2/1
47- 20	36	縄文土器	深鉢	-	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	-	外： 垂直 内： 卷貝巣痕	密、径1m以下の砂粒を多 く含む	外： 黑褐色2.5Y7/2 内： 黑褐色2.5Y5/1
47- 21	36	縄文土器	深鉢	-	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	沈線文、刺突文、内面削減して いくで調整不明	外： 三ガキ 内： -	密、径2m以下の砂粒を多 く含む	外： にぶい黄褐色2.5Y6/3 内： 黑褐色2.5Y4/1
47- 22	36	縄文土器	深鉢	突等文	M4	土器 だまり 1	6層	(26.6)	-	-	口縁部削り目、初日突等文、保 満く残る、内面削減していくで調 整不明	外： 垂直 内： -	密、径2~3mmの砂粒を若 干含み、径1m以下の砂 粒を多く含む	外： 明きリープ褐色2.5Y3/3 内： 暗黒褐色2.5Y5/2
48- 1	36	縄文土器	深鉢	突等文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部削り目、初日突等文、背 丸孔×3cm、全面削減していくで 調整不明	外： - 内： -	密、径1m以下の砂粒を多 く含む	外： 黑褐色2.5Y6/1 内： 黑褐色1.5/
48- 2	36	縄文土器	深鉢	突等文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部削り目、初日突等文、内 面削減していくで調整不明	外： 卷貝巣痕 内： -	密、径1m以下の砂粒を多 く含む	外： にぶい黄褐色10YR6/4 内： 深黒褐色10YR3/1
48- 3	36	縄文土器	深鉢	突等文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部削り目、初日突等文、保 満く残る、内面は削減していく で調整不明、保満く残る、内面は 削減していくで調整不明	外： 卷貝巣痕 内： -	密、径1m以下の砂粒を多 く含む	外： 黑褐色2.5Y6/2 内： 深黒褐色10YR5/2
48- 4	36	縄文土器	深鉢	突等文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部削り目、初日突等文、う すく削る、削減していくで調整 不明	外： - 内： -	密、径1m以下の砂粒を多 く含む	外： 深黒褐色10YR6/2 内： 深黒褐色10YR5/2
48- 5	36	縄文土器	深鉢	突等文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	地鉢残る、口縁部削り目、初日 突等文	外： 粗い三ガキ 内： ナデ・指標压 痕	やや粗、径2m以下の砂粒 を多く含む	外： 黑褐色2.5Y5/1 内： にぶい黄褐色10YR5/3
48- 6	36	縄文土器	深鉢	突等文	M4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	初日突等文、口縁部削り目、削 減していくで調整不明	外： - 内： -	密、径4m以下の砂粒を多 く含む	外： 黑褐色2.5Y8/1 内： 黑褐色2.5Y5/1
48- 7	36	縄文土器	深鉢	突等文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	初日突等文、口縁部削り目、削 減していくで調整不明、内面削減 する	外： - 内： -	密、径1m未満の砂粒を若 干含む	外： 黑褐色10YR2/1 内： 黑褐色1.5/
48- 8	36	縄文土器	深鉢	突等文	M4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	初日突等文、口縁部削り目、削 減していくで調整不明	外： - 内： -	やや粗、径1m以下の砂粒 を多く含む	外： 黑褐色10YR6/1 内： 黑褐色10YR3/1
48- 9	36	縄文土器	深鉢	突等文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	初日突等文、口縁部削り目、外 面削減する	外： - 内： -	密、径2m以下の砂粒を若 干含む	外： 黑褐色1.5/ 内： 暗黒褐色10YR4/1
48- 10	36	縄文土器	深鉢	突等文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	-	外： - 内： -	密、径1m以下の砂粒を多 く含む	外： 黑褐色2.5Y7/2 内： 暗黒褐色2.5Y5/2
48- 11	36	縄文土器	深鉢	突等文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部削り目、初日突等文	外： 粗い三ガキ 内： 粗い三ガキ	密、径2~3mmの砂粒をわ ずかに含み、径1m未満 の砂粒を多く含む	外： 黑褐色2.5Y6/2 内： 黑褐色2.5Y4/1

井戸 番号	井戸 番号	種別	基盤	併行式 (時給)	qd	造礁	層位	口径 (m)	最高 (m)	進深 (m)	特徴	調整	歴史	色調
48-12	36	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	剖面底部剖面、口縁部剖面	外：粗いミガキ 内：粗いミガキ	やや粗、径2m以下の砂粒を多く含む	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：暗黄2.5Y6/2
48-13	36	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部剖面、剖面底部剖面、外 面一部に残存する	外：ミガキカ 内：粗いミガキ	粗、径2m以下の砂粒を多く含む	外：暗黄褐10YR6/2 内：暗黄褐10YR5/2
48-14	36	磚文土器	深鉢	安奈文	C4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部剖面、剖面底部剖面、薄 壳	外：	他、径0.5m以下の砂粒を多く含む	外：暗黄褐10YR5/2 内：暗黄2.5Y6/2
48-15	36	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部剖面、剖面底部剖面、磨 滅していて調整不明	外：	他、径2~3m大的砂粒をわずかに含み、径1m以下の砂粒を多く含む	外：暗黄2.5Y7/2 内：黄2.5Y6/1
48-16	36	磚文土器	深鉢	安奈文	M4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部剖面、剖面底部剖面、外 面のこぶ	外：	やや粗、径1m以下の砂粒を多く含む	外：にじく黄褐10YR6/3 内：暗黄褐10YR4/2
48-17	36	磚文土器	深鉢	安奈文	M4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部剖面、剖面底部剖面、全 面磨滅していて調整不明	外：	やや粗、径2m以下の砂粒を多く含む	外：暗3Y6/5 内：暗黄褐10YR6/2
48-18	36	磚文土器	深鉢	安奈文		土器 だまり 1	6層	-	-	-	剖面底部剖面、口縁部剖面、全 面磨滅していて調整不明	外：	やや粗、径0.5m以下の砂粒を多く含む	外：にじく黄褐10YR6/4 内：にじく黄褐10YR6/4
48-19	36	磚文土器	深鉢	安奈文	L5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	磨滅している、口縁部剖面、剖 面底部剖面	外：	他、径1m以下の砂粒を多く含む	外：暗3Y6/6、灰白 2.5Y8/2 内：明白褐2.5Y5/5、灰 白2.5Y8/2
48-20	36	磚文土器	深鉢	安奈文	L5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部剖面、安奈文字	外：ナデ 内：ナデ	5mm以下の砂礫	外：にじく黄褐10YR6/3 内：にじく黄褐10YR6/4
48-21	36	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部剖面、剖面底部剖面、全 面磨滅していて調整不明	外：	他、径2~3m大的砂粒をわずかに含む(1m以下の砂粒を多く含む)	外：暗黄2.5Y7/2 内：暗黄2.5Y7/1
48-22	37	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	磨滅したため調整不明、剖面底部 剖面	外：	他、径1m以下の砂粒を若干含む	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：暗灰黄2.5Y5/2
48-23	37	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	磨滅跡のこぶ、磨滅していて 調整不明、剖面底部剖面	外：	他、径0.5m以下の砂粒を多く含む	外：暗黄2.5Y6/2 内：暗黄2.5Y7/2
48-24	37	磚文土器	深鉢	安奈文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	磨滅していて調整不明、剖面底部 剖面	外：	他、径0.5m以下の砂粒を若干含む	外：にじく黄褐10YR6/3 内：にじく黄褐10YR6/4
48-25	37	磚文土器	深鉢	安奈文	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	剖面底部剖面	外：	他、径1m未満の砂粒を若干含む	外：にじく黄褐10YR6/4 内：高10Y2/1
48-26	37	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	剖面	外：ミガキカ 内：ミガキカ	0.1m前後の砂粒を含む	外：暗オリーブ3Y4/2 内：オリーブ3.5Y3/1
48-27	37	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	(口縁部) 剖面	外：ナデカ 内：ナデカ	0.1~2mの砂粒を含む	外：暗黄2.5Y7/2 内：浅黄2.5Y7/3
48-28	37	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	(口縁部) 剖面	外：集塵・ナデ 内：ナデカ	長さ6mmの石片(?)を含む (片付)、0.1~1m前後の 砂粒を含む	外：暗オリーブ3Y5/3 内：暗オリーブ3.5Y5/2
48-29	37	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	(口縁部) 剖面	外：ナデカ 内：集塵	0.1~2mの砂粒を含む	外：暗黄2.5Y4/1 内：暗オリーブ3Y5/3
48-30	37	磚文土器	深鉢	安奈文	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	(口縁部) 剖面、一辺2~3mの 立方体の空隙あり(3カ所くら い)	外：ナデカ 内：ナデカ	0.1~2mの砂粒を含む	外：暗黄2.5Y6/2 内：高10Y7/2

神回 番号	回復 番号	種別	器種	供行式 (時期)	gd	道積	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	特徴	調整	地土	色調
48-31	37	縄文土器	深鉢	実帶文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目実帶文、全面堆塗	外： 内：	やや粗、径1mm溝の砂粒 を多く含む	外： 黒N+1.5/ 内： 暗灰黄2.5YS/2
48-32	37	縄文土器	深鉢	実帶文	-	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目実帶文	外： 内：	粗、径1mm溝の砂粒を多 く含む	外： 暗灰2.5Y4/1 内： 黒N/2
48-33	37	縄文土器	深鉢	実帶文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	縦横一部剥る。割目実帶文。磨 滅としていて調整不明	外： 内：	やや粗、径2mm溝の砂粒 を多く含む	外： 黑白2.5Y7/1 内： 暗灰2.5Y6/1
48-34	37	縄文土器	深鉢	実帶文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目実帶文	外： 内：	やや粗、径1mm溝の砂粒 を多く含む	外： 黑N+1.5/ 内： 暗灰黄2.5YS/2
48-35	37	縄文土器	深鉢	実帶文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目実帶文	外： 内：	粗、径1mm以下の砂粒を若 干含む	外： 黑N+1.5/ 内： 黑N+1.5/
48-36	37	縄文土器	深鉢	実帶文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	磨滅として調整不明	外： 内：	粗、径2mm以下の砂粒を若 干含む	外： 暗白3Y7/1 内： 黑3Y4/1
48-37	37	縄文土器	深鉢	実帶文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	(口縁部外側) 割目、粘土點 り付けかうかはよくわからな い	外： ナチュ 内：	0.1~3mmの砂粒を含む	外： オリ・ブ黒2.5Y3/1 内： 黃褐2.5YS/3
48-38	37	縄文土器	深鉢	実帶文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	全体的に磨滅している。割目実 帶文	外： 内：	粗、径0.5mm以下の砂粒を 多く含む	外： オリ・ブ黒2.5Y4/3 内： 黑白2.5Y4/1
48-39	37	縄文土器	深鉢	実帶文	L5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目実帶文、保残する	外： 内：	粗、径1mm以下の砂粒を多 く含む	外： 暗灰10YR6/1 内： 黑褐2.5Y7/2
48-40	37	縄文土器	深鉢	実帶文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	内面磨滅している。裏面不規、全 面削離する。二条実帶、口縁部削 利目、割目実帶文	外： 内：	やや粗、径1mm以下の砂粒 を多く含む	外： 黑Q/ 内： 暗灰2.5Y6/2
48-41	37	縄文土器	深鉢	実帶文	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	(口縁部) 二条の(突張) 割 目、自目より下千条痕、(面絞 目ナチュ)、外面磨めたれ不 明	外： (ナチュ) + 内：	0.1~3mmの砂粒を含む	外： オリ・ブ黒5Y6/3 内： 暗オリ・ブ5Y4/2
48-42	37	縄文土器	深鉢	実帶文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	割目実帶文、二条実帶、堆塗残 る	外： 内：	粗、径1mm以下の砂粒を多 く含む	外： 暗灰2.5Y6/2 内： 黑N+1.5/
48-43	37	縄文土器	深鉢	実帶文	M4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	磨滅してて調整不明。二条实 带、割目实带文	外： 内：	粗いミガキ やや粗、径1mm以下の砂粒 を多く含む	外： 黑褐2.5Y7/3 内： 暗灰黄2.5YS/2
48-44	37	縄文土器	深鉢	実帶文	M5	土器 たまり 1	6層	-	-	-	磨滅の為、調整不明。割目実帶 文	外： 内：	やや粗、径1mm以下の砂粒 を多く含む	外： にふい黄褐10YR6/3 内： 黑褐10YR4/2
48-45	37	縄文土器	深鉢	-	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	外： ナチュ 内： ナチュ	0.1~3mmの砂粒を含む	外： 暗黑2.5Y7/2、にふい 黄褐7.5Y7/4 内： 黑褐2.5Y4/1	
49-1	38	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器 たまり 1	6層	12.6	-	-	(口縁部外側) 割目、縫隙部分 も熱を受けて変色している。手 たたきの跡が一部残っている。 によりて付ける。毛羽状の 模様あり。黒による色剥離部分 オリ・ブ黒5Y3/1、色擦外側 黄 褐2.5YS/4~暗灰黄2.5Y4/2	外： (口縁部) 赤 内：	0.1mmの粒子をわずかに含 む	外： 暗3Y6/2、明暗灰 7.5Y8/2 内： 暗3Y6/2、明暗灰 7.5Y8/2
49-2	37	縄文土器	浅鉢	(底 もしく は 鉢)	L4	土器 たまり 1	6層	(18.0)	-	-	まもうしている(調整不明)、 内面墨赤	外： ミガキ 内： ミガキ	0.1mmの粒子をわずかに含 む	外： 暗3Y6/2、明暗灰 7.5Y8/2 内： 暗3Y6/2、明暗灰 7.5Y8/2
49-3	37	縄文土器	浅鉢	-	L4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	外： ミガキ 内： ミガキ	粗、径2mm溝の砂粒を多 く含む	外： 暗灰2.5Y5/2 内： 暗灰黄2.5YS/2	
49-4	37	縄文土器	浅鉢	-	M4	土器 たまり 1	6層	-	-	-	ていねいなミガキ	外： ミガキ 内： ミガキ	粗、径0.5mm以下の砂粒を 多く含む	外： 暗灰2.5Y7/1 内： 黑褐2.5Y6/1

井戸 番号	因縁 番号	種別	基様	併行式 両面	g'd	造様	単位	口径 (cm)	最高 (cm)	直径 (cm)	特徴	調整	歯土	色調	
49- 5	37	縄文土器	浅鉢	-	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	全面磨滅としていて調整不明	外： 内：	肥、径0.5mm未満の砂粒を 多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：灰L-黄褐10YR7/3	
49- 6	37	縄文土器	浅鉢	-	L5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	縁部平ら	外： 内：	ミガキ 肥、径0.5mm未満の砂粒を 多く含む	外：灰E2.5Y4/1 内：灰Z.5Y7/2	
49- 7	37	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	-	外： 内：	ミガキ 肥、径0.5mm未満の砂粒を 多く含む	外：灰Z.SY2/1 内：灰Z.SY4/1	
49- 8	37	縄文土器	浅鉢	-	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	-	外： 内：	ミガキ 肥、径0.5mm未満の砂粒を 多く含む	外：灰SY2/1 内：灰SY2/1	
49- 11	37	縄文土器	深鉢	-	L4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部斜面(腰帯竹型)、内 面磨滅のため調整不明	外： 内：	秦痕のチナデ 肥、径5mm以下のお粒を多 く含む	外：灰L-黄褐10YR6/3 内：灰Z.5Y7/1	
49- 12	37	縄文土器	深鉢	-	L5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	口縁部斜面(腰帯竹型)、内 面磨滅のため調整不明	外： 内：	4mm以下の砂粒を含む	外：灰白10YR6/1 内：細灰10YR6/1	
49- 13	38	縄文土器	深鉢	-	M5	土器 だまり 1	6層	-	-	-	炭化物が土器の表面に付着、ど んぐりの炭化物	外： 内：	秦痕 0.1~2mmの粒子を含む	外：灰L-褐SY6/4、灰 SY6/2 内：灰SY1/1、灰N2/1	
49- 14	37	縄文土器	(浅 鉢、 盆、 硯)	-	M4	土器 だまり 3	6層	-	-	-	赤鉄、(幅約3mm長さ5cm) 外面 炭化物7のつまみた孔あり	外： 内：	ヨコ方向のミ ガキ(下平で一部カタチの ミガキ)	外：灰L-褐SY6/4、 明灰褐2.5YR6/6は よく残っていること か) 5mm未満の粒子をこくわ ずかに含むきめ細かい	内：灰Z.5Y7/2、灰 SY5/1
49- 15	37	縄文土器	浅鉢	安藤文	-	土器 だまり 1	6層	-	-	-	-	外： 内：	ミガキ・ケズ リ	5mm以下の砂粒を含む	外：細灰黄2.5Y5/2 内：灰Z.5Y4/1
49- 16	37	縄文土器	浅鉢	-	M4	土器 だまり 1	6層	-	-	-	-	外： 内：	ナデ ナデ・秦痕	肥、径1mm以下の砂粒を多 く含む	外：灰Z.5Y7/2 内：灰Z.5Y8/2
51- 1	39	縄文土器	-	-	L6	-	6層	-	-	-	口縁部上面斜面の字の前目、外 面口縁下に波線文	外： 内：	ナデ ナデ、巻貝文 秦のチナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：灰黄褐10YR5/2 内：灰黄褐10YR5/2
51- 2	39	縄文土器	深鉢	-	L7	-	6層	-	-	-	秦の先端押引け? 磨滅してはっ きりしない	外： 内：	ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：灰L-褐SY6/4 内：灰SY4/1
51- 3	39	縄文土器	深鉢	-	L6	-	6層	-	-	-	口縁部上面DのV字形の前目	外： 内：	ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：灰黄褐10YR5/2 内：灰Z.5Y6/1
51- 4	39	縄文土器	深鉢	-	L7	-	6層	-	-	-	口縁部上面に刻文実。つまり 化している。種類状況が違う のか?	外： 内：	秦痕 秦痕	0.1~3mmの粒子を含む	外：灰D.5Y7/1、灰 SY4/1 内：灰Z.5Y7/1、灰-SY 5/7/4
51- 5	39	縄文土器	深鉢	安藤文	L5	-	6層	-	-	-	口縁部上面にD字形前目、安藤 文にV字形の前目	外： 内：	ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：細灰10YR6/1 内：灰黄褐10YR4/2
51- 6	39	縄文土器	深鉢	安藤文	L5	-	6層	-	-	-	種種丸あり、内外両面から穿 孔、口縁部上面と安藤文に字 の前目。	外： 内：	ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：灰黄褐10YR5/2 内：細灰10YR5/1
51- 7	39	縄文土器	深鉢	安藤文	L5	-	6層	-	-	-	口縁部上面に不整用の工具よ る刻実、安藤文に斜めのV字 形? の前目	外： 内：	ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：灰Z.5Y6/2 内：灰N1.5/
51- 8	39	縄文土器	深鉢	安藤文	M4	-	6層	-	-	-	口縁部上面、安藤文に刻実、 内面磨滅していて調整不明	外： 内：	秦痕 調整不明	肥、径3mm以下の砂粒を かに含み、径1mm未満の砂 粒多く含む	外：浅調10YR8/3 内：灰L-褐10YR7/2
51- 9	39	縄文土器	深鉢	安藤文	L5	-	6層	-	-	-	安藤文に字形の前目	外： 内：	ナデ ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：灰Z.5Y7/2 内：灰N1.5/3/1

件名 番号	図版 番号	種別	器種	併用式 (時期)	gd	道様	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	特徴	測量	地土	色調
51-10	39	縄文土器	深鉢	-	L6	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ、ミガキ	2m以下の砂粒を含む	外：に赤い黄緑10YR4/3 内：黒N1.5/	
51-11	39	縄文土器	浅鉢	奥葉文	M4	-	6層	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	3m以下の砂粒を含む	外：オリーブ黒3Y3/1 内：暗黒黄5Y5/2	
51-12	39	縄文土器	深鉢	奥葉文	M5	-	6層	-	-	-	内に縦横部に竹管によるC字形の 刺目、奥葉文に複C字形の刺目	2m以下の砂粒を含む	外：に赤い黄緑7.5YR3/3 内：に赤い黄緑10YR7/3	
51-13	39	縄文土器	深鉢	奥葉文	M6	-	6層	30.6	-	34.6	口縁側部に面上に留める字形の 押引、上の突起部は次回（剥 皮）、中の突起部は竹管による 押引、安葉文（網印）	3m以下の砂粒を含む	外：に赤い黄緑10YR7/2 内：に赤い黄緑10YR7/2	
51-14	39	縄文土器	深鉢	奥葉文	M5	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒を含む	外：に赤い黄緑10YR7/2 内：に赤い黄緑10YR7/2	
51-15	39	縄文土器	深鉢	奥葉文	M5	-	6層	-	-	-	外口縁側部の安葉文に刺目、 （口縁部）（駆付突堤）刺目、 孔あり	（唐貝カ）素 面 内：（唐貝カ）素 面	△5mm灰白粘土を含む、少 く～3mmの砂粒を含む	外：灰黒2.5Y7/2 内：灰オリーブ5M6/2
51-16	39	縄文土器	深鉢	奥葉文	L5	-	6層	-	-	-	外：二枚貝条痕、 ナデ	3m以下の砂粒を含む	外：埋5Y7/6 内：灰黒2.5Y7/2	
51-17	39	縄文土器	深鉢	奥葉文	L5	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒を含む	外：灰黒2.5Y7/2 内：灰2.5Y4/1	
51-18	39	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	6層	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	2m以下の砂粒を含む	外：黒3Y2/1 内：黒3Y2/1	
51-19	39	縄文土器	浅鉢	-	L4	-	6層	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	3m以下の砂粒を含む	外：灰黒2.5Y6/2 内：灰黒2.5Y6/2	
52-1	40	縄文土器	深鉢	-	M6	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	2m以下の砂粒を含む	外：灰黒2.5Y3/2 内：灰黒2.5Y6/2	
52-2	40	縄文土器	深鉢	-	M6	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	6m以下の砂粒を含む	外：埋2.5YR6/6 内：埋2.5Y2/1	
52-3	40	縄文土器	深鉢	-	M5	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	5m以下の砂粒を含む	外：灰黒10YR6/2 内：に赤い黄緑10YR7/2	
52-4	40	縄文土器	深鉢	奥葉文	M6	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	5m以下の砂粒を含む	外：灰黒10YR5/2 内：灰黒10YR6/2	
52-5	40	縄文土器	深鉢	奥葉文	M5	-	6層	-	-	-	内に縦横部にC字形の刺目、奥葉 文にD字形の刺目、内面にナメ工 具痕あり	ナデ、工具痕 あり 内：ナデ	3m以下の砂粒を含む	外：灰黒10YR4/2 内：黒N1.5/
52-6	40	縄文土器	深鉢	奥葉文	M6	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	4m以下の砂粒を含む	外：に赤い黄緑10YR7/2 内：埋10YR4/1	
52-7	40	縄文土器	深鉢	奥葉文	L5	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒を含む	外：灰黒2.5Y6/2 内：灰黒2.5Y7/2	
52-8	40	縄文土器	深鉢	奥葉文	M6	-	5層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	3m以下の砂粒を含む	外：に赤い黄緑10YR5/3 内：に赤い黄緑10YR7/3	
52-9	40	縄文土器	深鉢	奥葉文	M6	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	2m以下の砂粒を含む	外：黒N1.5/2 内：灰黒2.5Y6/2	

辨認番号	因縁番号	種別	種類	併行型式(判別)	gf	造構	層位	口径(cm)	最高(cm)	最低(cm)	特徴	調査	歴史	色調
S2-10	40	縄文土器	深鉢	安等文	M5	-	6層	-	-	-	口縁部前面に削目、安等文に刻目、全体底のこじる、系縄(周体不規)ナデ、貝貝底は放射肋のない二枚貝カ	外: 巻貝系縄カ 内: 素面ナデ	肥、径1cm以下の中粒多く含む	外: 黒灰10YR4/1 内: 黑褐10VR3/1
S2-11	40	縄文土器	深鉢	安等文	L6	-	6層	-	-	-	口縁部上面にV字形の削目、安等文にV字形の刻目	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を多く含む	外: 黑褐10YR3/1 内: 黑褐10Y2/1
S2-12	40	縄文土器	深鉢	安等文	L6	-	6層	-	-	-	口縁部上面にやや不整形のV字形の削目、安等文にV字形の刻目	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を多く含む	外: 黑灰2.5Y6/1 内: 黑褐10YR4/1
S2-13	40	縄文土器	深鉢	安等文	L5	-	6層	-	-	-	口縁部上面にへらによる削目、D字形カ、安等文にV字形の刻目	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を多く含む	外: 黑7.5YR4/3 内: 黑褐10YR2/2
S2-14	40	縄文土器	深鉢	安等文	M6	-	6層	-	-	-	安等文に角棒状の工具による斜めの刻痕	外: ナデ 内: ナデ	4mm以下の砂粒を含む	外: にじく黒褐10YR6/3 内: 云黄褐10YR5/2
S2-15	40	縄文土器	深鉢	安等文	L6	-	6層	-	-	-	安等文に丸い棒の表面を押し当てる	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 云黄2.5Y6/2 内: 雨灰N3/
S2-16	40	縄文土器	深鉢	安等文	M6	-	6層	-	-	-	安等文にD字形の削目	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: にじく黒褐10YR2/3 内: 黑2.5G2/1
S2-17	40	縄文土器	深鉢	安等文	M5	-	6層	-	-	-	安等文に刻目、非底は放射肋のない二枚貝カ、磨滅して質感不明	外: ナデ 内: ナデ	肥、径1cm以下の砂粒を含む	外: 黑白2.5Y7/1 内: 黑2.5Y6/1
S2-18	40	縄文土器	深鉢	安等文	M5	-	6層	-	-	-	口縁部上面面取り出しているか、安等文に刻目、明瞭でないD字形の削目カ	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑褐10YR3/1 内: 黑褐10YR4/1
S2-19	40	縄文土器	深鉢	安等文	L6	-	6層	-	-	-	安等文にV字形の削目	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑灰2.5Y5/1 内: 黑7.5Y2/1
S2-20	40	縄文土器	深鉢	安等文	L6	-	6層	-	-	-	安等文にV字形の削目	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑7.5YR4/3 内: にじく黒7.5YR6/4
S2-21	40	縄文土器	深鉢	安等文	M5	-	6層	-	-	-	口縁部、底部の安等文あり、共にV字形の削目、二重垂幕	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑N2/ 内: 黑2.5Y2/1
S2-22	40	縄文土器	深鉢	安等文	M6	-	6層	-	-	-	口縁部、底部の安等文あり、共に丸い棒表面を押し付ける削目	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑褐10YR5/1 内: 黑2.5YR5/1
S2-23	40	縄文土器	深鉢	安等文	M6	-	6層	-	-	-	口縁部、底部に安等文あり、共にV字形の削目	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑褐10YR4/1 内: 黑褐10YR5/1
S2-24	40	縄文土器	深鉢	安等文	M6	-	6層	-	-	-	口縁部、底部に安等文あり(二重垂幕)、共にD、V字形の削目あり、V字多く、放物性付着	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑褐2.5Y3/1 内: 云黄褐10YR4/2
S2-25	40	縄文土器	深鉢	安等文	L6	-	6層	-	-	-	安等文にD字形の削目あり	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑褐10YR3/1 内: 云黄褐10YR6/2
S2-26	40	縄文土器	深鉢	安等文	M5	-	6層	-	-	-	安等文にV字形の削目あり	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 云黄褐10YR4/2 内: 黑N1/5
S2-27	40	縄文土器	深鉢	安等文	M5	-	6層	-	-	-	安等文にV字形の削目あり、棒の表面を押圧カ	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 黑N2/ 内: 云黄2.5Y6/2
S2-28	40	縄文土器	深鉢	安等文	M5	-	6層	-	-	-	安等文に刻目あり。V字形カ	外: ナデ 内: ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外: 云黄褐10YR4/2 内: にじく黒褐10YR6/3

地図番号	図版番号	種別	岩種	併行式(周期)	gd	道構	層位	口径(cm)	基高(cm)	底高(cm)	特徴	調査	地土	色調
53-1	41	縦文土器	透鉢カ	-	L6	-	6層	182	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	2m以下の砂粒を含む	外：灰黒2SY7/2 内：灰黒2SY7/3	
53-2	41	縦文土器	透鉢	-	L6	-	6層	208	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	1m以下の砂粒を含む	外：灰黒2SY4/1 内：灰黒2SY6/2	
53-3	41	縦文土器	透鉢	-	L5	-	6層	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	1m以下の砂粒を含む	外：灰黒2SY5/2 内：灰黒2SY4/1	
53-4	41	縦文土器	透鉢	-	L6	-	6層	-	-	-	外：ナデ 内：ナデ	1m以下の砂粒を含む	外：にじいろ7SY6/4 内：灰黒2SY7/2	
53-5	41	縦文土器	透鉢	奥葉文	M6	-	6層	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	1m以下の砂粒を含む	外：灰黒2SY3/1 内：灰7SY2/1	
53-6	41	縦文土器	透鉢	-	H5	-	6層	-	-	外面に一条の沈線文	外：ミガキ 内：丁寧なナデ、ミガキ	砂、径1m以下の砂粒多く含む	外：灰黒2SY6/2 内：オリ・ブ蘭SY3/1	
53-7	41	縦文土器	透鉢	-	M6	-	6層	-	-	外口縁に一条の沈線文	外：ミガキ 内：ミガキ	砂、径1m未満の砂粒多く含む	外：灰7SY2/1 内：灰7SY2/1	
53-8	38-41	縦文土器	-	-	M6	-	6層	(120)	-	-	縦文土器、裏面に黒色もしくは赤褐色葉文焼成料(?)と並んでち密部分に凹凸があり、ケズリのち密いミガキもしくはナデ	外：-	外：灰3RS8、黒褐10YR3/1	
56-1	42	縦文土器	深鉢	奥葉文	N6	P41	7層	-	-	-	外面、口縁部、側面に凹みのある突起付ける、外面探付着二重突起	ナデ、二枚貝による系帯 内：二枚貝による系帯	粗、2m以下の母岩、4m以下の砂粒を多量に含む 内：4m以下の石英、長石を含む	外：灰4R9/5、黒褐10YR4/1
56-2	42	縦文土器	透鉢	-	N6	P40	6層	-	-	-	側部「く」の字形に屈曲し、屈曲部の外側に凹溝を残す。外面探付着をしていて調整よく分かれている。	外：ミガキ 内：ミガキ	やや粗。(1.5m以下の石英、3m以下の長石、砂粒を多量に含む)	外：灰黒褐10YR5/2 内：灰黒褐10YR5/2
56-3	42	縦文土器	深鉢	-	M6	P42	7層	-	-	-	口縁外唇に押引状の剥離文を残す。外面探付着	外：ナデ 内：ナデ	粗。(1m以下の黄母岩(金・黒)、石英、長石、4m以下の砂粒を多く含む)	外：にじいろ7SY6/3 内：灰黒褐10YR6/2
56-4	42	縦文土器	透鉢	-	M5	P59	7層	-	-	-	波状口縁。外面探付着	外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ	粗。(1m以下の石英、長石、砂粒を含む)	外：灰2SY2/1 内：灰黒2SY3/1
56-5	41	縦文土器	深鉢	-	-	P59	7層	(286)	(22.0)	(5.5)	内外面に部分的に施直線。口縫側部剥離	外：二枚貝直線 内：	やや粗。5cm以下の砂粒を多く含む	外：灰3SY7/2 内：灰黒2SY7/2
59-1	43	縦文土器	深鉢	-	L6	土器たまり4	-	-	-	-	口縫側部に2枚貝による凹み	外：ナデ 内：ナデ	やや粗。3m以下の母岩、4m以下の石英、長石を多量に含む	外：にじいろ7SY6/3 内：灰黒2SY6/2
59-2	43	縦文土器	深鉢	-	L6	土器たまり4	-	-	-	-	口縫側部に凹み、内外面ともスス付着	外：ナデ 内：ナデ	やや粗。1m未満の石英、1.5m以下の母岩、2m以下砂粒を多く含む	外：灰黒褐10YR3/1 内：灰黒褐10YR3/1
59-3	43	縦文土器	深鉢	-	L6	土器たまり4	-	-	-	-	口縫内唇に刻文。外面探付着	外：ナデ 内：ナデ	粗。1m以下石英、石英、2m以下長石、3m以下砂粒を多く含む	外：灰黒褐10YR5/2 内：にじいろ7SY6/4
59-4	43	縦文土器	深鉢	-	L6	土器たまり4	-	-	-	-	内外面削減のため、調整不良(ナデ)	外：ナデ 内：ナデ	粗。1m以下石英、石英、1.5m以下の母岩、5m以下砂粒を多く含む	外：灰黒褐10YR3/2 内：灰黒褐10YR5/2
59-5	43	縦文土器	透鉢	-	L6	土器たまり4	-	-	-	-	透凹口縁。口縫側部に凹み、口縫に三線	外：ミガキ 内：ミガキ	砂、1.5m以下の石英、長石、砂粒を多く含む	外：灰黒褐10YR3/2 内：灰黒褐10YR2/1
59-6	43	縦文土器	透鉢	-	L6	土器たまり4	-	-	-	-	屈曲部にケズリ	外：ミガキ、ケズリ 内：ミガキ	砂、2m以下の石英、長石、砂粒を多く含む、0.5m以下の母岩を少し含む	外：灰黒2SY6/2 内：オリ・ブ蘭SY6/2

井田 番号	田版 番号	種別	基種	併行型式 (時期)	gd	道様	屢位	口径 (m)	縦高 (cm)	選択 (m)	特徴	調整	熟土	色調
59・7	43	縄文土器	浅鉢	—	L6	土器 だまり 4	—	—	—	—	波状口縁、口縁部間にリボン状 突起	外：三万キ 内：三万キ	やや堅、1m以下の石基、 板石、砂粒を多く含む	外：褐SYR4/3～黒褐 7.5YR3/1 内：灰黄褐10YR5/2～黑 7.5YR3/1
59・8	42	縄文土器	浅鉢	—	L6	土器 だまり 4	—	—	—	—	外面保付着	外：蟲痕 内：ナデ	やや堅、2m以下の石基、 長石、3mm以下の砂粒を多 く含む	外：灰黄褐10YR3/2 内：灰黄褐10YR4/2
61・1	43	縄文土器	深鉢	縦原式カ	M5	—	7層	—	—	—	外面、斜行する波線文、縁不明	外：ナデ、集塵 内：ナデ	5mm以下の砂粒を多く含む	外：灰黄褐10YR6/2 内：灰黄褐10YR6/2
61・2	43	縄文土器	深鉢	縦原式カ	M6	—	7層	—	—	—	口縁部間に剝目（竹管による跡 印）	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：褐SYR6/8 内：褐7.5YR6/6
61・3	43	縄文土器	深鉢	縦原式カ	L6	—	7層	—	—	—	口縁部斜めO字剥目	外：ナデ 内：ナデ	4mm以下の砂粒を含む	外：灰黄褐10YR6/2 内：褐SYR6/6
61・4	43	縄文土器	深鉢	—	M5	—	7層	—	—	—	—	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：灰黄褐10YR5/2 内：灰黄褐10YR5/2
61・5	43	縄文土器	深鉢	—	L5	—	7層	—	—	—	—	外：二枚貝集塵 内：二枚貝 集塵	4mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黒度10YR6/3 内：灰黄褐10YR4/2
61・6	43	縄文土器	深鉢	—	L5	—	7層	—	—	—	—	外：二枚貝集塵 内：二枚貝 集塵	4mm以下の砂粒を含む	外：黒褐10YR3/1 内：灰黄褐10YR4/2
61・7	42	縄文土器	深鉢	安寄文	L5	—	7層	—	—	—	口縁部D字形剥目、安寄O字 形剥目	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：黒2.5Y6/1 内：透青2.5Y7/4
61・8	42	縄文土器	深鉢	安寄文	M4	—	7層	—	—	—	安寄D字形剥目、口縁部D字 形剥目	外：ナデ、集塵 内：ナデ	4mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黒度10YR6/4 内：褐灰10H4/1
62・1	44	縄文土器	—	安寄文	—	—	7層	—	—	—	口縁部にD字形剥目 安寄IV 字形剥目	外：ナデ、巻貝集 塵 内：ナデ、巻貝集 塵	4mm以下の砂粒を含む	外：灰黄褐10YR5/2 内：にぶい黒度10H7/2
62・2	44	縄文土器	深鉢	安寄文	L6	—	7層	—	—	—	安寄にO字形の剥目、口縁部 にD字形、棒の侧面押し付け	外：ナデ、二枚貝 内：ナデ	4mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黒度2.5Y6/3 内：にぶい褐SYR6/4
62・3	44	縄文土器	深鉢	安寄文	L5	—	7層	—	—	—	口縁部D字形剥目、安寄VI 字形剥目。台形上向き	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：黒度2.5Y5/1 内：褐SYS/1
62・4	44	縄文土器	深鉢	安寄文	L4	—	7層	—	—	—	口縁部V字形剥目、安寄IV 字形剥目	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：黒褐2.5Y3/2 内：褐灰2.5Y5/2
62・5	44	縄文土器	深鉢	安寄文	L4	—	7層	—	—	—	口縁部V字形剥目、安寄文IV 字形剥目	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黒度10YR7/2 内：灰黄2.5Y7/2
62・6	44	縄文土器	深鉢	安寄文	M4	—	7層	—	—	—	口縁部V字形剥目、安寄文IV 字形剥目	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：黒褐10YR3/1 内：黒褐10YR3/2
62・7	44	縄文土器	深鉢	安寄文	L4	—	7層	—	—	—	口縁部V字形剥目、安寄文IV 字形剥目	外：ナデ 内：ナデ	4mm以下の砂粒を含む	外：褐灰2.5Y5/2 内：オリーブ黒3.5Y3/1
62・8	44	縄文土器	深鉢	安寄文	L5	—	7層	—	—	—	二条文等、口縁部時側面剥目 (時側面による押出)	外：ナデ 内：ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黒度10YR7/3 内：にぶい黒度10YR7/2
62・9	44	縄文土器	深鉢	安寄文	L6	—	7層	—	—	—	安寄文 二爻狀工具、二枚貝 集塵	外：ナデ、二枚貝 内：ナデ、二枚貝 集塵	2mm以下の砂粒を含む	外：褐2.5Y7/2 内：灰黄2.5Y7/2

辨認番号	回収番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	道模	層位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	特徴	調整	地土	色調
62-10	44	縄文土器	深鉢	実等文	L4	-	7層	-	-	-	実等文、D字形切目	外：ナデ 内：ナデ	2m以下砂粒を含む 外：褐色	褐色10YR4/1
62-11	44	縄文土器	深鉢	実等文	M5	-	7層	-	-	-	実等文、V字形切目	外：ナデ 内：ナデ	3m以下砂粒を含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR6/3
62-12	44	縄文土器	浅鉢	-	L4	-	7層	-	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	1m以下砂粒を含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR7/1
62-13	44	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	外面の口縁下沈線文	外：ミガキ 内：ナデ	1m以下砂粒を含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR6/2
62-14	44	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	7層	-	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	3m以下砂粒を含む 外：褐色	2SY7/2
62-15	44	縄文土器	浅鉢	-	L5	-	7層	-	-	-	外面の口縁下沈線文	外：ナデ 内：ナデ	2m以下砂粒を含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR3/1
62-16	44	縄文土器	浅鉢	実等文	L4	-	7層	-	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	3m以下砂粒を含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR7/2
62-17	44	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	沈線のち三方半	外：ミガキ 内：ミガキ	1m以下砂粒を含む 外：褐色	10YR4/1
62-18	44	縄文土器	浅鉢	羅原式	L5	-	7層	-	-	-	-	外：秦體・ミガキ 内：ミガキ	2.1m前後の砂粒を少し含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR6/3
62-19	44	縄文土器	浅鉢	-	L5	-	7層	-	-	-	-	外：無いミガキ 内：無いミガキ	2m以下砂粒を含む 外：褐色	10YR5/1
62-20	44	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	7層	-	-	-	補修孔あり、波状部に二つの切目、外面沈線文、物せり口縁	外：ミガキ 内：ミガキ	2m以下砂粒を含む 外：褐色	10YR2/1
62-21	44	縄文土器	浅鉢	実等文	L4	-	7層	-	-	-	-	外：ミガキ 内：ミガキ	3m以下砂粒を含む 外：褐色	10YR5/2
62-22	44	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	7層	-	-	6.3	-	外：ナデ 内：ミガキ	5m以下砂粒を含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR7/2
62-23	44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	7層	-	-	8.4	-	外：ナデ 内：ナデ	2m以下砂粒を含む 外：褐色	2SY7/3
62-24	44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	7層	-	-	5.3	底部は先形で残る	外：ナデ 内：ミガキ・ミガキ	4m以下砂粒を含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR7/2
62-25	44	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	簡減していて調整不明	外：不明・ミガキ 内：不明・ミガキ	僅、僅1m以下砂粒若干 外：褐色	2SY7/2
63-1	45	縄文土器	深鉢	-	L5	-	7層	-	-	-	口縁端部上面に切目、焼痕残る	外：ミガキ・ナデ 内：二枚貝条痕	僅、僅1m以下砂粒若干 外：褐色	2SY6/2
63-2	45	縄文土器	浅鉢	-	L5, M5	-	7層	(9.2)	-	-	外面口縁沿い部上に沈線文、内面使用痕、一条の沈線	外：無いミガキ 内：丁寧なミガキ	僅、僅1m以下砂粒若干 外：褐色	2SY7/3
63-3	45	縄文土器	深鉢	-	M5	-	7層	(44.8)	-	-	-	外：	やや粗、僅2m以下砂粒多く含む 外：褐色	にふい・黄緑10YR4/3
												内：	にふい・黄緑10YR7/2	

種図 番号	図版 番号	種別	基種	併行型式 (周縁)	gδ	造様	屢位	口径 (cm)	最高 (cm)	進深 (cm)	特徴	調整	歯土	色調
63・4	45	縦文土器	深鉢	-	N6	-	7層	-	-	-	口縁部に一条の割目等、刻 美突等文、(口縁部) 刻目	外：ナデ 内：ナデ	0.2mm～2mmの砂粒(灰 色)を含む。0.2mmの墨 色物質を含む。	外：暗灰黄2.5YR4/2～灰 色666/2 内：深灰2.5Y7/3～灰黄 2.5Y6/2
63・5	-	縦文土器	深鉢	-	L4	-	7層	(15.2)	10.4	-	外：基底 内：ナデ	底。(2mm以下の漂母、石 英、Am以下の砂粒 を多量に含む)	外：灰黄褐色10YR5/2～灰 色666/2 内：浅灰2.5Y7/3～灰黄 2.5Y6/2	
63・6	45	縦文土器	浅鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	外：三方手 内：三方手	底、径1mm以下の砂粒多く 含む	外：灰黄2.5Y6/2 内：灰2.5Y7/1	
63・7	45	縦文土器	浅鉢	-	N5	-	7層	28.2	15.4	(5.6)	外：三方手、二枚 基底 内：正方手	0.1mm未満の赤褐色粘子を 少し含む。0.1mm未満の砂 粒を多く含む	外：深灰2/2 内：灰黄2.5Y4/1	
68・1	46	縦文土器	深鉢カ (原式 新固相)	N5	土器 だまり 2	-	7層	-	-	-	河谷堆积、粘土堆积、口縁部 外周に一部浮游、普具系等文、 口縁部内部に二枚貝系文	外：ナデ 内：ナデ	0.1mm未満の赤褐色粘子を 少し含む。0.1mm未満の砂 粒を多く含む	外：灰白3Y8/2 内：灰白3Y8/2
68・2	46	縦文土器	深鉢	(原式 新固相)	(N5)	土器 だまり 2	7層	-	-	-	口縁部剖面(刻突文)	外：普具系文 内：ナデカ	0.1mm未満の赤褐色粘子を 少し含む。0.1mm未満の砂 粒を少し含む。0.5mm以下 の黒光りする物質を含む (石英等)	外：灰3Y4/1 内：オリーブ灰5Y5/3
68・3	46	縦文土器	深鉢カ	-	N6	土器 だまり 2	7層	-	-	-	口縁部剖面(刻突文)、 黄斑あり	外：二枚貝系文 内：ナデカ	0.1～1mmの黒色物質を 含む。0.1～1mmの砂粒 を含む。0.1mm未満の 粘子を含む。0.1mm未 満の砂粒を含む	外：深灰2.5Y8/2 内：灰黄2.5Y7/2
68・4	46	縦文土器	深鉢	-	N6	土器 だまり 2	7層	-	-	-	黑化のため調整不明(わかりに くい)、有機物の腐蝕とあり	外：(基底) 内：(基底)	0.1～2mmの赤褐色物質を 含む。0.1～3mmの砂粒を含 む	外：灰黄褐色10YR5/2 内：ぶくし黄褐色10YR5/3
68・5	46	縦文土器	浅鉢	-	N6・ NS	土器 だまり 2	7層	(24.2)	-	-	方形洗浄、流状口縁、全体に入 ス付器	外：三方手、ケズ リ	0.1mm未満の青色、石 英、長石、1mm以下の砂粒 を多く含む	外：暗灰黄2.5Y5/2～灰 色666/2 内：灰黄褐色10YR5/2～ 10YR2/1
68・6	46	縦文土器	深鉢	-	N6	土器 だまり 2	7層	(30.0)	-	-	黒化してて調整わかりにくい	外：異端系文 内：異端系文	底、径2～4mmの砂粒を わずかに含み、径1mm以下 の砂粒を多く含む	外：ぶくし黄褐色10YR2/3 内：ぶくし黄褐色10YR2/2
68・7	46	縦文土器	深鉢	-	NS・ N6	土器 だまり 2	7層	-	-	-	口縁部に刻目、瓶外部に入 ス付器	外：(基底) 内：ナデ	0.2mm以下の漂母、石 英、長石、4mm以下の砂粒 を多量に含む	外：深灰 内：ナデ
69・1	47	縦文土器	深鉢	-	N7	土器 だまり 2	7層	(26.8)	-	-	瓶部(肩部)外周に刻突文、口 縁部内部に基斑	外：ナデ・基底 内：ナデ	0.2mm以下の漂母、 石英、長石、5mm以下 の砂粒を多量に含む	外：灰黄2.5Y7/2～灰 色666/3 内：深灰2.5Y8/2
69・2	47	縦文土器	深鉢	-	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	-	外：基底 内：ナデ・三方手	底、(1mm以下の漂母、石 英、長石、2mm以下の砂粒 を多く含む)	外：深灰10YR5/2 内：深灰2.5Y4/3～網灰 10YR4/1
69・3	47	縦文土器	浅鉢	異原式	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部一部剥落等)、穿孔し た時に土器の表面に工具痕が現 れています。瓶底部は底面 丸み(穿孔部分はあまり摩耗し ていないよう)。	外：三方手 内：(口縁部) 剥落	0.1～2mmの砂粒を少し含 む	外：黄灰2.5Y5/1 内：深灰オリーブ5Y4/2
69・4	47	縦文土器	深鉢	無原式	N5	土器 だまり 2	7層	32.0	-	-	剥落(刻突文)、タテ方向の粗 い三方手	外：基底 内：基底	0.1～4mmの赤褐色粘子を 少し含む。0.1～3mmの砂 粒を含む	外：網灰10YR4/1 内：暗灰2.5Y5/2
69・5	47	縦文土器	深鉢	-	M6	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部) 剥落	外：基底 内：基底	0.1mm未満の砂粒を含む	外：深灰SY7/2 内：オリーブ灰5Y6/3
69・6	47	縦文土器	深鉢	-	M6	土器 だまり 2	7層	-	-	-	口縁部剖面、黒化のため調整不 明、瓶部突等	外：(基底) 内：(基底)	0.1mm未満の赤褐色粘子を 少し含む。0.1～3mmの砂粒を含 む	外：深灰2.5Y8/3 内：深灰SY8/2
69・7	47	縦文土器	深鉢7	異原式	M6・ NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	浮文(突起部 に粘土的な 箇所)、条 状(のち部分 に細い三方 手)	外：(箇所の 内：ナデ)	浮文(突起部 に粘土的な 箇所)、条 状(のち部分 に細い三方 手)	外：深灰2.5Y5/2 内：灰黄2.5Y6/2

井戸 番号	回収 番号	種別	断層	供用型式 (時期)	gd	道幅	層位	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	特徴	調整		地土	色調	
												外: 奈良	内: 奈良			
69・8	47	縦文土器	深鉢	-	M6	土器 たまり 2	7層	(32~ 40)	-	-	圓く、比叡が大きい	外: 奈良	内: 奈良	0.1~2mmの砂粒を含む	外: 田白SY7/2	内: 田白10Y8/2/1
69・9	47	縦文土器	浅鉢	(原田式 新段階)	N6	土器 たまり 2	7層	-	-	-	直化のため調整不明	外: -	内: -	0.1~3mmの砂粒を含む	外: 田白SY8/1	内: 田白オリ・ブ3Y6/2
70・1	48	縦文土器	深鉢	-	M5・ 6	土器 たまり 2	7層	(29.7)	-	-	口縁部に剥み、外周口縁部～ 底部、内底、底部に保付着	外: 二枚貝奈良 (口縁端子 下)	内: 口縁部2枚貝 奈良、頂部～ 底部ナデ	0.1~2mmの砂石の下の石 塊、(2mm)以下の砂石 塊、2mm以下4mm以下の砂 粒を多量に含む	外: にじい黄褐色10Y8/2/2 -灰黃褐色10Y6/2/	内: 黄褐色10Y8/2/1~黒褐色 10Y8/2/2
70・2	48	縦文土器	深鉢	(原田式 新段階)	-	土器 たまり 2	7層	-	-	-	口縁部剥離	外: 奈良	内: 奈良	0.1~2mmの砂粒を含む	外: 田白2.5Y7/2	内: 田白2.5Y7/3
70・3	48	縦文土器	深鉢	-	N5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	粗面	外: 奈良	内: 奈良	0.1~1mm以下の砂粒を含む	外: 田白2.5Y8/1	内: 黄褐色2.5Y4/1
70・4	49	縦文土器	深鉢	-	M6	土器 たまり 2	7層	(30.8)	-	-	通連剥皮文、円形浮文、刺突文	外: 二枚貝奈良 南側下底、2枚貝 等、巻貝奈良 のちナデ	内: 奈良	やや粗、径3mm以下の砂粒 を多く含む	外: 田白2.5Y8/2	内: 田白2.5Y8/1
70・5	48	縦文土器	深鉢	-	N5・ M5	土器 たまり 2	7層	(30.9)	-	-	脚部、肩部 外壁に刺突文。ほ ぼ全てに保付着	外: 奈良	内: ナデ	やや粗、(2mm)以下の石 塊、石英、4mm以下の砂 粒を多く含む	外: にじい黄褐色10Y8/3/3 -にじい黄褐色 10Y8/2/2	内: 黄褐色10Y8/3/1
70・6	48	縦文土器	深鉢	織原式	N5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	口縁部 剥皮文、黃赤色物 質・村着	外: 奈良 (巻 貝)	内: 奈良 (巻 貝)	0.1~2mmの赤褐色HII砂粒子 を含む 0.1~2mmの灰褐色H II砂粒子を含む	外: 田白2.5Y7/2	内: 田白2.5Y6/2
71・1	49	縦文土器	深鉢カ	-	M5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	直化のため調整不明	外: -	内: -	0.1~2mmの砂粒を含む	外: 墓田黄2.5Y4/2	内: 墓田黄2.5Y4/2
71・2	49	縦文土器	深鉢	-	M5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	-	外: ナデ	内: -	0.1~2mmの石 塊、(1mm)以下の石 塊、2mm以下の長石、4mm以下の 砂粒を多く含む	外: はる川10Y8/4/2、灰 褐色2.3Y7/2	内: 黄褐色2.3Y4/1~灰白 2.3Y8/1、灰褐色 10Y8/4/2
71・3	49	縦文土器	深鉢	-	M5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	口縫ひじょうに第1 段	外: ナデ	内: ナデ	やや粗、(2mm)以下の石 塊、角石、砂粒を多く含 む	外: 墓田黄2.5Y6/6	内: 墓田黄10Y8/4/2
71・4	49	縦文土器	浅鉢カ	-	M5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	粗面は粘土隕り付けてなく、粘 土層合部から、(口縫端部)一 条の注跡。(体部)一条の注跡。 剥離状 (剥皮文)、直底のち三 方ガニカ	外: ミガニ	内: ミガニ	0.1~5mmの赤褐色物質を 含む 0.1~3mmの砂粒を含 む	外: 墓田黄2.5Y5/2	内: 墓田黄2.5Y5/2
71・5	49	縦文土器	浅鉢カ	(原田式 新段階)	M6	土器 たまり 2	7層	-	-	-	浮文	外: ミガニ	内: ミガニ	0.1mm前後の砂粒を含む	外: 田白オリ・ブ3Y4/4	内: 田白オリ・ブ3Y4/4
71・6	49	縦文土器	浅鉢	-	M5	土器 たまり 2	7層	(28.8)	-	-	剥皮、ナデ、肩部の剥皮カ	外: ナデ・剥皮	内: ナデ・剥皮	やや粗、径1mm以下の砂粒 を多く含む	外: 黄褐色10Y8/6/2	内: 墓田黄2.5Y5/2
71・7	49	縦文土器	浅鉢	(原田式 新段階)	N5・ M5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	直化が激しい	外: ミガニ	内: ミガニ	0.1~2mmの砂粒を少し含 む 0.1mm未満の粒子を多く含 む	外: 田白オリ・ブ3Y4/4	内: 田白SY4/1
71・8	49	縦文土器	浅鉢カ	(原田式 新段階)	M5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	-	外: ミガニ	内: ミガニ	0.1mm未満の粒子を含む 0.5mm前後の赤褐色物質を 含む	外: 田白オリ・ブ3Y4/4	内: オリ・ブ3Y3.5/3
71・9	49	縦文土器	浅鉢	-	N5・ M5	土器 たまり 2	7層	(33.0)	14.4	-	方形浅鉢、波状口縁	外: 口縫部～脚部 間隔部上と下方 ナデ・剥離端部 部以下直底	内: ミガニ、(二 枚貝奈良のち カズリ)、粗 いカズリ	0.1~2mmの砂粒を含む 0.5mm未満の粒子を多く含 む 1mm以下の砂粒を含む	外: はる川10Y8/4/2~灰 褐色2.3Y7/2	内: 墓田黄10Y8/4/1~灰 褐色10Y8/3/1
71・10	49	縦文土器	浅鉢	-	M5	土器 たまり 2	7層	-	-	-	ところどころに二枚貝奈良部 が残る	外: ミガニ	内: ミガニ	0.1~2mmの砂粒を含む 0.5mm未満の粒子を多く含 む	外: オリ・ブ3Y3.5/3	内: オリ・ブ3Y3.5/2

神田 番号	因版 番号	種別	基盤	併行式型 (時給)	g/d	造様	部位	口径 (cm)	最高 (cm)	直径 (cm)	特徴	調査	地土	色調
71-11	49	繩文土器	深鉢	-	NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部) 三 方キ (底) 内: 二枚貝垂直	外: 外面に粗いミガキもしくは塗 面か、二枚貝垂直	外: 0.1~2mmの赤褐色粒子 (?) を含む0.1~3mmの 砂粒を少し含む0.1mm未満 の粒子を多く含む	外: 黄灰2.5Y6/1
71-12	50	繩文土器	深鉢	輪原式	NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部)に剥目、外面埋付着	外: 二枚貝垂直	外: やや暗、0mm以下の塵 や石英、長石、3mm以下 の砂粒を多量に含む	外: 黄黄2.5Y6/2~橙 SYR6/8
71-13	50	繩文土器	深鉢	-	NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部)に剥目、裏面外面に剥 皮文	外: 二枚貝垂直、 ナデ	内: やや暗、1mm以下の塵 や石英、長石、3mm以下 の砂粒を多量に含む	外: 黄黄2.5Y7/2~黄灰 SYR6/4~ SYR6/2
71-14	50	繩文土器	深鉢	-	NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	剥目、瘤痕のこる	外: 二枚貝垂直	外: やや暗 (径2mm以下 の砂粒を多く含む)	外: 黄黄2.5Y6/3
71-15	50	繩文土器	深鉢	カ	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部) 剥目、馬化のため 調整不明、幅約1mm、長さ約3cm の孔あり、剥成前 (有機質の痕 跡)	外: -	内: 0mm前後の砂粒を含む	外: 黄灰2.5Y7/2
71-16	50	繩文土器	深鉢	-	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(端部) 剥目 (剥皮文)、二枚 貝垂直	外: ナデ (端 部) 剥目 (剥 皮文)	外: 0.1~3mmの砂粒を含む	外: 黄黄2.5Y7/2
71-17	50	繩文土器	深鉢	-	NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部)に剥目	外: ナデ	外: 0.1mm未満の塵や 石英、長石、5mm未満の砂粒 を多く含む	外: 黄黄2.5Y6/3
72-1	51	繩文土器	深鉢	-	M5	土器 だまり 2	7層	(38.4)	-	-	(口縁部) 内面に孔文列、連続剥皮文	外: ナデ、帶状 瘤痕	外: やや暗、径1mmの砂粒を多く 含む	外: 黄黄2.5Y6/2
72-2	50	繩文土器	深鉢	-	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁内部に孔文列、内面有機質 質?あり)、馬化のため調整不 明	外: 調整不 明	内: 0.1mm未満の赤褐色物質 を含む、0.1~1mmの砂粒を含む 赤褐色物質を含む、0.1~ 1mmの砂粒を含む	外: 淡黄2.5Y7/3
72-3	50	繩文土器	深鉢	-	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁内部に孔文列、削成して て調整不明、剥皮文)	外: 調整不 明	外: 0.1mm未満の赤褐色物質 を含む、0.1~1mmの砂粒を含む 赤褐色物質を含む、0.1~ 1mmの砂粒を含む	外: 淡黄2.5Y7/3
72-4	50	繩文土器	深鉢	カ	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁内部に孔文列、高化のため 調整不明、剥皮文)	外: 調整不 明	外: 0.1~2mm前後の砂粒を含 む	外: 黄黄2.5Y6/2
72-5	50	繩文土器	深鉢	輪原式	NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	原田式 口縁内部に孔文列、口 縁部表面に黒色粒子を含む(有機 物が馬化したものかどうかはわ からない)	外: 未痕 (基 盤)	外: 0.1~4mmの黒色粒子を含 む	外: オリ・ブ系SY3/1
72-6	50	繩文土器	深鉢	-	NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	外面埋付着	外: ナデ	外: やや暗、2mm以下の石英、 長石、4mm以下の砂粒を多 く含む	外: 黄黄2.5Y7/2
72-7	52	繩文土器	浅鉢	(原田式 斜傾斜)	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	原田式斜傾斜 口縁部上面に 剥目、(三方キ)の黒色物質付 着	外: ミガキ (のち 黒色物質付着 顔料)	外: 0.1~3mm以下の砂粒を含 む、0.1mm未満の粒子を含 む	外: オリ・ブ系SY3/1
72-8	52	繩文土器	浅鉢	輪原式	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	原田式 内面孔なり (有機物 質ではないかもしれない)	外: 正三 方キ (口縁部) 三 方キ (底部) 二枚貝垂直	外: 0.2mmの赤褐色粒子を含 む、0.1~2mmの砂粒を少 し含む	外: 黄黄2.5Y5/2
72-9	52	繩文土器	浅鉢	輪原式	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	原田式 内面一部赤褐色物質付着 (外見もなし)、外面部赤色に 変色している	外: 三 方キ (底部) 二枚 貝垂直	外: 0.1mmの赤褐色粒子を少 し含む、0.1~2mmの砂粒を少 し含む	外: 黄黄2.5Y4/1
72-10	52	繩文土器	浅鉢	-	NS	土器 だまり 2	7層	-	-	-	外: 三 方キ 二枚 貝垂直	外: 正三 方キ 二枚 貝垂直	外: 0.1mm未満の砂粒多 く含む	外: 黄黄2.5Y3/1
72-11	52	繩文土器	浅鉢	-	M5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	外: 三 方キ 二枚 貝垂直	外: 正三 方キ 二枚 貝垂直	外: 0.1mm未満の砂粒多 く含む	外: 黄黄2.5Y4/1

井田 番号	回版 番号	種別	器種	併行式 (時間)	gd	構造	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	特徴	測量	地土	色調
72 - 13	51	縄文土器	深鉢	-	N5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部) 刻文(口内)、 内面凸あり	外: 内:	黄灰2.5Y4/1 内: に深い黄2.5Y6/3	
72 - 14	52	縄文土器	浅鉢	繩原式	N5	土器 だまり 2	7層	-	-	-	(口縁部) 三 方孔、二枚負荷 底孔	外: 内:	灰2.5Y4/1 内: オリ・ブラン10YY3/2	
75 - 1	53	縄文土器	粗製深 鉢	繩原式	L6	-	8層	-	-	-	内口周に方形工具による刻文。 外口周に内貝頂7による刻文。 底部に二枚貫7条痕、ナタ由 の跡有る。外腹面わずかに有る	外: 内:	赤黒褐10Y9/2 内: に深い黄褐10Y9/2	
75 - 2	53	縄文土器	深鉢カ	繩原式	M5	-	8層	-	-	-	口縁部上面に刮削、外腹孔取 り、外腹(巻貝カ)条痕	外: 内:	暗灰黄2.5Y5/2 内: に深い黄2.5Y6/3	
75 - 3	53	縄文土器	浅鉢	-	N6	-	8層	-	-	-	口縁部底面あり、ほぼ全面保 有る	外: 内:	灰2.5Y4/2 内: 灰黒褐10Y9/5	
76 - 1	53	縄文土器	鉢 両ツ鼻式	L6	-	10層	-	-	-	-	縁口内に徑合有るあり、口縁と 側面の横文が原体同じ。口外外 部無し。頂部外腹面引出横文 有る。	外: 内:	灰2.5Y4/2 内: 灰2.5Y8/2	
76 - 2	53	縄文土器	深鉢	-	M6	-	10層	-	-	-	外腹若干保有る	外: 内:	灰黒褐10Y9/6/2 内: 灰白10Y9/7/1	
76 - 3	53	縄文土器	深鉢	-	M6	-	10層	-	-	-	外腹若干保有る。全体底面して いる。調査不明	外: 内:	に深い赤褐5Y8/4 内: に深い灰7.5Y6/4	
76 - 4	53	縄文土器	深鉢	-	M6	-	10層	Q2.0	-	-	外腹一部保有る	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: に深い黄褐10Y9/3/	
76 - 5	53	縄文土器	深鉢	-	M6	-	10層	-	-	-	口縁部断下にわずかに横線有 り。内腹条痕見るが底面して 整体不明。底面の内調整不明	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰2.5Y7/7	
76 - 6	53	縄文土器	深鉢	繩原式カ	M5	-	10層	-	-	-	口縁部断下にわずかに横 面	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰2.5Y7/7	
76 - 7	53	縄文土器	深鉢	繩原式カ	M5	-	10層	-	-	-	底面していて調整不明	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰2.5Y7/1	
76 - 8	53	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	10層	Q2.0	-	-	口縁部刮削	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰2.5Y5/1	
76 - 9	53	縄文土器	深鉢	-	L5	-	10層	Q2.0	-	-	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰黒褐10Y9/6/2		
77 - 1	52	縄文土器	口上土 器	後期 光矢吉山 式～ 宮原式	M6	-	10層	Q1.0	23.0 (16.0)	-	外腹口縁。盤部は曲筋、肩部に 凹線。凹線に基部直角(4個 所)。凹線内ナテ。凹線は横線 後に斜状直角。斜状直角の内側 に粘土込み出し、肩部の凹線は 主に縦方向で連切れる。底面良好	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰2.5Y7/3	
78 - 1	53	縄文土器	深鉢	後期 磯ツ鼻 式カ	M6	-	11層	-	-	-	外腹横文有り、底面の内調整不明	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰2.5Y8/2	
78 - 2	53	縄文土器	浅鉢カ	-	M6	-	11層	-	-	-	底面の内調整不明	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰2.5Y6/1	
78 - 3	54	縄文土器	深鉢	-	M6	-	11層	-	-	-	外: 内:	灰2.5Y7/2 内: 灰2.5Y7/3		

神田 番号	国版 番号	種別	基盤	併用型式 (時期)	gd	造様	部位	口径 (cm)	最高 (cm)	進深 (cm)	特徴	調整	胎土	色調
78-4	53	碗文土器	深鉢	-	M6	-	11層	-	-	-	外：外温度調整不明 内：普段条件 ナ デ	外：径2mm以下の砂粒多く 内：含む。径2mm/2	外：灰黄5Y6/2 内：灰黄5Y6/2	
78-5	53	碗文土器	浅鉢 後削 宮庭式か	M6	-	11層	-	-	-	-	外：外温度調整不明 内：普段条件 ナ デ	外：径2mm未溝の砂粒多く 内：含む。普段含む	外：灰黄褐10Y9R/2 内：暗紅N3/1	
86-1	54	漆器器	高脚 脚部か	-	89	-	-	-	-	(17.8)	-	外：回転ケズリ脚 内：回転ケズリ脚 回転ケズリ脚 内：回転ケズリ脚	1mm大の白色砂含む。2mm 大の黑色砂含む。石裏被 砂含む	外：灰N4/ 内：灰N6/
86-2	54	漆器器	長脚 脚部	-	89	-	-	-	-	(9.2)	-	外：回転ケズリ脚 内：回転ケズリ脚 回転ケズリ脚 内：回転ケズリ脚	1mm大の白色砂、黑色 砂含む	外：灰白N7/ 内：灰N6/
86-3	54	漆器器	杯	-	89	-	-	-	-	(17.1)	外：回転ケズリ脚 内：回転ケズリ脚 回転ケズリ脚 内：回転ケズリ脚	1mm大の白色砂、黑色 砂含む	外：灰N4/ 内：灰N6/	
86-4	54	漆器器	蓋	-	89	河渠跡	-	-	-	(12.6)	漆器内面に自然焼付着	外：回転ケズリ脚 内：回転ケズリ脚 回転ケズリ脚 内：回転ケズリ脚	1mm大の白色砂粒含む。3mm 大の黑色砂含む	外：灰白N7/ 内：灰N6/
86-5	54	土師器	杯	-	89	-	-	-	-	(8.8)	-	外：ケズリ脚回転 内：ケズリ脚回転 ケズリ脚回転 内：ケズリ脚回転	1mm～4mm大の石、1mm ～3mmの石、砂粘土 砂粘含む	外：浅黄褐10Y9R/3～褐 5Y8/6 内：灰白5Y8/4
86-6	54	土師器	皿	-	河渠跡	暗灰色土	-	-	-	(4.3)	外：ケズリ脚回転 内：ケズリ脚回転 ケズリ脚回転 内：ケズリ脚回転	1mm大の長石粒含む	外：浅黄褐10Y9R/3/ 内：灰白10Y9R/2	
86-7	54	土師器	柱状高 台皿	-	A10	水路 造様	暗灰色 土	-	-	3.6	外：ナ 内：ナ ナ 内：ナ	1.5mmの大粒砂、2mm 大の長石粒含む	外：浅黄褐7.5Y8R/4 内：浅黄褐7.5Y8R/6	
86-8	54	瓶器	中国 青花	-	A10	暗綠色土 (砂波じ る、東瓦 の出る 屋、壁土	-	-	-	(6.3)	削込みの文様は牡丹か。蓋台 押止め痕。蓋台内面に「至治年 製」の銘あり	外：回転ナ 内：回転ナ	外：灰N4/ 内：灰N6/	
86-9	54	陶器	石見燒 灰	-	89	-	6層	-	-	(17.1)	嘉慶～明治	外：灰白5Y7/2 内：灰白5Y7/3	外：灰N4/ 内：灰N6/	

gdはグリッドを表す

石器観察表

博団番号	回収番号	石材	器種	gd	道横	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴
18-7	26	(泥質片岩)	打製石斧	L4	SX1	3層	8.9	6.8	2.0		破損したなどのため再利用(再加工されたか)
18-8	26	デイサイト	擦石/敲石	L4	SX1	3層	7.7	7.0	4.7		側縁にも細かな敲打痕あり
23-6	26	碧玉	石錐	L4(or L5)	SK2	3層	(1.6)	(1.15)	0.3		
23-7	26	(碧玉)	石錐	L4	SK2	3層					
30-15	28	流紋岩	打製石斧	L7	SR1	砂礫層	19.3	9.8	3.4		
32-1	30	安山岩	石錐	N5	SR2	砂礫層	1.7	1.25	0.25		
32-2	30	基灰岩	擦石/敲石	N4	SR2 (排水溝)	青灰砂礫層	10.3	7.6	4.5		
32-3	30	デイサイト	擦石/敲石	O4	SR2	青灰砂礫層	10.01	8.85	5.25	480	
32-4	30	基灰岩	擦石/敲石	N4	SR2 (排水溝)	青灰砂礫層	10.4	9.1	5.9	455	
32-5	30	砂岩	石皿		SR2	砂礫層	(27.3)	16.7	5.4	[3660]	欠損品か、片面に木の実を埋った痕か
34-5	31	緑色片岩	磨製石斧	M4	SR3		(12.6)	4.6	3.1	304	刃部欠損
36-25	33	—	(摩石か)	L4	-	黄褐色粘土	8.1	8.0	4.0	33.8	両面利用。特に片側の側面及び片面平坦面の利用頻度は高い。川原石を利用
39-20	33	安山岩	石錐	M6	-	5層					先端僅かに欠くが基部までほぼ完形
47-5	35	(安山岩)	磨製石斧		土器だまり1	6層	9.9	4.6	1.4	96	
49-9	38	安山岩	石錐	M5	土器だまり1	6層	3.7	1.9	1.0		
49-10	38	安山岩	石錐	M4	土器だまり1	6層	1.8	1.2	3.5		
51-20	39	泥質片岩	打製石斧	M5	-	6層	(11)	(7.8)	(2.6)	[348]	
53-9	41	(玉隨)	スクレイバー	L6	-	6層	5.6	5.8	3.5		
62-26	44	サヌカイト	スクレイバー	M5	-	7層	4.0	4.4	0.9		
63-8	45	流紋岩	打製石斧	L5	-	7層	13.2	7.9	1.7	192	欠損した石錐を再び石錐として利用したものと思われる、両端同位置に刃流れ
69-10	47	泥質片岩	打製石斧	-	土器だまり2	7層	13.4	5.8	2.3	230	基部近くの片側面に刃流れ
72-12	51	サヌカイト	石錐	M5	土器だまり2	7層	(8.7)	(1.5)	(0.6)	7	先端部分欠損
73-1	51	デイサイト	擦石/敲石	M5	土器だまり2	7層	11	12.3	6.4		
77-2	52	基灰岩	敲石	M5	-	10層	14.8	7.2	4.8		
77-3	52	安山岩	打製石斧	M6	-	10層	11.0	7.5	2.4		
86-10	54	砂岩	砥石	-	河遺跡	暗灰色土	8.5	7.4	3.2	[200]	磁面は非常に滑らか。両面共に緩やかな跡が見られる
86-11	54	砂岩	砥石	-	河遺跡	5-8層 暗灰色土	4.75	9.3	5	332	磁面は非常に滑らか。自然面。一部輝付着

gdはグリッドを表す

木器観察表

博団番号	回収番号	種別	器種	区	道横	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴	木取り
14-13	25	木製品	杭	M4		2層	17.4	6.7	2		
14-14	25	木製品	杭	M4		2層	10.5	6.7	2.6		
14-15	25	木製品	杭	M4		2層	11.1	(2.1)	(11.5)		
14-16	25	木製品	杭	M4		2層	11.1	(2.3)	(3.3)		

gdはグリッドを表す